六供下堂木Ⅱ遺跡

都市計画道路朝倉玉村線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1997

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

六供下堂木Ⅱ遺跡

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

六供下堂木Ⅱ遺跡水田址（古墳時代）

六供下堂木Ⅱ遺跡出土遺物

序

前橋の穀倉地帯、そんな言葉がぴったりするような広い農地が南に向かって広がる。秋には黄金色の稲穂の波がうねり、春には小麦、大麦の麦穂が波打つ前橋台地の一角に六供下堂木Ⅱ遺跡があります。

前橋市街地の拡大により、この付近も遺跡付近も市街化が進んでいます。

付近の地名には、中京安寺、南京安寺、中大門をはじめとした寺院に係わる小字名が残されております。このことから寺院跡が在ったことをうかがわせ、この地に文化が栄えていたことが想像されています。

発掘調査は都市計画道路朝倉玉村線道路改良事業に先立って行われたものです。

遺跡は古墳時代の水田跡と平安時代末期の水田跡の２面、古墳時代、奈良～平安時代の住居跡６軒、土坑19等が発見されました。

水田は古墳時代、平安時代の両面とも、小さな畦畔に囲まれていました。大畦畔の発見はできませんでしたので、条里制と関連づけるのは難しい状況ですが、周辺の水田跡との関連から見ていく上での資料になると思います。

また、長方形や円形、楕円形の土坑が発見されましたが、その性格を確定できるものの発見はできませんでした。形、大きさ、寺院跡の存在等から墓穴である可能性も考えています。今後の同様な資料の収集に努めていきたいと考えています。

現在も水田であり、また水田跡で湧き水が多く、加えて梅雨による多量な降水量により調査は困難をきわめました。排水ポンプのフル稼働と作業員さんの活躍でなんとか調査を終了出来たことを感謝申し上げます。

この地は平成９年度も引き続き発掘調査を継続する予定です。今回の調査を十分に生かして資料を積み重ねていきたいと考えています。ご一読いただき、ご指導、ご助言をいただければ幸いです。

平成９年３月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団長　中　西　誠　一

例　　言

1．本報告書は、六供土地区画整理事業に伴う六供下堂木Ⅱ遺跡発掘調査報告書である。

2．遺跡は、群馬県前橋市六供町667-3ほかに所在する。

3．調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団　団長　中西 誠一が施工者　前橋市長　萩原弥惣治と委託契約を締結し実施した。

調査担当者および調査期間は以下の通りである。

発 掘・整 理 担 当 者　坂口好孝・佐藤則和（前橋市埋蔵文化財発掘調査団調査係）

発 掘 調 査 期 間　平成８年５月１日～平成８年８月９日

整理・報告書作成期間　平成８年８月19日～平成９年３月19日

4．本書の原稿執筆・編集は坂口・佐藤が行った。整理作業をはじめ図版作成には、阿部シゲ子・神澤とし江・桐谷秀子・柳井晶子・高畑八栄子の協力があった。

5．発掘調査で出土した遺物は、当調査団より前橋市教育委員会に保管責任を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課収蔵庫で管理されている。

凡　　例

1．挿図中に使用した北は座標北である。

2．挿図に、建設省国土地理院発行の１／2.5万地形図（前橋）を使用した。

3．本遺跡の略称は８Ｈ２２である。

4．各遺構の略称は次の通りである。

Ｈ…住居址、Ｄ…土坑址、Ｗ…溝址

5．遺構・遺物の実測図の縮尺は次の通りである。

遺構　　住居址…1／60、水田址…1／100、1／200、 全体図…1／500、1／1000、

遺物　　土器・石器・土製品…1／1、1／2、1／3、1／4、2／3

目　次

序 …… i

Ⅰ 調査に至る経緯 …… 1

Ⅱ 遺跡の位置と環境

1 遺跡の立地 …… 1

2 歴史的環境 …… 1

Ⅲ 調査の経過

1 調査方針 …… 4

2 調査経過 …… 5

Ⅳ 層序 …… 6

Ⅴ 遺構と遺物 …… 7

Ⅵ 成果と問題点 …… 12

付編

六供下堂木遺跡の自然科学分析 …… 24

（株式会社　古環境研究所）

図　版

口絵　1　B－3区全景（古墳時代）

口絵　2　六供下堂木遺跡出土土器群

ＰＬ．1　A-1,2・B-1・C-3水田址(平安時代)

3　C-1,2,3水田址(平安時代)

5　E-4遺物出土状態・土坑

7　B-1,2・C-1,3水田址(古墳時代)

9　古墳～平安時代の土器（1）

11　古墳～平安時代の土器（3）

ＰＬ．2　B-1水田址(平安時代)・H-1,2,3,4,5,6

4　C-3,E-1水田址(平安時代)・E-4

6　E-5遺物出土状態・A-1,2・B-2水田址(古墳時代)

8　C-1,2・E-1水田址(古墳時代)

10　古墳～平安時代の土器（2）

12　古墳～平安時代の土器・石器・鉄製品・土製品

挿　図

頁

Fig. 1　六供下堂木Ⅱ遺跡の位置……v
Fig. 2　六供下堂木Ⅱ遺跡周辺図……vi
3　六供下堂木Ⅱ遺跡周辺遺跡図……2
4　グリッド設定図……4
5　調査経過図……5
6　標準土層図……6
7　六供下堂木Ⅱ遺跡全体図（古墳時代）…30
8　六供下堂木Ⅱ遺跡全体図（平安時代）…32
9　A－1区水田址（古墳時代）……34
10　A-2・B-1区水田址（古墳時代）…35
11　B－2区水田址（古墳時代）……36
12　E－1区水田址（古墳時代）……37
13　C－3区水田址（平安時代）……38
14　E－4区土坑址……39
15　B－3区住居址（1）……40
16　B－3区住居址（2）……41
17　H－1・4号住居址……42
18　H－2・3・5・6号住居址……43
19　E－4区トレンチ設定箇所……44
20　古墳～平安時代の土器（1）……45
21　古墳～平安時代の土器（2）……46
22　古墳～平安時代の土器（3）……47
23　古墳～平安時代の土器（4）・鉄器、石器、土製品 ……48

表

頁

Tab. 1　水田址計測表：古墳時代……17・18
Tab. 2　水田址計測表：平安時代……18
Tab. 3　畦畔計測表：古墳時代……19・20
Tab. 4　畦畔計測表：平安時代……20
Tab. 5　土器観察表……21・22
Tab. 6　鉄器・石器・土製品観察表…22
Tab. 7　鉄クズ観察表……23

調査参加者　阿部　こう　阿部シゲ子　井野　大造　落合　忠雄　落合　高男　神澤とし江　喜楽　トヨ
桐谷　秀子　桜井　弘　佐野勝次郎　下山　清保　中村新太郎　奈良　岩雄　原島　サイ
福島　逸司　矢島アイ子　柳井　晶子　石原　良雄　岩木　操　岸　フクエ　住谷　文彦
渡木　秋子　湯浅たま江　湯浅　道子　高畑八栄子

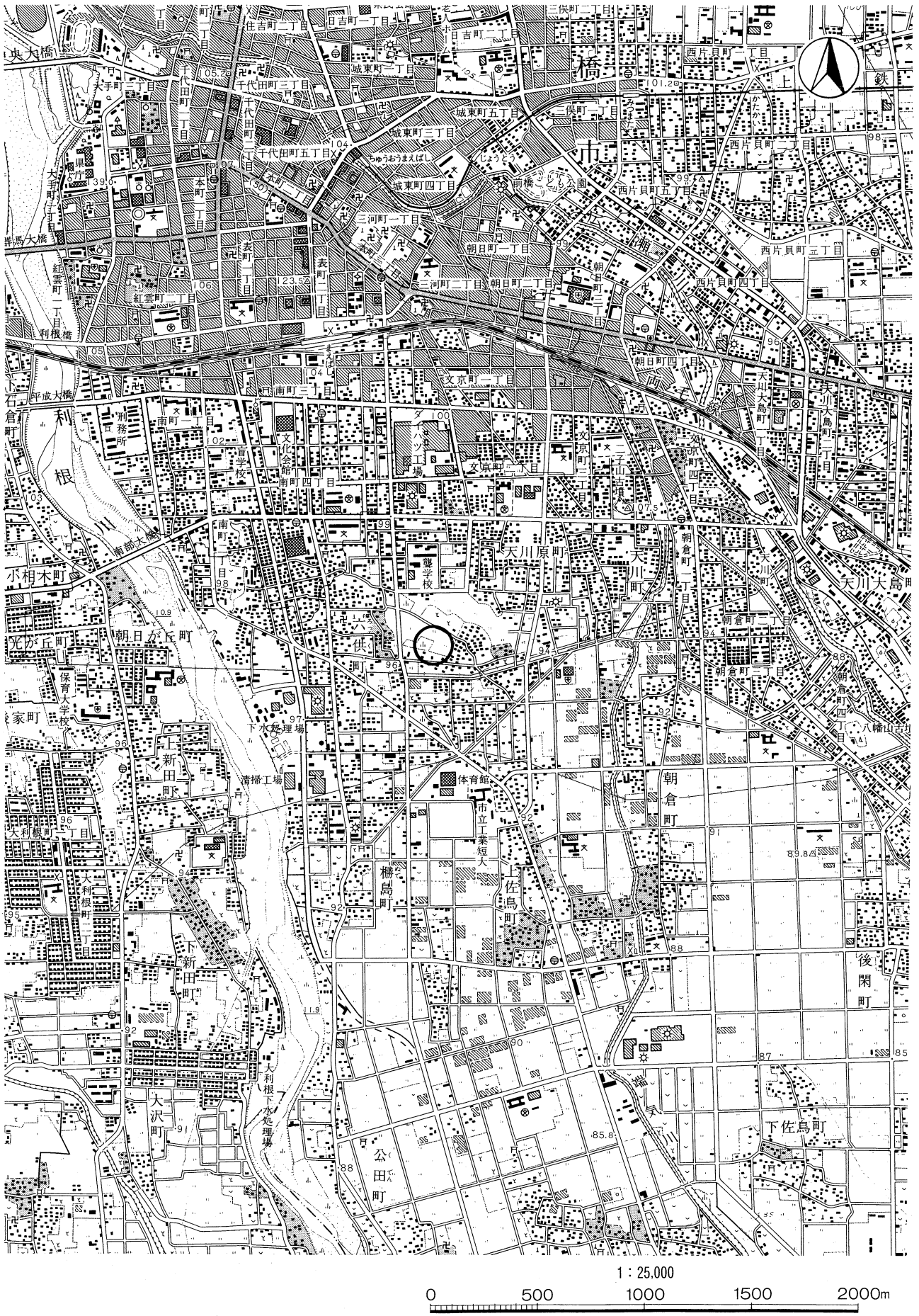


Fig. 1　六供下堂木Ⅱ遺跡の位置

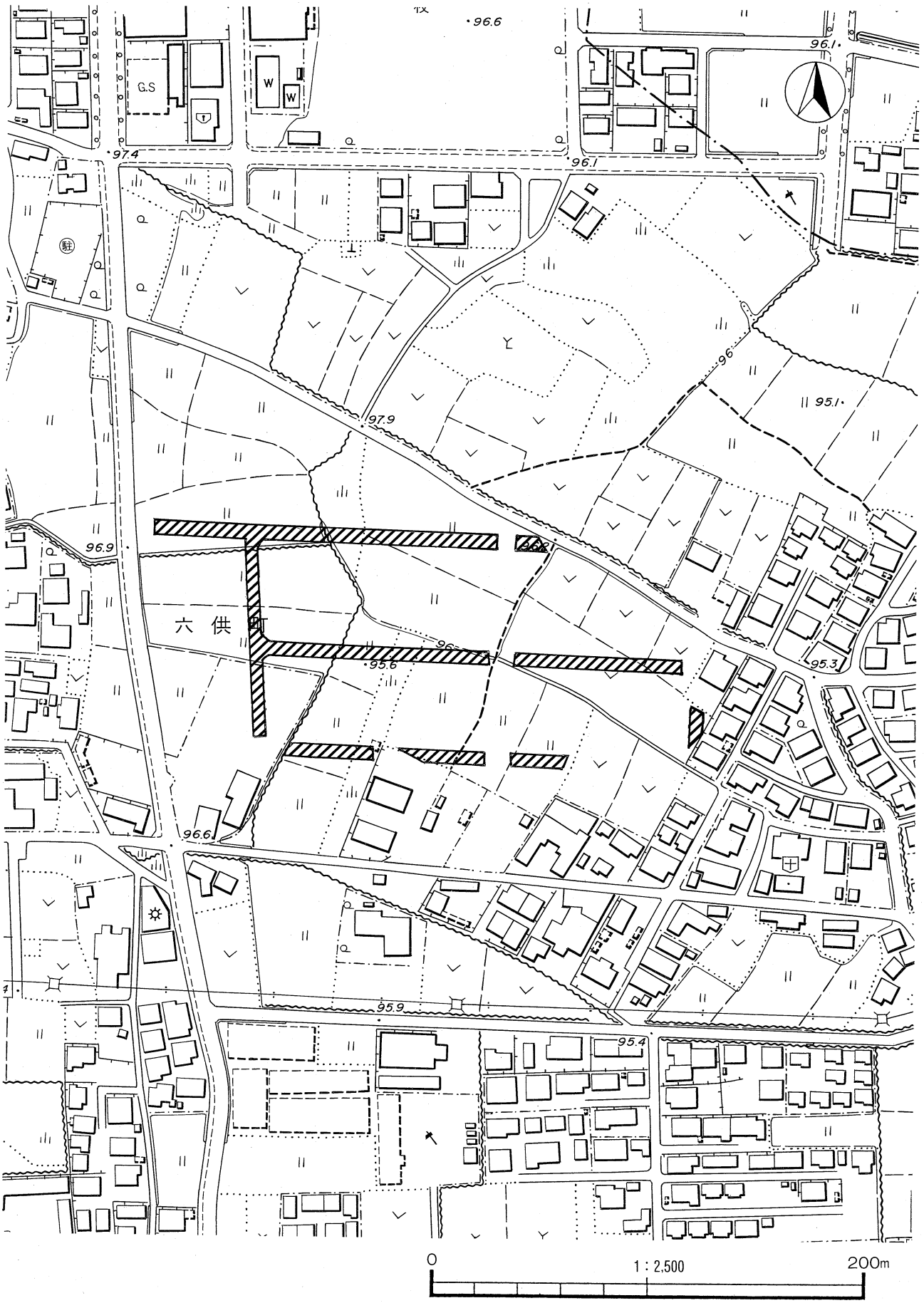


Fig. 2　六供下堂木Ⅱ遺跡周辺図

Ⅰ　調査に至る経緯

平成８年３月１日付で区画整理二課より六供町地内の六供土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財試掘調査依頼が前橋市教育委員会に提出された。これを受け、同年３月５・６日教育委員会文化財保護課で試掘調査を実施したところ、本調査地は遺跡地であることが判明した。そこで、区画整理一課と協議・調整を行い、８年４月５日、前橋市長より前橋市教育委員会あてに本発掘調査の依頼がなされた。前橋市教育委員会が組織する前橋市埋蔵文化財発掘調査団はこれを受諾し、４月24日両者の間で本発掘調査の委託契約を締結、５月１日、現地での発掘調査を開始するに至った。また、７月22日付で区画整理一課より同調査区の北側に当たる幅13ｍの道路部分の発掘調査が緊急に必要になったとの協議があり、７月23日に幅13ｍの道路部分（面積2,500㎡）を加えた変更契約を締結した。なお、遺跡名称『六供下堂木Ⅱ遺跡』の『下堂木』は旧地籍の小字名を採用している。

Ⅱ　遺跡の位置と環境

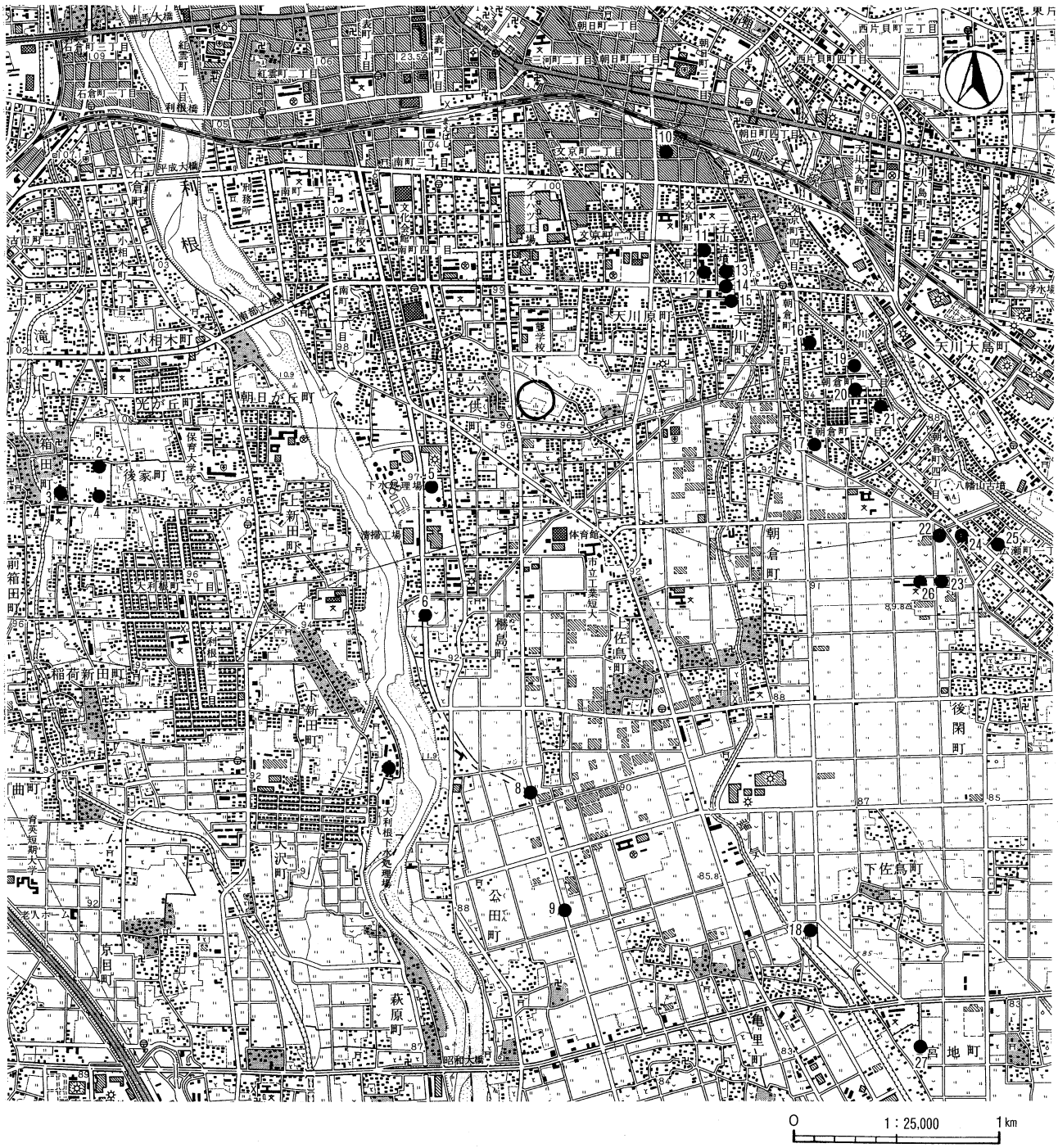
１　遺跡の立地

六供下堂木Ⅱ遺跡は前橋市街地の南方にあり、ＪＲ前橋駅の南約1.5㎞に位置する。この町の周りには、利根川左岸に櫛島町・上佐鳥・公田・朝倉・後閑・南町の町々が点在している。遺跡地の地番は前橋市六供町667-1番地ほかである。遺跡地の周囲は幹線道が走っている。調査区西端に接して、国道50号より真っすぐに南下する幹線が走り、前橋玉村線と交差する。また、１㎞程北には県道２号前橋館林線が東西に走り、さらにその北約200ｍをＪＲ両毛線が東西に走る。そして、これらの幹線に沿って市街化が進み、前橋市清掃工場、下水処理場をはじめ、工場や住宅街が遺跡地を取り囲むように立ち並んでいる。

遺跡地の立地は、前橋市の南部及び西部を北西から南東に広がる前橋台地の東方、利根川左岸に位置し、標高約96ｍの平坦な土地である。前橋台地は、火山泥流堆積物とそれを被覆する水成ローム層から成り立つ洪積台地で、東は広瀬川低地帯と直線的な崖で画され、西は榛名山麓の扇状地へと続いている。なお、本遺跡のすぐ西側を流れる利根川はかつて広瀬川低地帯を流れていたと考えられており、現在の位置に変流したのは、中世末頃とされている。

２　歴史的環境

本遺跡地の歴史的環境について概観してみたい。まず、先土器時代から縄文時代にかけては、人々が生活するのには適さなかった土地と思われ、その時代の人々の痕跡は見られないと考えられていた。しかし、平成６年に行われた櫛島川端遺跡において、上部ローム層に被覆された泥流丘上（赤城山起源の流れ山の一つが前橋泥流によって運ばれたものと見られる）で縄文時代草創期後半の「撚糸文式土器」が２点発見され、本地域の歴史を一挙に数千年さかのぼらさせた。このことはこの時期すでにこの地域が生活の舞台となっていたことを示している。また、ここでは弥生時代後期前半の集落と中期後半の再葬墓一カ所が発見された。住居は炉址や柱穴などが明確にそろっているものは２軒のみであり、再葬墓はほぼ完形の甕に胴下半の一部をかぶせた状態で出土していた。いずれも縄文系の土器を使用している。また、後閑町の広瀬団地付近で宅地造成中に「樽式土器」の甕棺が出土している。さらに、隣接する高崎市においては、日高遺跡、新保遺跡、大八木水田遺跡、中尾村前遺跡、新保田中遺跡、西島遺跡群、西横手遺跡等からＡｓ－Ｃ軽石（浅間



1	六供下堂木Ⅱ遺跡	2	五反田遺跡	3	村前遺跡	4	五反田Ⅱ遺跡
5	中大門遺跡	6	櫛島川端遺跡	7	下新田遺跡	8	公田東遺跡
9	公田池尻遺跡	10	不二山古墳	11	寄居遺跡	12	県立文書館遺跡
13	天川二子山古墳	14	二子山Ⅳ遺跡	15	二子山Ⅱ遺跡	16	小旦那古墳
17	鎮守廻り遺跡	18	川曲遺跡	19	朝倉Ⅱ号墳	20	長山古墳
21	朝倉一号墳	22	後閑団地遺跡	23	後閑Ⅱ遺跡	24	坊山遺跡
25	天神山古墳	26	後閑遺跡	27	宮地中田遺跡		

Fig. 3　六供下堂木Ⅱ遺跡周辺遺跡図

山起源；４世紀中頃）下の弥生水田址が検出されている。

古墳時代に入ると、市内でも有数の古墳群地帯を見ることができる。広瀬川の右岸の低い崖の上には、旧市域から旧上陽村の東善にかけて、約5.5㎞にわたり、幅約70ｍの帯状に連なる古墳群が存在した。昭和10年の県下一斉調査では、前橋市15基、 旧上川淵村113基、隣接する旧上陽村41基を数えた。しかし、戦前、戦中、戦後の開墾や、昭和30年以降顕著になった宅地造成事業等により、大半は未調査のまま平夷されてしまった。現在、周堀を含めた大きさ実に南北約180ｍ、東西約125ｍの規模をもつ八幡山古墳（国指定史跡、４世紀後半、前方後方墳）、全長129ｍの後閑天神山古墳（県指定史跡、 ４世紀後半、前方後円墳）推定全長約60ｍの亀塚山古墳（市指定史跡、６世紀前半、帆立貝式古墳）、全長52.5ｍ、出土遺物に新羅（韓国慶州）の古墳出土の金冠に類似した宝珠型の金胴製の冠をもつ金冠塚古墳（市指定史跡、７世紀前半、前方後円墳）、現状25ｍの径をもつ経塚古墳（市指定史跡、７世紀、円墳）等に、当時の古墳群の片鱗を窺うことができる。これらの古墳群が形成された背景には、有力な豪族とそれを支えた人々の存在が想起され、当地域が古墳時代の初期から継続的な発展をしていてたことは容易に推測されよう。

また、住居址関係では古墳前期（石田川期）の後閑団地遺跡、古墳後期（鬼高期）の後閑遺跡、坊山遺跡、川曲遺跡、下新田遺跡、 川曲遺跡などが報告されている。

さらに、水田址関係では、Ｈｒ－ＦＡ（榛名山二ツ岳起源；６世紀初頭。古墳時代）下の水田が、櫛島川端遺跡、公田池尻遺跡、公田東遺跡で確認されている。これらの水田はいずれも地形の傾斜に沿った小区画のものである。

奈良・平安時代の遺跡については、後閑団地遺跡、後閑遺跡で、真間、国分期の住居跡や掘立柱建築遺構が検出され、水田址については、五反田遺跡（箱田町）で1108年（天仁元年）の浅間噴火に伴うＡｓ－Ｂ軽石に埋没した平安時代末期の水田（以後、Ａｓ－Ｂ下水田と記述する）14枚が検出された。形状は長方形もしくは正方形、面積110～140㎡のものである。畦畔はすべて東西方向か南北方向のいずれかで、水口が一カ所しか検出されなかったことを考えると、給水の方法は、標高の高い水田が満水になった後、畦畔をオーバーフローした水が順次低位の水田へ流れ込む、いわゆる「かけ流し」の方法をとっていたものと考えられる。また、県立中央高校東に位置する柳橋遺跡（川曲町）においても同様のＡｓ－Ｂ下水田が23枚検出された。2000㎡と調査範囲が狭いため坪境や坪交点こそ検出されなかったが、各水田を区画する畦畔がほぼ東西・南北に走行し、互いに直行する規則性を維持していること、また、同一坪内に存すると思われる区画では、水田の形もすべて南北に長辺をもつ長方形であることなどから、条里制に起因する一定の規格性を持つものと考えられる。

本遺跡の所在する前橋台地周辺は、1970年代から1980年代にかけて上越新幹線や関越自動車道の建設に伴い、高崎市域を中心に大規模な古代水田の発掘が盛んに行われてきた地域である。特に利根川以西の前橋台地上においては、元総社を中心とした上野国府域に接していることもあり、条里水田の復元を目標にした平安時代水田址の調査が活発に行われてきた。本遺跡も隣接する南町に市之坪、一町田という地名が残り、南の公田町には三公田という地名が残されており、周辺には律令制（条里制）にかかわる水田址が存在する可能性がある。そして今後も調査例の増加が予想される前橋台地上のＡｓ－Ｂ軽石下水田址の分析とともに、他地域にも目を向け、818年（弘仁元年）の地震に伴う洪水に埋没した水田址等、条里制施行時期の形態に一歩でも近づく発掘調査の成果が期待される。

最後に、本遺跡地の所在する六供町には、中京安寺、南京安寺、北大門、そして中大門と、寺院に係わる小字名が残されており、寺院関係の遺跡が存在する可能性もあることを申し添えておく。

Ⅲ　調査の経過

1　調査方針

委託された調査箇所は幅６ｍと幅13ｍの道路部分5,861㎡である。調査区の呼称方法については、調査範囲の形状から全体をＡ、Ｂ、Ｃ、Ｄ、Ｅ、Ｆ区の６調査区に区分し、さらに、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｅについては、１～５までに小区分した。

グリッドについては、４ｍピッチで西から東へＸ１．Ｘ２．Ｘ３・・・と、北から南へＹ１．Ｙ２．Ｙ３・・・と番付し、グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。

Ｘ40・Ｙ22の公共座標は

第系　　＋41052.0ｍ（Ｘ）　　－67420.0ｍ（Ｙ）

緯度　　36°22′03″.6351　　経度　139°04′54″.9156

子午線収差角　26′44″.1　　増大率　0.999956　　である。

調査方法については、Ａ区から表土掘削・遺構確認・杭打ち・遺構掘り下げ・遺構精査・測量全景写真の順序で行うことにした。

図面作成は、平板・簡易遣り方測量を用い、水田址は1／40、住居址は1／20の縮尺で、住居址竈は1／10の縮尺で作成した。遺構の遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録をとりながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納したが、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。また、プラン確認の段階で1／100の現況図を作成し、その後の調査に活用した。

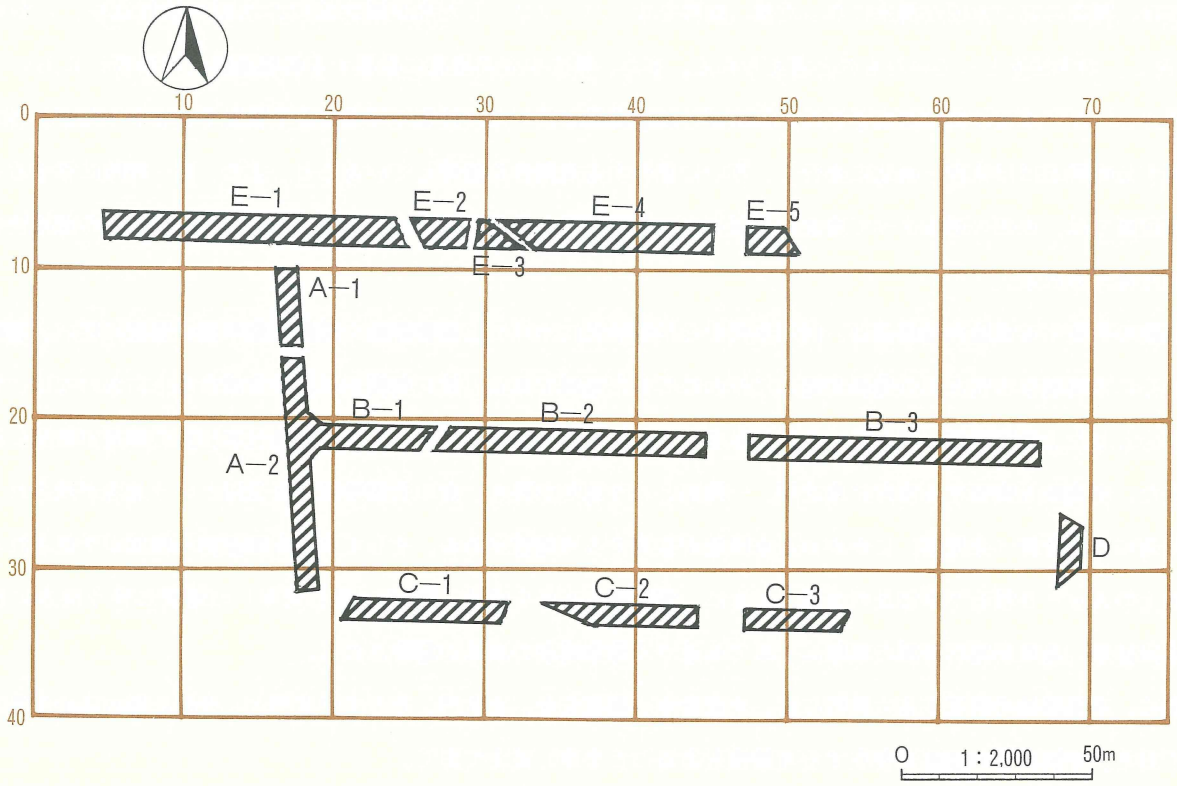


Fig. 4　グリッド設定図

2　調査経過

5月1日より重機（バックフォー0.4m³）を投入してＡ－１区の北から表土掘削を開始した。厚さ4～50cm前後の現耕作土の下にＡｓ－Ｂ（浅間Ｂ軽石：1108年）が３～５cmの厚さで堆積し、この層の直下に平安時代遺構面が検出された。順調なスタートを切ったと思われたが、５月８、９日に雨が降り、Ｂ－３区を除く全調査区が水没するアクシデントに見舞われた。当地は水はけが悪く、特に北西から南東にかけてのＡ、Ｂ－１・２、Ｃ区はひどかった。そのため、水が引け次第、調査区ごとに仕上げていく方針をとった。水中ポンプをフル稼働し、水対策をしながら水没していないＢ－３区に入った。Ｂ－３区はＡｓ－Ｂの純層があまり見られず、遺構面はＢ軽石混じりの土で土器の破片が多数出土した。今までの水田面とは異なるため判断に頭を悩ませたが、とりあえず中央部を下げて調査をすることにした。Ｂ－３区を進めて行く間に水没していた調査区も水が引き始めたが、遺構面からも水が湧き出てくる箇所が出始めた。

６月は梅雨に入ってしまったが、梅雨の合間を見て水の引いている調査区の掘り下げ、精査を急いだ。６月14日に地質調査を実施。分析結果からＨｒ－ＦＡ（榛名二ッ岳渋川テフラ：６世紀初頭。古墳時代）直下からイネのプラントオパールが検出されたため、２面目の調査が必要となった。１面目を早急に仕上げ、６月18日にハイライダーによる１面目の全景写真を撮影した。北側の幅13ｍの道路部分Ｅ－１～５区の表土掘削、遺構面の確認も平行して行った。Ｅ－１区は、Ａｓ－Ｂが厚く堆積しており水田面は比較的容易に確認できたが、ここも湧水がひどかった。Ｅ－２・３・４区と精査を進めるにつれ、遺構面は水田の粘り気のある黒土ではなく、軽石混じりのはっきりしない土で、畦畔らしき水田のうねも見られなかった。そして、土器の小破片が多くなってきたので、５カ所のトレンチを掘り下げて調査を進めることにした。

７月は、梅雨も早く明け、連日の35℃を超える猛暑の中、作業は２面目の調査を中心に進められた。依然として湧水がひどく、再び水没する調査区が増えてきた。２面目の古墳時代遺構面は確認できたが、水田址、住居址の残存状況は極めて悪く、確認作業に労を費やした。７月末には、Ａ、Ｂ－１、Ｃ、Ｅ区が終了した。

８月に入り、Ｂ－２区の２面目の精査とＢ－３区の住居の確認作業を行い、８月９日、全調査区の調査が終了。翌週から調査区の埋め戻しを行い、８月26日、現地発掘調査を完了した。その後、８月19日から整理作業を行い、３月19日、すべての作業を完成させる運びとなった。

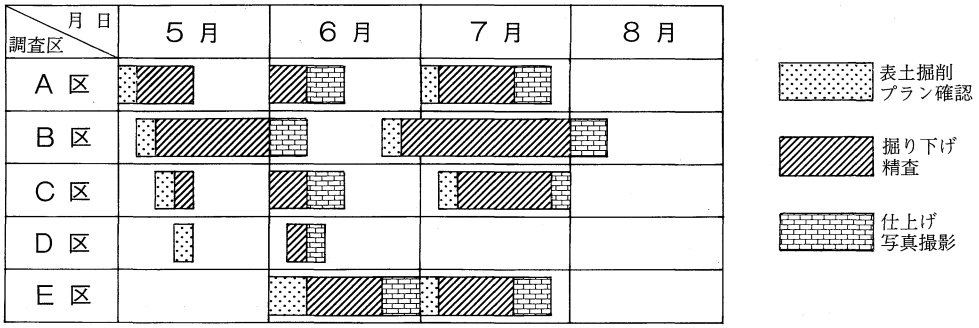


Fig. 5　調査経過図

Ⅳ　層　　序

本遺跡は、前橋台地の中央部に位置している。この前橋台地は約２～2.5万年前の浅間山の火山活動によってつくられた岩屑や泥流物で形成されており、その後、榛名山や浅間山の噴火による軽石、火山灰が堆積し、現在に至っている。本遺跡内の層序は場所により堆積状況の若干の違いはあるが、基本的にＦig.６に示した通りである。遺構は、表土より約50～70㎝のところに堆積するＡｓ－Ｂ軽石層（層）に覆われた層から平安時代水田址が、約70～80㎝のところに堆積するＨｒ－ＦＡ層（層）に覆われた層から古墳時代水田址が検出された。

Ⅰ層　灰褐色粗砂層。粘性・締まりなし。
　　現在の耕作土層。

Ⅱ層　褐色細砂層。粘性・締まりややあり。
　Ａｓ－Ｂ（浅間Ｂ軽石：1,108年降下）をわずかに含む。

Ⅲ層　褐灰色粗砂層。Ａｓ－Ｂ（浅間Ｂ軽石：
　1,108年降下）純層

Ⅳ層　黒褐色微砂層。平安時代水田畦畔確認層。
　粘性・締まりあり。

Ⅴ層　灰褐色細砂層。粘性・締まりややあり。
　白色軽石φ１～３㎜を30％程含む。

Ⅵ層　橙色微砂層。粘性、締まりややあり。
　Ｈｒ-ＦＡ（榛名－渋川テフラ：６世紀初頭降下）純

Ⅶ層。堆積状況が場所によってかなり異なる。

Ⅷ層　黒褐色微砂層。粘性・締まりあり。
　古墳時代遺構確認層。

Ⅸ層　褐灰色シルト層。粘性・締まりあり。

Ⅹ層　黒褐色シルト層。粘性・締まりあり。

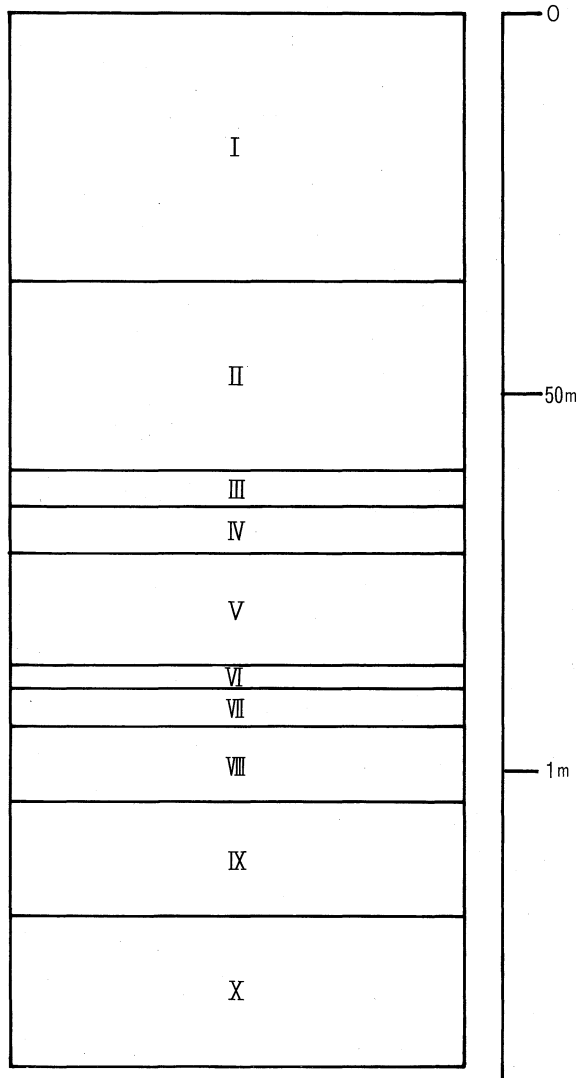


Fig.　6　標準土層図
（Ｂ－２区南西）

Ⅴ　遺構と遺物

本遺跡では２面の発掘調査を行い、１面目からは、水田址38面、溝址8条、土坑19基、２面目からは、水田址136面が検出された。及び古墳時代初期～奈良・平安時代の住居址６軒が検出された。

１面目の水田址及び溝址は、平安時代の1108年（天仁元年）の浅間山の噴火の際の軽石ににによって覆われたものである。２面目の水田址の覆土にＨｒ－ＦＡの純層が存在することから古墳時代後期の遺構と考えられる。

１　住　居　址

Ｈ－１号住居址（Ｆig.17、ＰＬ.２）

◎位置　Ｘ55～56、Ｙ22・23グリッド　◎面積　17.9㎡　◎方位　Ｎ－２°－Ｅ　◎形状　長軸4.50ｍ、短軸4.25ｍの長方形を呈する。壁高は8.2㎝を測る。　◎竈　全長94㎝、推定焚口部幅62㎝　◎遺物　遺物総数は347点、うち土器２点を図示した。　◎備考　偶然にも基本層序のためのトレンチを入れたところ、断面に焼土があり竈確認となった次第である。南壁ほぼ中央に設置され構築材に粘土を用いる。 右袖口部に凝灰岩の石材を使用。 なお、床面はほぼ平坦であり、堅緻面は確認できない。出土遺物から本住居址は８世紀と思われる。

Ｈ－２号住居址（Ｆig.18、ＰＬ.２）

◎位置　Ｘ53～54、Ｙ21・22グリッド　◎面積　17.9㎡　◎方位　Ｎ－91°－Ｅ　◎形状　長軸5.00ｍ、短軸3.85ｍの長方形を呈する。壁高は5.9㎝を測る。　◎竈　全長71㎝、全幅41㎝　◎遺物　遺物総数は129点。図示できたものなし。◎備考　住居址南側は調査区外のため確認はできないが竈は東壁ほぼ中央に設置されると思われる。燃焼部に動いたと思われるが凝灰岩の石材を検出。本住居址は竈の形態及び出土遺物から８世紀と思われる。

Ｈ－３号住居址（Ｆig.18 ）

◎位置　Ｘ59～60、Ｙ21グリッド　◎面積　3.6㎡　◎方位　Ｎ－67°－Ｅ　◎形状　長軸4.08ｍ、短軸1.62ｍの長方形を呈する。壁高は8.8㎝を測る。　◎遺物　遺物総数は９点、図示できたものはなし。　◎備考　調査区外のため、南西隅のみ調査。出土遺物が少なく、本遺構の時期については不明であるが、主軸方位で見ると５号住居と類似する。

Ｈ－４号住居址（Ｆig.17、ＰＬ.２）

◎位置　Ｘ64～65、Ｙ22・23グリッド　◎面積　14.0㎡　◎方位　Ｎ－５°－Ｅ　◎形状　長軸3.68ｍ、短軸4.57ｍの長方形を呈する。壁高は9.8㎝を測る。　◎遺物　遺物総数は55点、うち土器１点を図示した。　◎備考　住居址南側は調査区外のため確認できなかったが、南壁に竈設置か。出土遺物から本住居址は８世紀と思われる。

Ｈ－５号住居址（Ｆig.18、ＰＬ.２）

◎位置　Ｘ67、Ｙ22グリッド　◎面積　5.5㎡　◎方位　Ｎ－58°－Ｅ　◎形状　長軸2.80ｍ、短軸2.05ｍの長方形を呈する。壁高は4.5㎝を測る。　◎遺物　遺物総数は33点、図示できたものはなし。　◎備考　出土遺物は石田川式土器がその中心を成す。本住居址に伴う炉址は検出できなかった。出土遺物から本住居址は４世紀と思われる。

Ｈ－６号住居址（Ｆig.18、ＰＬ.２）

◎位置　Ｘ67、Ｙ22グリッド　◎面積　7.5㎡　◎方位　Ｎ－94°－Ｅ　◎形状　長軸2.93ｍ、短軸2.70ｍの長方形を呈する。壁高は10.38㎝を測る。　◎遺物　遺物総数は42点、うち１点を図示した。　◎備考　Ｈ－５号住居址により切られる。仮に土器型式で言えば、ほぼ同じものか、新しい住居址のほうが１型式進んだ程度のものである。Ｈ－６号住居址には、人為的に埋めもどしているような形跡は特に認められない。出土遺物から本住居址は４世紀と思われる。

２　土　　坑

Ｄ－１号土坑（Ｆig. 16）

◎位置　Ｘ39、Ｙ８グリッド　◎面積　0.98㎡　◎形状　楕円形　◎遺物　総数 11点

Ｄ－２号土坑（Ｆig. 16）

◎位置　Ｘ39、Ｙ７グリッド　◎面積　1.99㎡　◎形状　長方形　◎遺物　総数 24点　◎備考　Ｄ－３と重複。

Ｄ－３号土坑（Ｆig. 16）

◎位置　Ｘ40、Ｙ７グリッド　◎面積　0.96㎡　◎形状　円　形　◎遺物　なし

Ｄ－４号土坑（Ｆig. 16）

◎位置　Ｘ40、Ｙ７グリッド　◎面積　0.67㎡　◎形状　円　形　◎遺物　なし

Ｄ－５号土坑（Ｆig. 16）

◎位置　Ｘ39、Ｙ７グリッド　◎面積　1.62㎡　◎形状　円　形　◎遺物　総数　6点

Ｄ－６号土坑（Ｆig. 16）

◎位置　Ｘ39、Ｙ７グリッド　◎面積　0.69㎡　◎形状　円　形　◎遺物　総数　8点

Ｄ－７号土坑（Ｆig. 16）

◎位置　Ｘ40、Ｙ７グリッド　◎面積　2.05㎡ ◎形状　長方形　◎遺物　なし

Ｄ－８号土坑（Ｆig. 16）

◎位置　Ｘ39、Ｙ７グリッド　◎面積　7.52㎡　◎形状　長方形　◎遺物　なし　◎備考　Ｄ－９と重複。

Ｄ－９号土坑（Ｆig. 16）

◎位置　Ｘ38、Ｙ７グリッド　◎面積　1.65㎡　◎形状　長方形　◎遺物　総数104点　◎備考　Ｄ－８と重複。

Ｄ－10号土坑（Ｆig. 16）

◎位置　Ｘ41、Ｙ７グリッド　◎面積　1.65㎡　◎形状　長方形　◎遺物　総数　8点　◎備考　Ｄ－11と重複。

D－11号土坑(Fig. 16)

◎位置　X41、Y7グリッド　◎面積　0.57㎡　◎形状　長方形　◎遺物　なし　◎備考　D－11と重複。

D－12号土坑(Fig. 16)

◎位置　X40、Y8グリッド　◎面積　2.24㎡　◎形状　長方形　◎遺物　総数 33点

D－13号土坑(Fig. 16、PL5)

◎位置　X41、Y8グリッド　◎面積　2.50㎡　◎形状　長方形　◎遺物　総数 21点

D－14号土坑(Fig. 16、PL5)

◎位置　X42、Y8グリッド　◎面積　1.11㎡　◎形状　長方形　◎遺物　総数 34点

D－15号土坑(Fig. 16)

◎位置　X42、Y8グリッド　◎面積　1.83㎡　◎形状　長方形　◎遺物　なし

D－16号土坑(Fig. 16)

◎位置　X41、Y8グリッド　◎面積　1.14㎡　◎形状　長方形　◎遺物　総数 12点

D－17号土坑(Fig. 16)

◎位置　X41、Y9グリッド　◎面積　2.53㎡　◎形状　長方形　◎遺物　総数 37点

D－18号土坑(Fig. 16)

◎位置　X41、Y9グリッド　◎面積　2.58㎡　◎形状　長方形　◎遺物　総数 14点

D－19号土坑(Fig. 16)

◎位置 X42、Y9グリッド　◎面積　2.13㎡　◎形状　長方形　◎遺物　総数 13点

3　溝　　址

W－1号溝址(PL. 4)

◎位置 X33～34、Y6～9グリッド ◎形状　総延長(10.6)m、上幅0.55m、下幅0.13m、深さ0.28m。断面はすり鉢状の形。◎遺物　総数64点

W－2号溝址(PL. 4)

◎位置 X33～34、Y6～9グリッド ◎形状　総延長(11.5)m、上幅0.74m、下幅0.28m、深さ0.47m。断面はすり鉢状の形。◎遺物　総数642点

W－３号溝址(Ｆig.14)

◎位置 X37～38、Ｙ８～９グリッド ◎形状　総延長(7.4)ｍ、上幅0.64ｍ、下幅0.24ｍ、深さ0.19ｍ。楕円を半分に切った形。◎遺物 なし

W－４号溝址

◎位置 X52～56、Y21～23グリッド ◎形状　総延長(15.6)ｍ、上幅0.24ｍ、下幅0.16ｍ、深さ0.14ｍ。断面は逆台形。◎遺物　総数46点

W－５号溝址

◎位置 X52～56、Y21～23グリッド ◎形状　総延長(17.5)ｍ、上幅0.25ｍ、下幅0.15ｍ、深さ0.14ｍ。断面は逆台形。◎遺物　総数79点

W－６号溝址

◎位置 X53～56、Y21～22グリッド ◎形状　総延長(11.4)ｍ、上幅0.30ｍ、下幅0.20ｍ、深さ0.15ｍ。断面は逆台形。◎遺物　総数90点

W－７号溝址

◎位置 X55～58、Y21～22グリッド ◎形状　総延長(12.1)ｍ、上幅0.34ｍ、下幅0.26ｍ、深さ0.08ｍ。断面は逆台形。◎遺物　総数48点

W－８号溝址

◎位置 X56～58、Y21～22グリッド ◎形状　総延長(10.0)ｍ、上幅0.32ｍ、下幅0.20ｍ、深さ0.08ｍ。断面は逆台形。◎遺物　総数33点

4　水　田　址

◎古墳時代

水田址が確認できた調査区はＡ－１，２、Ｂ－１，２、Ｃ－１・２・３、Ｅ－１区である。Ｈｒ－ＦＡ（榛名二ッ岳渋川テフラ：６世紀初頭。古墳時代）テフラ層の堆積が薄く、畦畔も圧縮されていたため、区画の確認に苦労したが、136枚の水田址を確認できた。水田番号の№１～19はＥ－１区、№20～35はＡ－１区、№36～43はＡ－２区、№44～60はＢ－１区、№61～94はＢ－２区、№95～110はＣ－１区、№111～121はＣ－２区、№122～136はＣ－３区に存在する（Ｔab. ３参照)。水田面の凹凸は少なく平たんであり、足跡等は検出されなかった。

◎平安時代

水田址が確認できた調査区はＡ－１，２、Ｂ－１・２、Ｃ－１・２・３、Ｅ－１区である。Ｂ－３、Ｄ、Ｅ－２～５区は後世の耕作でかき回されており確認できなかった。Ａｓ－Ｂテフラ層（浅間Ｂ軽石：1108年）の堆積は厚く、畦畔は良好であった。38枚の水田址を確認でき、水田番号の№１～13はＥ－１区、№14～17はＡ－２区、№18～21はＢ－１

区、№22～24はＢ－２区、№25～26はＢ－３区、№27～31はＣ－１区、№32～34はＣ－２区、№35～38はＣ－３区に存在する（Ｔab. ４参照)。水田面の凹凸は少なく平たんであり、足跡等は検出されなかった。

5　グリッド出土遺物

平安時代遺構面からは小破片を含め遺物総数8,716点、古墳時代遺構面からは小破片を含め遺物総数20,445点が出土した。図示できた遺物は11点である。

Ⅵ　成果と問題点

今回の発掘調査ではＡｓ－Ｂ（浅間Ｂ軽石：1108年）とＨｒ－ＦＡ（榛名二ッ岳渋川テフラ：６世紀初頭。古墳時代）下の水田址と住居址が検出された。本遺跡周辺のＡｓ－Ｂ下水田址は利根川西岸の高崎市の日高遺跡群、新保遺跡、西島遺跡、前橋市の前箱田遺跡、勝呂遺跡、柳橋遺跡、五反田遺跡、六供周辺の中大門遺跡や南の櫛島・川端遺跡、公田池尻遺跡、公田東遺跡、南東の後閑遺跡などで確認されている。Ｈｒ－ＦＡ下の水田址は日高遺跡群、新保田中遺跡、南の櫛島・川端遺跡、公田池尻遺跡などで確認されている。住居址に関しては、東京安寺遺跡、生川遺跡、後閑遺跡などから古墳時代から平安時代にかけての住居址が検出されている。また、本遺跡から東には天神山古墳、八幡山古墳をはじめとする朝倉・広瀬古墳群があり、周辺からは住居址も確認されている。六供下堂木遺跡はこれらの地域の間に位置しており、道路部分という限られた範囲の調査でありながら、平安時代の水田址、古墳時代の水田址、住居址と内容の多い貴重な資料を提供してくれた。

以下、今回の発掘調査で明らかになったことを、時代区分、水田址、住居址ごとにまとめてみたい。

◎住居址

今回報告する調査対象区域では、合計６軒の竪穴式住居跡を確認するにとどまった。全てＢ－３区に集中していた。内訳は、古墳時代初期の石田川期の住居址２軒、奈良・平安時代にかけての住居址３軒及び時期不明１軒である。 どの住居址も床面までの深さが10以内と非常に浅く、竈の確認ができたものはわずかに２軒で、炉址や柱穴・貯蔵穴については検出できなかった。また、集落跡と考えられるこの区域は他の水田遺構面と一転してＡｓ－Ｂ軽石の純層もほとんどみられず、古墳初期～奈良・平安時代の土器片が互いに交じって出土した。このことはＡｓ－Ｂ軽石埋没以降後世の耕作、削平、撹乱等により住居址の多くが破壊されていたためと考えられる。実際に高台部分となっていたＡ区南側、Ｃ－３区はコンクリート基礎片や人頭大の河原石が他のＡｓ－Ｂ軽石純層より低いレベルで入り込んでおり、当時の様相を把握し得なかった。

同様のことがＥ－４区についても言える。遺構面からは須恵器や土師器の小破片が多数出土し、容易に住居址の存在を想定できた。そのためジョレンによる表土除去を繰り返し行ったがプラン確認までは至らず、急遽５カ所のトレンチを設定しての遺物取り上げ作業を行った。７・８世紀代の坏が大部分をしめるが、石田川期の受け部に鍔状の突帯をもつ土師特殊器台も交じって出土した。

このような状況のしかも一部分の資料で集落論を述べることに大きな不安を覚えるが、古墳時代初期に集落の営まれたこの区域が、その後の人々によっても何らかの土地利用がなされ奈良時代以降再び人々の居住空間として集落が営まれていたことが想像される。

◎水田址

⑴古墳時代

①水田の形態

水田址はＡ、Ｂ－１・２、Ｃ、Ｅ－１区から検出された。水田址遺構面の標高はＥ－１区の標高95.30ｍを最高点としてＣ－３区の標高94.55ｍを最低点とする0.75ｍの比高差を測ることができ、Ｅ－１区からＣ区にかけての北西から

南東へ約3.40／1000の勾配がある。畦畔の走向は調査区によって異なるが、Ｅ－１区東部、Ａ－１，２区、Ｂ－１区、Ｂ－２区東部では、南北畦畔が北東から南西にかけてＮ－18°～45°－Ｅの方位に、東西畦畔が北西から南東にかけてＮ－41°～63°－Ｗの方位に走っている。この方向性については、Ｅ－１区東部に北西から南東にかけて走る川を埋めて水田を作ったと思われるところがあり、この川の方向と前述した畦畔の方向性がほぼ一致するため、川の地形に合わせて区画したと推測できる。

畦畔の残存状況が悪く、形状は後世の圧縮により全体的に偏平な台形状または、カマボコ形に変形しており、高さは１～３㎝である。下幅は23～56㎝、上幅は９～44㎝である。水田区画については、完全に一区画をなす水田は12枚検出された。ほぼ長方形で面積は約４～９㎡の小区画であった。

②配水

北西から南東へ約3.40／1000の勾配があり、東、南側に接する水田面は１～３㎝低くなっている。水の流れはこの高低差を利用し北西から南東の方向が考えられる。水口は３箇所しか検出できなかったので、本遺跡の多くは上流の水田から下流の水田への給水方法は標高の高い水田が満水になった後、畦畔をオーバーフローして、順次南の方向へ流れ込む、「かけ流し」の方法をとっていた可能性が高いと考えられる。そして、本遺跡の水田への給水源となる水路、溝については、調査区から検出されなかったため、水の流れから考えると本遺跡地より北西に給水源となる水路、溝が存在していた可能性も考えられる。

⑵平安時代

粘性の強い黒色土の水田址が確認できたのはＡ、Ｂ－１・２、Ｃ、Ｅ－１区であった。Ｂ－３、Ｄ、Ｅ－２・３・４，５区については、褐色土にＡｓ－Ｂ軽石が混入している遺構面で、今までの水田址遺構面とは異なる地質であった。畦畔と思われるうねは確認されず、遺構面からは須恵器や土師器の小破片が多数出土した。この小破片の中には石田川式土器（古墳時代）や古墳時代遺構面から出土した遺物と同一のものもみられる。そのため、Ｅ－４区南壁でプラント・オパール分析を行い遺構面の状況を調査した。結果、残りの良いＡｓ－Ｂ軽石直下よりイネのプラント・オパールが高い密度（5,500個／g）で検出されたので、Ｂ－３、Ｄ、Ｅ－２，３，４，５区も稲作が行われていたと考えられる。そして、前述したように、Ｂ－３区において古墳時代の住居址が壊されていることから、Ａｓ－Ｂ軽石による埋没以降、耕作等によりかき回されたと考えられる。

①水田の形態

水田面はＥ－４，５区の標高95.70ｍを最高点としてＣ－２・３区の標高94.80ｍを最低点とする0.9ｍの比高差を測り、Ｅ－１区からＣ区にかけて北西から南東へ約4.09／1000の勾配がある。調査区が幅６ｍと幅13ｍの道路部分に限られていたため、検出された畦畔は調査区を横切る形のものがほとんどであった。畦畔の方向は南北が北０°を中心に東へ10°西へ９°、東西が東を中心に北へ16°南へ10°の範囲でほぼ正方位を指している。畦畔が交差する部分はＣ－３区とＥ－１区で見られたがどちらも直交はせず、Ｔ字形に交わっている。畦畔の形状は下幅は17～110㎝、上幅は９～82㎝、高さは２～９㎝である。全体的に偏平な台形状または、カマボコ形を呈しており、後世の圧縮により若干変形したものと思われる。

水田区画は、完全に一区画をなす水田は検出されなかったため断定はできないが、Ｅ－１区、Ａ－２，Ｂ－１区の畦

畔の走行方向から一区画の形は方形と想定できる。一区画の面積は、完全に一区画をなす水田が検出されなかったため、測定はできなかった。

②配水

Ｅ－４区、Ｂ－３区から溝が検出されたが、両調査区とも後世の耕作等によりかき回されていることから後世のものである。水田面は北西から南東へ約4.09／1000の勾配があり、各水田の南、東側の接する水田は１～４㎝低くなっている。この高低差を利用し各水田への給水を行っていたと思われる。水口は１箇所しか検出できなかったため、本遺跡における水田への給水方法は、標高の高い上流の水田が満水になった後、畦畔をオーバーフローして、順次標高の低い南側の水田方向へ流れ込む、「かけ流し」の方法をとっていた可能性が高いと考えられる。

③条里制について

つぎに本遺跡の条里制について検証してみたい。本遺跡は東西約260ｍ、南北110ｍと広範囲なので、条里的地割が存在するならば坪境と思われる畦畔が確認できるはずである。検出された畦畔の中でNo.13の畦畔が上幅82㎝、下幅100㎝、高さ9㎝と比較的大きかった。この畦畔は東西走向Ｎ－85°－Ｅで延長と考えられる畦畔は調査範囲には検出されなかった。この畦畔を坪境畦畔と仮定すると、南北方向に約109ｍの地点にも坪境畦畔が検出されるわけだが、南北方向に約109ｍの地点は調査区外になってしまい確認できない。他の坪境畦畔との関連性はわからないため、この畦畔を坪境畦畔と断定することはできないが、坪境としての役割をしていた可能性は考えられる。南北走向の坪境畦畔は東西約260ｍの調査区を考えると検出されてもおかしくはなかったが、相当する畦畔は確認できなかった。調査区東側の畦畔が確認できなかったので、この調査区に坪境畦畔が存在していたことも考えられる。区画については、調査区の関係で完全な一区画が検出できなかったので検証することはできないが、ほとんどの畦畔がほぼ正方位に近く直線的であることから、計画的に区画された可能性がある。

以上のように本遺跡から検出された遺構からでは条里的地割の存在についてははっきりと断定できない。そこで、本遺跡周辺の水田址遺跡、現地表での地割から検証してみる。

本遺跡から南へ約１㎞に位置する栅島・川端遺跡、公田池尻遺跡、公田東遺跡では、条里的地割と思われる畦畔や溝が検出されている。また、南東へ3.5㎞に位置する宮地中田遺跡では坪境畦畔が確認されている。本遺跡に最も近い南西約500ｍの中大門遺跡から検出された水田址は坪を形成するような畦畔はなかったが、条里的地割が確認されている利根川西岸の条里水田と同様な性格を持っており、利根川の両岸に条里的地割が存在していた可能性はある。また、地籍図、小字名調書によると本遺跡から北約１㎞のところには、「市之坪」の字名がある。この字名は明らかに条里関係の地名であり、「一ノ坪」と想定できる。そして迅速図からこの「市之坪」の南境を通る道が東西方向に、小字中大門と小字中京安寺の境の道が南北に直線的に走っており、条里的地割の面影を残している。しかし、低地を流れる小河川がさまざまに屈曲しており、それに応じて地割も規則性をもっていないため、条里的地割を踏襲していたかという点では疑問が残る。

◎住居址と水田址の関係

古墳時代遺構面では水田址と住居址が検出され、調査区を２分している。Ａ、Ｂ－１・２、Ｃ、Ｅ－１区の調査区北西から南東にかけてが水田址区域に、Ｅ－２～５区、Ｂ－３、Ｄ区の調査区東部が住居址区域に分けられる。水田址区

域のＥ－１区の東端では標高95.20ｍだが、隣接する住居址区域のＥ－２区西端は標高95.50ｍと高くなり、Ｅ－４区の東端、Ｅ－５区では標高95.60ｍと東にいくほど高くなっている。また、Ｂ－２，３区でも同じようなことが見られＢ－２区東端では標高94.85ｍ、隣接するＢ－３区西端では標高95.05ｍと高くなっている。調査区内に北西から南東にかけての勾配があることから、このＢ－３、Ｄ、Ｅ－２～５区の住居址区域の位置する調査区北東から東にかけての地形が微高地になっていることがわかる。この微高地を利用し住居をつくり、北西から南東にかけての低地部を水田に利用していたものと考えられる。そして、現地形においても微高地は宅地、畑として利用され、低地部は水田、または水がたまりやすい湿地となっていることから、古墳時代の地形利用が現在の地形にも受け継がれている可能性が高い。

◎その他

Ｅ－４区から土坑が19基検出された。平安時代遺構面を攪乱したＡｓ－Ｂ軽石が混入している褐色土を掘り下げていることから平安時代以後の遺構と考えられる。土坑の形は長方形と円形に分類でき、面積は長方形が1.5～2.5㎡、円形が0.7～1.5㎡である。これらはＥ－４区東部にまとまって存在し、長方形の土坑はＮ－18°～32°－Ｅの方位に走っている。六供周辺には中京安寺、南京安寺、中大門、そして本遺跡地の堂木など寺院に係わる小字名が残されているように六つの寺院があったといわれている。本遺跡から検出された土坑は形、大きさ、統一された方向性などから墓の可能性がある。出土遺物は古墳時代遺構面近くからの古墳～平安時代のものが多いため、土坑と同時期のものではないと考えられる。また、Ｅ－４、Ｂ－３区から検出された溝址についても同様のことが考えられる。

◎まとめ

以上のことから本遺跡をまとめてみる。

・１面目はＡｓ－Ｂ（浅間Ｂ軽石：1108年）によって埋没した平安時代の水田址である。

・条里的地割は確認されなかったが、畦畔の走向性や周辺の様子から可能性はある。

・２面目はＨｒ－ＦＡ（榛名二ッ岳渋川テフラ：６世紀初頭。古墳時代）によって埋没した古墳時代の小区画ミニ水田である。

・検出された６軒の住居址は古墳～奈良・平安時代である。

・標高に合わせて低地を水田区域、微高地を居住区域に分けている。

今回の調査で、二つの時代の水田址と住居址が検出されたことは、大きな成果である。特に古墳時代の水田址と住居址が隣接して検出されたことで、当時の人々の地形を利用した土地活用の様子を考えることができた。そして、本遺跡東部の朝倉から広瀬にかけての地域には本遺跡から検出された水田址と住居址と同時代の古墳が存在するので、本遺跡の集落と古墳群の関係、また、水田、集落、古墳の位置関係に課題が残る。

平安時代水田址については条里的地割は確認されなかったが、畦畔の走向性や迅速図や地名などから条里的地割の存在の可能性があるため、周辺地域から条里的地割の検出に期待する。

今回の発掘調査は調査範囲が限られていたため、局部的な資料であったが、多くの課題点を提供してくれた。これらの課題点が今後の周辺地域の発掘調査により、より明確な結論を導き出してくれることに期待したい。

参考文献

弥永貞三ほか　1967『歴史時代（下）』「条里制の諸問題」

落合重信　日本歴史叢書　『条里制』

『群馬県史』通史編　2

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1983　『中大門遺跡』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1983　『後閑遺跡』

前橋市教育委員会　1984　『芳賀東部団地遺跡』

前橋市教育委員会　1988　『芳賀東部団地遺跡』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1991　『横俵遺跡群』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1994　『内堀遺跡群』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1994　『地田栗遺跡』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1995　『中原遺跡群』

Tab. 1　水田址計測表：古墳時代

番号	面積	東畦	西畦	南畦	北畦	形状	水口
1	(7.85)	(3.35)	(2.99)	2.83	−	方形	
2	(21.26)	(3.69)	(3.46)	6.11	−	方形	
3	(13.39)	(2.02)	(2.09)	−	6.20	方形	
4	(15.57)	(3.69)	(3.71)	4.38	−	方形	E＝1
5	(9.53)	(2.12)	(2.19)	−	4.33	方形	
6	(7.63)	(3.61)	(3.74)	1.85	−	方形	E=1,W=1
7	(9.81)	(1.78)	(2.20)	−	4.67	方形	
8	(21.16)	3.70	(3.81)	4.86	(2.05)	方形	
9	(7.90)	(1.44)	(1.92)	−	4.77	方形	
10	(11.06)	(3.90)	(3.98)	2.73	−	方形	
11	(14.14)	2.86	(1.82)	5.12	(2.67)	方形	
12	(15.43)	(2.24)	(4.36)	−	4.88	方形	
13	(3.49)	−	(1.94)	−	(2.92)		
14	(15.27)	(6.86)	(3.52)	−	2.70	方形	
15	(31.28)	(5.23)	−	(10.48)	(2.78)	方形	
16	(1.31)	−	(1.32)	−	(1.88)		
17	(17.62)	−	(4.79)	−	(6.92)		
18	(40.19)	−	(10.50)	−	−		
19	(1.00)	−	(1.18)	−	(1.58)		
20	(13.42)	(2.48)	−	(5.22)	−	方形	
21	(1.61)	−	(1.80)	(1.57)	−	方形	
22	(1.40)	(2.68)	−	−	(0.78)	方形	
23	9.22	2.46	1.94	3.94	3.92	方形	
24	(5.20)	−	2.32	(2.50)	(1.84)	方形	
25	(10.21)	2.66	−	(3.70)	(4.04)	方形	
26	(7.27)	−	2.80	(2.85)	(2.80)	方形	
27	(4.75)	1.86	−	(1.44)	(2.91)	方形	
28	(10.92)	−	2.25	(5.18)	(3.14)	方形	
29	(7.72)	(3.97)	−	−	(3.45)	方形	
30	(11.97)	−	2.59	(5.30)	(3.09)	方形	
31	(3.75)	(2.91)	(1.51)	−	1.50	方形	
32	(15.24)	−	2.13	(6.50)	(3.86)	方形	
33	(0.78)	(1.45)	(0.54)	−	0.58		
34	(6.68)	(1.94)	(1.90)	−	2.29	方形	
35	(2.56)	−	(1.75)	−	(2.82)		
36	(10.74)	−	−	(6.79)	−		
37	(3.43)	3.05	−	(0.56)	(0.66)		
38	8.96	1.82	2.98	3.13	4.66	方形	
39	(4.93)	−	1.69	(3.43)	(1.74)	方形	
40	(9.57)	3.09	−	(1.43)	(4.60)	方形	
41	(18.22)	(0.37)	3.21	10.63	(3.28)	方形	
42	(11.00)	3.06	−	(1.80)	4.88	方形	
43	21.82	2.47	3.17	7.92	7.66	方形	
44	8.60	3.44	2.38	1.57	4.15	方形	
45	(11.45)	(3.79)	5.29	3.25	(0.92)	方形	
46	(3.29)	(1.98)	−	(3.13)	−		
47	(4.09)	(1.93)	(0.63)	−	2.94	方形	
48	(9.06)	2.14	(2.07)	3.96	(2.69)	方形	
49	(14.27)	(2.96)	(4.57)	−	4.14	方形	
50	(1.23)	(1.16)	−	(1.92)	−		
51	(6.79)	(2.09)	(1.28)	4.05	−	方形	
52	7.82	1.63	2.17	3.96	4.00	方形	
53	(11.47)	(2.43)	(2.86)	−	4.02	方形	
54	(9.16)	(1.15)	(2.11)	5.51	−	方形	
55	6.01	1.49	1.61	5.09	3.55	方形	
56	(19.28)	(4.45)	(2.48)	−	5.81	台形	
57	(4.54)	−	(3.52)	(2.40)	−		
58	3.84	2.31	1.44	2.07	1.75	方形	
59	(11.87)	(6.48)	(4.71)	−	2.34	方形	
60	(26.93)	−	(6.98)	−	(2.04)		
61	(2.23)	(1.39)	(1.40)	1.29	−	方形	
62	(1.83)	(1.60)	−	(2.26)			
63	(5.17)	2.17	−	(3.42)	(2.79)	方形	
64	(5.52)	(2.40)	−	−	(3.47)		
65	3.99	3.20	2.76	0.97	1.45	方形	
66	(7.53)	(2.55)	(4.19)	1.76	−	方形	
67	(4.88)	(3.63)	(2.38)	−	1.51	方形	
68	(3.69)	(2.00)	(3.06)	1.10	−	方形	
69	(5.97)	(4.47)	(4.02)	−	1.59	方形	
70	(3.15)	(1.64)	(1.86)	(1.72)	−	方形	
71	7.44	2.16	2.91	2.46	2.96	方形	
72	(4.46)	(2.39)	(1.20)	−	2.30	方形	
73	(2.99)	−	(1.60)	(3.39)	−	方形	
74	5.75	2.02	2.35	2.80	2.24	方形	
75	(7.10)	3.07	(2.38)	(0.97)	2.63	方形	
76	(6.82)	(1.12)	2.00	3.21	(1.37)	方形	
77	15.27	1.70	3.05	5.48	6.03	方形	
78	(2.52)	(1.48)	(1.17)	2.06	−	方形	
79	(7.95)	(2.17)	−	−	(5.54)		
80	(3.79)	(2.25)	(1.59)	3.13	−		
81	(21.23)	4.58	(3.55)	(2.35)	3.44	不定形	
82	(16.79)	(1.20)	(6.68)	3.79	−	方形	
83	(2.29)	(2.42)	−	−	(1.82)		
84	(0.64)	−	(1.20)	(1.02)	−		
85	7.33	2.05	2.06	3.29	3.80	方形	
86	(3.61)	−	1.54	(2.89)	(1.33)	方形	
87	(8.61)	3.06	(0.76)	(1.44)	3.41	方形	
88	(8.76)	(1.55)	2.88	3.48	(3.38)	方形	
89	(0.58)	−	(1.11)	(0.98)	−		
90	(9.49)	2.95	(2.93)	(2.84)	3.50	方形	
91	(1.22)	(1.78)	−	−	(1.30)		
92	(11.14)	−	3.42	(4.83)	(1.55)	方形	
93	(4.64)	(3.46)	−	−	(2.61)		
94	(25.85)	(7.38)	(3.78)	−	(4.86)	方形	
95	(15.90)	(3.27)	−	(5.38)	−	方形	
96	(12.12)	(3.66)	−	−	(3.87)	方形	
97	(0.81)	(1.12)	(1.49)	−	−		
98	(12.64)	(2.60)	(3.23)	−	3.87	方形	
99	(19.32)	(3.87)	(3.55)	5.28	−	方形	
100	(3.26)	(2.26)	(2.34)	−	1.64	方形	

番号	面 積	東 畦	西 畦	南 畦	北 畦	形 状	水 口
101	(16.74)	(4.26)	(3.88)	3.80	−	方 形	
102	(6.30)	(1.47)	(2.23)	−	4.72	方 形	
103	(10.24)	(3.27)	(3.70)	2.94	−	方 形	
104	(15.90)	(3.06)	(1.77)	−	6.74	方 形	
105	(10.92)	(2.49)	(3.15)	4.07	−	方 形	
106	(19.09)	−	(2.69)	−	(6.78)		
107	(13.33)	−	(2.16)	(6.01)	−		
108	(19.89)	(3.25)	−	−	(5.59)	方 形	
109	(22.91)	−	−	(9.34)	−		
110	(9.98)	−	(3.25)	−	(3.40)	方 形	
111	(9.15)	(3.47)	(2.63)	3.80	−	方 形	
112	(5.66)	(2.62)	(1.69)	−	4.05	台 形	
113	(9.00)	(3.08)	(3.66)	1.88	−	方 形	
114	(8.96)	(2.95)	(2.78)	−	2.08	台 形	
115	(13.32)	(4.44)	(3.05)	3.03	−	台 形	
116	(9.72)	(3.13)	(2.97)	−	(4.55)	不定形	
117	(4.94)	(4.82)	(4.62)	1.49	−		
118	(17.10)	(3.24)	(4.00)	−	4.07	台 形	

番号	面 積	東 畦	西 畦	南 畦	北 畦	形 状	水 口
119	(4.43)	(3.83)	−	(1.59)	−		
120	(26.73)	−	(3.65)	(8.20)	−		
121	(18.80)	−	(3.01)	−	(6.20)		
122	(15.11)	(3.17)	−	(4.93)	−		
123	(12.39)	(3.96)	−	−	(4.53)		
124	(8.66)	(3.42)	(3.02)	2.74	−	方 形	
125	(11.23)	(3.00)	(4.05)	−	2.85	方 形	
126	(4.34)	(3.01)	(3.16)	1.77	−	方 形	
127	(7.11)	(2.84)	(3.24)	−	1.77	方 形	
128	(12.40)	(3.54)	(2.88)	3.47	−	方 形	
129	(9.05)	(2.89)	(2.89)	−	(3.31)	方 形	
130	(3.28)	(2.13)	−	(2.82)	−		
131	(6.75)	1.57	(3.28)	2.86	(2.95)	台 形	
132	(7.16)	(2.66)	(2.98)	−	2.53	方 形	
133	(22.12)	(7.35)	(7.59)	(2.59)	(2.59)	方 形	
134	(17.13)	−	(4.33)	−	(7.31)		
135	(15.48)	−	(7.04)	(4.37)	−		
136	(4.57)	(3.61)	−	−	(2.31)		

註）表の記載は以下の基準で行った。

①水田面積の算出については1／100の縮尺でプラニメーター（ローラー極式・レンズ式）による３回計測平均値を使用した。なお、小数点以下３桁は四捨五入した。

②水田の面積の単位は㎡、各畦畔の長さはｍで、確認値は（　）で示した。

Tab. 2 水田址計測表：平安時代

番号	面 積	東 畦	西 畦	南 畦	北 畦	形 状	水 口
1	(12.23)	(4.67)	−	(3.54)	(2.25)		
2	(20.05)	(7.27)	−	−	(3.44)		
3	(103.62)	(6.35)	(4.90)	16.79	(6.82)	方 形	
4	(146.93)	(6.52)	(6.87)	−	25.87	方 形	
5	(84.56)	(2.93)	(6.51)	15.80	−	方 形	
6	(36.19)	(8.39)	(6.81)	−	5.16	方 形	
7	(30.04)	(1.62)	(2.62)	17.48	−	方 形	
8	(277.68)	(13.17)	(8.51)	−	25.70	台 形	
9	(18.67)	(1.47)	(1.65)	(10.51)	−	方 形	S＝1
10	16.98	6.35	7.77	−	3.80	三角形	
11	(11.95)	−	(2.11)	(10.15)	−		
12	(98.91)	(10.52)	6.10	(5.08)	(10.57)	台 形	
13	(14.83)	−	(10.53)	−	−		
14	(39.53)	−	−	(6.86)	−		
15	(117.16)	(6.43)	−	(5.94)	(7.42)		
16	(138.50)	−	−	(6.30)	(5.90)		
17	(53.85)	−	−	−	(6.30)		
18	(44.01)	(6.86)	(6.55)	−	−	方 形	
19	(17.58)	(6.95)	(6.81)	−	−	方 形	

番号	面 積	東 畦	西 畦	南 畦	北 畦	形 状	水 口
20	(44.31)	(6.73)	(6.93)	−	−	方 形	
21	(64.11)	(2.38)	(6.68)	−	−		
22	(167.68)	(7.14)	−	−	−		
23	(293.41)	−	(7.21)	−	−		
24	(33.68)	(4.53)	−	(9.46)	−		
25	(19.46)	(9.58)	−	−	(0.94)		
26	(67.01)	(6.06)	(5.97)	−	−		
27	(50.71)	−	(6.02)	−	−		
28	(57.18)	−	−	−	−		
29	(52.16)	(5.83)	−	−	−		
30	(115.83)	(6.90)	(6.06)	−	−		
31	(7.55)	−	(6.86)	−	−		
32	(38.63)	(2.12)	−	(13.65)	−	方 形	
33	(11.18)	(3.12)	−	−	(3.97)	方 形	
34	(21.34)	−	(2.28)	(9.84)	−	方 形	
35	(68.80)	−	(3.18)	−	(19.07)	方 形	
36	(0.56)	(1.02)	−	(0.84)	−		
37	(12.28)	(4.62)	−	−	(0.95)		

註）表の記載は以下の基準で行った。

①水田面積の算出については1／100の縮尺でプラニメーター（ローラー極式・レンズ式）による３回計測平均値を使用した。なお、小数点以下３桁は四捨五入した。

②水田の面積の単位は㎡、各畦畔の長さはｍで、確認値は（　）で示した。

Tab. 3　畦畔計測表：古墳時代

番号	グリッド	方　位	上幅	下幅	高さ	方向	調査区
1	X8　　,Y7～8	N-19° -E	19	41	3	南北	E－1
2	X9　　,Y7～9	N-10° -E	24	45	3	南北	E－1
3	X10　　,Y7～9	N- 9° -E	31	47	2	南北	E－1
4	X10　　,Y7～9	N- 3° -E	31	50	2	南北	E－1
5	X11　　,Y7～8	N-12° -E	17	33	2	南北	E－1
6	X12　　,Y7～8	N- 2° -E	20	33	2	南北	E－1
7	X13　　,Y7～8	N- 9° -E	26	50	3	南北	E－1
8	X14　　,Y7～9	N-10° -E	29	42	2	南北	E－1
9	X14　　,Y7～9	N-12° -E	28	48	4	南北	E－1
10	X14　　,Y8	N- 8° -E	44	56	3	南北	E－1
11	X15～16,Y8～9	N-30° -E	34	50	3	南北	E－1
12	X17　　,Y8	N- 8° -E	14	39	3	南北	E－1
13	X18～19,Y8～9	N-36° -E	19	36	1	南北	E－1
14	X21　　,Y8	N-26° -E	9	24	1	南北	E－1
15	X8～9　,Y7～8	N-72° -W	16	36	2	東西	E－1
16	X9～14 ,Y8	N- 0° -W	26	51	4	南北	E－1
17	X11　　,Y8	N- 0° -W	16	33	2	南北	E－1
18	X12　　,Y8	N- 7° -E	12	26	2	南北	E－1
19	X15～16,Y8～9	N-59° -W	29	54	3	東西	E－1
20	X15～18,Y7～9	N-56° -W	32	48	3	東西	E－1
21	X18～20,Y7～9	N-58° -W	2	36	2	東西	E－1
22	X20～22,Y7～9	N-55° -W	30	52	2	東西	E－1
23	X17～18,Y11～12	N-58° -W	26	35	2	東西	A－1
24	X17～18,Y12～13	N-60° -W	26	37	2	東西	A－1
25	X17～18,Y13～14	N-63° -W	26	36	2	東西	A－1
26	X17～18,Y14	N-58° -W	24	32	2	東西	A－1
27	X17～18,Y15	N-63° -W	19	28	1	東西	A－1
28	X18　　,Y15～16	N-56° -W	28	42	2	東西	A－1
29	X17　　,Y11～12	N-22° -E	22	28	1	南北	A－1
30	X17～18,Y11～14	N-22° -E	23	31	1	南北	A－1
31	X17～18,Y14～15	N-40° -E	23	31	2	南北	A－1
32	X17～18,Y15～16	N-43° -E	20	40	1	南北	A－1
33	X18　　,Y16	N-38° -E	13	32	2	南北	A－1
34	X18　　,Y16	N-18° -E	28	46	2	南北	A－1
35	X18～19,Y17～18	N-45° -W	34	48	1	東西	A－2
36	X18～19,Y18～19	N-49° -W	24	32	2	東西	A－2
37	X18～19,Y19～20	N-49° -W	16	30	2	東西	A－2
38	X18～19,Y20～21	N-55° -W	26	44	2	東西	A－2
39	X18～19,Y21	N-59° -W	20	34	2	東西	A－2
40	X18　　,Y17～18	N-18° -E	19	35	2	南北	A－2
41	X18　　,Y18	N-40° -E	15	28	1	南北	A－2
42	X18　　,Y18	N-44° -E	16	28	2	南北	A－2
43	X18　　,Y19～20	N-34° -E	18	32	1	南北	A－2
44	X20　　,Y21	N-41° -E	16	28	1	南北	B－1
45	X20～25,Y21	N-62° -W	18	30	2	東西	B－1
46	X22～24,Y21	N-70° -W	19	32	2	東西	B－1
47	X24～26,Y21～22	N-50° -W	22	48	2	東西	B－1
48	X21　　,Y22	N-30° -W	12	24	1	南北	B－1
49	X21　　,Y21	N-19° -E	23	40	2	南北	B－1
50	X22　　,Y20～22	N-19° -E	20	32	1	南北	B－1
51	X22～23,Y21～22	N-19° -E	20	36	2	南北	B－1
52	X25　　,Y21	N-34° -E	14	30	1	南北	B－1
53	X25～26,Y21	N-46° -E	25	40	1	南北	B－1
54	X24～25,Y21～22	N-51° -W	22	32	2	東西	B－1
55	X29～30,Y21～22	N-38° -W	18	32	2	南北	B－2
56	X29～30,Y21～22	N-39° -W	22	40	2	東西	B－2
57	X30～31,Y21～22	N-32° -W	24	42	2	東西	B－2
58	X30　　,Y21	N-18° -W	26	42	3	東西	B－2
59	X31～32,Y21～22	N-22° -W	18	38	3	東西	B－2
60	X32～33,Y21～22	N-25° -W	22	34	1	東西	B－2
61	X33　　,Y21	N- 2° -W	30	49	2	南北	B－2
62	X34　　,Y21～22	N-16° -W	30	42	1	東西	B－2
63	X34～36,Y21～22	N-53° -W	24	38	1	東西	B－2
64	X36～37,Y21～22	N-48° -W	20	36	1	東西	B－2
65	X37～39,Y21～22	N-52° -W	24	41	1	東西	B－2
66	X29　　,Y21	N-48° -E	10	28	2	東西	B－2
67	X29　　,Y22	N-47° -E	14	30	1	東西	B－2
68	X29　　,Y22	N-63° -E	18	32	1	東西	B－2
69	X29～30,Y22	N-57° -E	21	39	2	東西	B－2
70	X30　　,Y21	N-55° -E	20	38	2	東西	B－2
71	X31　　,Y21	N-63° -E	22	38	2	東西	B－2
72	X31　　,22	N-56° -E	20	38	3	東西	B－2
73	X31～33,Y21～22	N-62° -E	20	34	2	東西	B－2
74	X32～34,Y22	N-66° -E	22	34	2	東西	B－2
75	X33～35,Y21	N-88° -W	20	38	1	東西	B－2
76	X35～36,Y21～22	N-40° -E	24	42	1	南北	B－2
77	X36　　,Y21	N-41° -E	16	30	1	南北	B－2
78	X36～37,Y21～22	N-42° -E	24	40	1	南北	B－2
79	X37～38,Y21～22	N-30° -E	20	35	2	南北	B－2
80	X38～40,Y21～22	N-45° -E	21	40	2	南北	B－2
81	X40～41,Y21～22	N-41° -W	18	34	1	東西	B－2
82	X24　　,Y33	N-10° -E	24	41	1	南北	C－1
83	X25　　,Y33	N- 1° -E	22	37	1	南北	C－1
84	X26　　,Y33	N- 5° -E	23	37	1	南北	C－1
85	X27　　,Y33	N- 1° -W	35	44	1	南北	C－1
86	X28　　,Y33	N- 6° -W	26	38	1	南北	C－1
87	X31　　,Y33～34	N- 5° -E	18	32	1	南北	C－1
88	X23　　,Y33～34	N-35° -E	17	26	1	東西	C－1
89	X23　　,Y34	N-17° -W	18	32	1	東西	C－1
90	X24　　,Y34	N-46° -W	12	27	1	東西	C－1
91	X25　　,Y34	N-45° -W	13	23	1	東西	C－1
92	X26　　,Y34	N- 0° -W	20	26	1	南北	C－1
93	X28　　,Y34	N- 8° -W	22	36	1	南北	C－1
94	X22～29,Y33	N-86° -W	22	32	1	東西	C－1
95	X30～32,Y33	N- 0° -W	29	44	1	南北	C－1
96	X39　　,Y33	N- 0° -W	17	36	1	南北	C－2
97	X39　　,Y33	N-28° -W	12	30	1	南北	C－2
98	X40　　,Y33	N- 6° -W	17	29	1	南北	C－2
99	X42　　,Y32	N-30° -E	15	33	1	南北	C－2
100	X39　　,Y34	N- 3° -E	10	25	1	南北	C－2

番号	グリッド	方　位	上幅	下幅	高さ	方向	調査区
101	X39～40, Y33～34	N-48° -E	17	30	1	東西	C－2
102	X40　, Y33～34	N-30° -W	18	34	1	南北	C－2
103	X41　, Y33	N-66° -E	20	30	1	東西	C－2
104	X41～42, Y32～34	N-36° -E	19	34	1	南北	C－2
105	X38～40, Y33	N- 0° -W	18	31	1	南北	C－2
106	X40～42, Y32～33	N-67° -E	18	30	1	東西	C－2
107	X42～44, Y33	N-85° -E	19	36	1	東西	C－2
108	X42　, Y33	N-14° -W	19	32	1	南北	C－2
109	X49～50, Y33～35	N-37° -E	17	33	1	南北	C－3

番号	グリッド	方　位	上幅	下幅	高さ	方向	調査区
110	X51　, Y33～35	N-22° -E	22	37	2	南北	C－3
111	X51　, Y33～35	N- 6° -E	21	31	1	南北	C－3
112	X52　, Y33～35	N-19° -E	26	33	1	南北	C－3
113	X53　, Y33～35	N-28° -E	24	36	2	南北	C－3
114	X55～56, Y33～35	N-32° -E	22	38	1	南北	C－3
115	X49～52, Y34	N-86° -W	19	32	2	東西	C－3
116	X52～53, Y34	N- 0° -W	22	39	2	南北	C－3
117	X53～54, Y33～35	N-55° -W	31	48	2	東西	C－3
118	X54～56, Y33～35	N-56° -W	24	46	2	東西	C－3

註）表の記載は以下の基準で行った。
各項目の計測については1／40の縮尺で行った。
上幅、下幅、高さの単位はcmである。

Tab. 4　畦畔計測表：平安時代

番号	グリッド	方　位	上幅	下幅	高さ	方向	調査区
1	X6～8　, Y6	N-90° -E	30	50	5	東西	E－1
2	X6　, Y6～8	N- 2° -E	32	54	3	南北	E－1
3	X5～21 , Y6～7	N- 0° -E	30	42	4	南北	E－1
4	X10　, Y6～7	N- 5° -W	18	34	2	南北	E－1
5	X13　, Y7～9	N- 0° -E	20	34	2	南北	E－1
6	X14　, Y7～9	N- 0° -E	19	38	3	南北	E－1
7	X14　, Y6～7	N-10° -E	16	36	1	南北	E－1
8	X19　, Y6	N- 0° -E	9	17	1	南北	E－1
9	X20～24, Y6～8	N-53° -W	22	42	3	東西	E－1
10	X22　, Y6～8	N- 9° -W	23	38	4	南北	E－1
11	X24　, Y6～8	N- 9° -W	24	48	3	南北	E－1
12	X18～19, Y20	N-80° -E	23	54	7	東西	A－2
13	X18～19, Y23	N-85° -E	82	100	9	東西	A－2
14	X18～19, Y29	N-90° -E	60	80	3	東西	A－2
15	X20　, Y19～22	N-90° -E	40	54	3	東西	B－1

番号	グリッド	方　位	上幅	下幅	高さ	方向	調査区
16	X22　, Y19～22	N- 4° -W	80	110	8	南北	B－1
17	X22　, Y19～22	N- 4° -E	50	70	2	南北	B－1
18	X24　, Y19～22	N-90° -E	30	52	6	東西	B－1
19	X26　, Y22	N- 3° -W	16	36	4	南北	B－1
20	X34　, Y21～23	N -6° -E	48	70	4	南北	B－2
21	X22～25, Y33	N-74° -W	28	48	4	東西	C－1
22	X24　, Y32～34	N- 0° -E	40	52	4	南北	C－1
23	X27　, Y32～34	N- 3° -W	38	58	6	南北	C－1
24	X40　, Y32～34	N- 3° -E	38	50	5	南北	C－2
25	X44　, Y32～34	N- 0° -E	28	44	3	南北	C－2
26	X49～55, Y34	N-85° -E	32	48	5	東西	C－3
27	X49　, Y34	N- 7° -E	32	50	5	南北	C－3
28	X5　, Y33～34	N- 0° -E	18	34	4	南北	C－3
29	X50　, Y22	N- 0° -W	30	52	7	南北	B－3

註）表の記載は以下の基準で行った。
各項目の計測については1／40の縮尺で行った。
上幅、下幅、高さの単位はcmである。

Tab. 5　土器観察表

番号	出土位置	器　形	大きさ 口径	大きさ 器高	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	成・整形方法 口縁・胴部	成・整形方法 底部	備　考	Fig.
1	B-3 H－1	土師坏	13.3	3.0	①細粒②良好③橙④⅔	外傾。横撫で。篦削り。			20
2	B-3 H－1	須恵坏	－	－	①細粒②良好③灰④⅓	欠損。轆轤。	篦調整。底部肥厚。		20
3	B-3 H－4	土師甕	24.2	－	①細粒②良好③赤褐④－	外傾。 横撫で。篦削り。胴部中央に最大径を有す。頸部に輪積み痕。			20
4	B-3X50Y21	須恵蓋	14.5	3.0	①細粒②良好③灰④¼	轆轤。 回転篦調整。 偏平な円形摘まみ。口縁部の返し消失。			20
5	B-3X51Y22	須恵坏	11.3	3.3	①細粒②良好③灰④⅔	外傾。 轆轤。	回転篦調整。		20
6	B-3X52Y21	須恵蓋	－	－	①細粒②良好③灰④⅙	轆轤。 回転篦調整。 偏平な円形摘まみ。口縁部欠損。			20
7	E-2 覆土	土師坏	12.4	4.1	①細粒②良好③にぶい赤褐胴部④完形	直立。 横撫で。篦削り。	篦削り。		20
8	E-2 覆土	須恵坏	－	－	①細粒②良好④¼	欠損。轆轤。	回転糸切り未調整。		20
9	E-2 覆土	須恵坏	13.0	3.6	①細粒②良好③灰④¼	外傾。轆轤。	糸切り後篦調整。		20
10	E-2 覆土	須恵蓋	15.2	－	①細粒②良好③灰④¼	轆轤。 回転篦調整。 摘まみ部欠損。内側に自然釉。			20
11	E-4X31Y7	土師坏	11.4	3.3	①細粒②良好③にぶい褐④⅙	内湾。横撫で。篦削り。	欠損。	胴部指頭痕。	20
12	E-4 トレンチ2	土師坏	13.5	3.2	①細粒②良好③灰褐④½	直立。横撫で。 篦削り。	篦削り。		20
13	E-4 トレンチ2	土師坏	15.1	3.8	①細粒②良好③にぶい橙④¾	直立。横撫で。 篦削り。	篦削り。		20
14	E-4 トレンチ2	須恵高台皿	20.5	－	①細粒②良好③灰④¼	外傾。 轆轤。	回転篦調整。高台部欠損。		20
15	E-4 トレンチ2	須恵坏	－	－	①細粒②良好③にぶい黄橙④½	外傾。 轆轤。	回転篦調整。		20
16	E-4 トレンチ2	カワラケ	－	－	①細粒②良好③にぶい黄褐④⅓	外傾。 横撫で。 篦削り。			20
17	E-4 トレンチ2	土師坏	12.4	2.9	①細粒②良好明③赤褐④⅙	直立。横撫で。篦削り。	欠損。		20
18	E-4 トレンチ2	土師高台椀	15.4	6.0	①中粒②良好③明赤褐④⅔	外傾。横撫で。篦削り。	篦削り。高台後付け。		20
19	E-4 トレンチ2	須恵蓋	－	－	①細粒②良好③灰④¼	轆轤。 回転篦調整。偏平な円形摘まみ。口縁部欠損。			20
20	E-4 トレンチ2	土師坏	12.9	3.9	①細粒②良好③にぶい橙④⅙	直立。横撫で。篦削り。	欠損。		20
21	E-4 トレンチ2	土師坏	16.2	－	①細粒②良好③にぶい赤褐④¼	直立。横撫で。 篦削り。	欠損。		20
22	E-4 トレンチ2	土師坏	19.2	－	①細粒②良好③明赤褐④⅙	内湾。横撫で。篦削り。	欠損。　　大型の坏。		20
23	E-4 トレンチ2	土師坏	11.5	－	①細粒②良好③灰褐④1／6	外反。横撫で。篦削り。	欠損。		21
24	E-4 トレンチ2	須恵坏	－	－	①細粒②良好③灰④¼	外傾。轆轤。	欠損。		21
25	E-4 トレンチ2	土師深鉢	－	－	①細粒②良好③にぶい橙④－	外傾。篦削り。	欠損。		21
26	E-4 トレンチ2	須恵高台椀	－	－	①細粒②良好③緑灰④⅙	外傾。轆轤。	欠損。高台後付け。		21
27	E-4 トレンチ2	土師坏	12.4	－	①細粒②良好③にぶい赤褐④¼	外傾。横撫で。篦削り。	欠損。		21
28	E-4 トレンチ2	須恵坏	－	－	①細粒②良好③灰④⅙	外傾。轆轤。	回転糸切り未調整。		21
29	E-4 トレンチ3	須恵坏	14.0	3.6	①細粒②良好③灰白④⅜	外傾。轆轤。	回転糸切り未調整。		21
30	E-4 トレンチ3	須恵蓋	13.1	－	①細粒②良好③灰④⅓	轆轤。回転篦調整。摘まみ欠損。			21
31	E-4 トレンチ4	土師甕	17.0	33.9	①細粒②良好③明緑灰④⅔	外反ぎみ。刷毛目後撫で。胴部中央に最大径を有す。丸胴甕。			21
32	E-4 トレンチ4	土師特殊器台	17.9	－	①細粒②良好③にぶい橙④½	外反。横撫で。 篦磨き。受け部の下に鍔状の突帯を有す。胴部に4単位?の丸形透かし孔。脚部は裾広がりとなると思われるが欠損。			21
33	E-4 トレンチ5	須恵坏	12.8	5.4	①細粒②良好③灰④¼	外傾。轆轤。	欠損。		21
34	E-4 トレンチ5	土師坏	14.2	－	①細粒②良好③灰褐④¼	直立。横撫で。篦削り。	欠損。		21
35	E-4 トレンチ5	須恵高台椀	14.6	5.7	①細粒②良③好灰④¼	外傾。轆轤。	回転糸切り撫で調整。高台後付け。		21
36	E-4 トレンチ5	土師坏	11.4	3.6	①中粒②良好③にぶい橙④½	内湾。横撫で。内外面刷毛目後雑な磨き。			21
37	E-4 トレンチ5	土師甕	23.4	－	①細粒②良好③灰赤④⅙	外傾。横撫で。篦削り。	欠損。	口縁部に最大径。	21
38	E-4 トレンチ5	深　鉢	－	－	①中粒②良好③灰褐④－	外傾。横撫で。篦削り。	内面縦方向刷毛目。底部肥厚。		21
39	E-4 トレンチ5	土師甕	12.2	29.7	①中粒②良好③にぶい赤褐④¼	「く」の字状口縁。横撫で。篦削り。胴部中央に最大径を有す。頸部に縄状の文様を有す。胴部外面に縦方向刷毛目。丸胴甕。			22
40	E-4X32Y6	須恵坏	13.1	4.1	①細粒②良好③灰白④⅙	外傾。轆轤。	回転糸切り未調整。		22
41	E-4X35Y7	土師坏	12.5	3.8	①中粒②良好③にぶい橙④¼	直立。横撫で。篦削り。	篦削り。		22
42	E-4X35Y7	土師坏	16.5	3.5	①細粒②良好③にぶい赤褐④1／6	直立。横撫で。篦削り。	欠損。	胴部に指頭痕。	22
43	E-4X35Y7	土師坏	13.4	3.1	①細粒②良好③にぶい橙④¼	外傾。横撫で。篦削り。	篦削り。		22
44	E-4X36Y6	須恵蓋	－	－	①細粒②良好③灰④⅓	轆轤。回転篦調整。偏平な円形摘まみ。口縁部欠損。			22
45	E-4X36Y6	須恵蓋	－	－	①細粒②良好③灰④¼	轆轤。回転篦調整。偏平な円形摘まみ。、口縁部の返し消失。			22
46	E-4X40Y8	土師坏	13.0	3.3	①中粒②良好③褐灰④½	外傾。轆轤。	回転糸切り未調整。		22
47	E-4 D－4	須恵坏	13.9	4.2	①中粒②良好③にぶい黄橙④¼	外傾。轆轤。	回転糸切り未調整。		22
48	E-4 D－8	須恵高台椀	－	－	①細粒②良好③灰④⅓	欠損。轆轤。	回転糸切り後撫で調整。高台後付け。		22
49	E-4 D－8	須恵高台椀	14.5	5.5	①細粒②良好③灰④⅓	外傾。轆轤。	欠損。高台後付け。		22
50	E-4 表採	土師坏	13.0	3.8	①細粒②良好③橙④¼	内湾。横撫で。篦削り。	篦削り。		22

番号	出土位置	器形	大きさ 口径	大きさ 器高	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	成・整形方法 口縁・胴部	成・整形方法 底部	備考	Fig.
51	E-5	土師坏	12.0	3.7	①細粒②良好③にぶい赤褐④⅚	内湾。横撫で。篦削り。	欠損。		22
52	E-5 埋土	須恵高台椀	12.4	5.2	①細粒②良好③灰④¾	外傾。轆轤。	回転糸切り後撫で調整。高台後付け。		22
53	E-5	須恵坏	14.1	3.9	①細粒②良好③灰④⅚	外傾。轆轤。	回転糸切り篦調整。		22
54	E-5	土師坏	14.0	4.3	①中粒②良好③にぶい橙④¾	内湾。横撫で。篦削り。	篦削り。	内面に暗文。	22
55	E-5	須恵坏	13.1	3.9	①細粒②良好③灰④½	外傾。轆轤。	回転糸切り後篦調整。		22
56	E-5 埋土	土師坏	13.2	3.0	①細粒②良好③明赤褐橙④1／6	内湾。横撫で。篦削り。	欠損。		22
57	E-5 表採	土師坏	12.4	3.6	①細粒②良好③にぶい黄橙④¾	内湾。横撫で。篦削り。	篦削り。		22
58	E-5 埋土	須恵蓋	－	－	①細粒②良好③黄灰④½	轆轤。回転篦調整。偏平な円形摘まみ。口縁部欠損。			22
59	試掘	土師坏	12.5	3.6	①細粒②良好③にぶい橙④⅚	直立。横撫で。篦削り。	篦削り。		22
60	試掘	土師坏	16.4	3.9	①中粒②良好③にぶい赤褐④完形	外傾。横撫で。篦削り。	篦削り。		22
61	試掘	土師坏	12.3	3.5	①細粒②良好③にぶい橙④完形	直立。横撫で。篦削り。	篦削り。		23
62	試掘南側土坑	土師甕	－	－	①細粒②良好③赤橙④－	上部欠損。刷毛目後撫で。内面横方向刷毛目。 胴部中央に最大径を有す。丸胴甕。			23
63	試掘	須恵大甕	－	－	①細粒②良好③灰④⅔	口縁部欠損。轆轤。胴部外面に平行なたたき痕		内面に青海波文。	23
64	B-3 H－6	土師甕	－	－	①細粒②良好③褐④－	欠損。 外面不定方向刷毛目。内面篦磨き。		石田川式土器。	23
65	試掘南側道路	土師台付甕	14.0	－	①細粒②良好③灰褐④－	「S」字口縁。外面刷毛目。内面篦磨き。		石田川式土器。	23
66	試掘南側道路	土師台付甕	12.9	－	①細粒②良好③赤灰④－	「S」字口縁。外面刷毛目。内面篦磨き。		石田川式土器。	23

註)表の記載は以下の基準で行った。

①胎土は、細粒(0.9㎜以下)、 中粒(1.0～1.9㎜以下)、 粗粒(2.0㎜以上)とした。

②焼成は、 極良、 良好、 不良の３段階。

③色調は土器外面で観察し、 色名は新版標準土色帖(小山・竹原1976)によった。

④大きさの単位は㎝であり、現存値を記載した。

Tab. 6　鉄器・石器・土製品観察表

番号	出土位置	器種	長	幅	厚	重さ	備考	Fig
1	X51Y21	土錘	5.6	1.9	1.6	13.8	完形	23
2	X50Y21	土錘	4.6	〔1.8〕	1.5	〔12.2〕	一部欠損	23
3	X47Y 7	砥石	2.7	2.4	1.2	6.0	二面使用	23
4	X31Y 7	香炉の足？	2.9	1.9	1.6	9.4	施釉	23
5	D－2	燭台？	3.4	2.8	1.4	24.4	－	23
6	E－5埋土	分銅？	2.1	2.0	1.9	31.8	－	23
7	E－4トレンチ5	石鏃	〔1.6〕	1.2	0.2	〔 0.4〕	一部欠損	23
8	E － 5	石鏃	〔2.2〕	〔1.2〕	0.2	〔 0.6〕	一部欠損	23
9	六供試掘南側道路	石さじ	4.8	8.2	0.9	32.0	完形	23

註）表の記載で、大きさと重さについての単位は㎝、ｇであり、現存値は〔 〕で示した。

Tab. 7　鉄クズ観察表

番号	出　土　位　置	大　き　さ	重さ
1	E－4　トレンチ4	6.5×6.0	140
2	E－4　トレンチ4	6.0×5.0	110
3	E－4　トレンチ4	6.5×5.0	130
4	E－4　トレンチ4	5.0×4.0	56
5	E－4　トレンチ4	5.5×4.5	74
6	E－4　トレンチ4	7.5×5.0	114
7	E－4　トレンチ4	3.0×2.8	26
8	E－4　トレンチ4	6.7×4.0	50
9	E－4　トレンチ4	4.0×3.0	24
10	E－4　トレンチ4	12.0×9.0	574
11	E－4　埋土	6.0×4.0	76
12	E－4　トレンチ3	計測不能	30
13	E－4　トレンチ3	計測不能	36
14	E－4　トレンチ3	計測不能	10
15	E－4　トレンチ4	4.0×3.4	20
16	E－4　トレンチ3	9.4×7.5	294
17	E－4　トレンチ3	7.2×4.3	80
18	E－4　トレンチ3	10.0×6.5	146
19	E－4　トレンチ3	計測不能	19
20	E－4　トレンチ3	5.5×4.0	130
21	E－4　トレンチ3	計測不能	20
22	E－4　トレンチ3	7.0×5.5	60
23	E－4　トレンチ3	4.0×4.0	50
24	E－4　トレンチ3	計測不能	10
25	E－4　2トレ埋土	6.0×4.0	45
26	E－4　3トレ埋土	6.0×4.8	94
27	E－4　3トレ埋土	4.5×4.0	50
28	E－4　3トレ埋土	4.0×3.3	34
29	E－4　3トレ埋土	8.5×6.8	250
30	E－4　3トレ埋土	4.5×5.0	74
31	E－4　3トレ埋土	8.5×4.3	116
32	E－4　3トレ埋土	5.5×4.0	40
33	E－4　3トレ埋土	4.0×2.8	20
34	E－4　3トレ埋土	3.0×2.3	12
35	E－4　3トレ埋土	3.0×2.5	12
36	E－4　3トレ埋土	3.2×2.2	12
37	E－4　3トレ埋土	3.0×2.0	12
38	E－4　3トレ埋土	2.2×1.5	8
39	E－4　3トレ埋土	2.5×1.0	6
40	E－4　3トレ埋土	3.0×2.5	20
41	E－4　3トレ埋土	3.0×2.0	10
42	E－4　4トレ埋土	4.0×4.0	34
43	E－4　3トレ埋土	6.3×5.3	70
44	E－4　3トレ埋土	6.0×4.4	104
45	E－4　3トレ埋土	3.0×3.8	40
46	E－4　3トレ埋土	4.3×3.5	30
47	E－4　3トレ埋土	5.3×3.0	30
48	E－4　3トレ埋土	3.0×2.5	20
49	E－4　3トレ埋土	2.5×2.2	14
50	E－4　3トレ埋土	2.7×2.4	10
51	E－4　3トレ埋土	2.7×1.8	10
52	E－4　埋土	2.2×1.8	40
53	E－4　埋土	2.5×1.8	60
54	E－4　4トレ埋土	5.5×3.5	54
55	E－4　4トレ埋土	6.0×4.8	74
56	E－4　5トレ埋土	4.3×3.5	24
57	E－4　D－13	3.5×3.5	20
58	X35～40Y8間の埋土	6.0×4.0	70
59	X35～40Y8間の埋土	5.5×3.8	60
60	X35～40Y8間の埋土	4.5×4.0	40
61	X35～40Y8間の埋土	4.0×3.0	44
62	X35～40Y8間の埋土	3.3×2.8	14
63	X35～40Y8間の埋土	3.0×2.2	16
64	X35～40Y8間の埋土	5.8×2.0	14
65	X35～40Y8間の埋土	5.0×3.5	40
66	X40～45Y7～9間の埋土	5.3×3.0	34
67	X40～45Y7～9間の埋土	5.0×4.5	44
68	X40～45Y7～9間の埋土	3.8×3.0	22
69	X40～45Y7～9間の埋土	2.0×2.0	6
70	X31～35Y7～8間の埋土	3.5×1.5	8
71	X37，Y8の埋土	3.7×2.2	16
72	X37，Y8の埋土	2.7×2.2	16
73	X32，Y7の埋土	6.0×4.5	70
74	六供下堂木遺跡試掘	10.0×9.0	576
75	B－2　埋土	4.5×4.2	46
76	B－2　埋土	5.5×3.2	34
77	B－2　埋土	3.5×2.8	40
78	B－2　埋土	4.0×2.5	14
79	B－2　埋土	2.8×2.0	6
80	E－5　埋土	6.7×4.6	60

注）　表の記載で、大きさと重さの単位はcmとgである。

付編　六供下堂木遺跡の自然科学分析

株式会社 古環境研究所

六供下堂木遺跡におけるプラント・オパール分析

1．はじめに

植物珪酸体は、ガラスの主成分である珪酸（SiO２）が植物の細胞内に蓄積したものであり、植物が枯死した後も微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。プラント・オパール（植物珪酸体）分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出し、その組成や量を明らかにする方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている。

六供下堂木遺跡の発掘調査では、E-1区において浅間Ｂテフラ（As-B）層直下より水田跡が検出された。そこで、プラント・オパール分析を行い、同遺構における稲作の検証とその他の層における稲作跡の探査を試みることになった。

2．試　料

調査地点は、B-2区南西地点，E-1区北壁，E-4区南壁の３地点である。

試料は、B-2区南西地点では下位より黒色粘質土（試料５）、灰色軽石混じり黒褐色土（試料４）、白色軽石混じり灰色土（試料３）、黒色粘質土（試料２）の４点、E-1区北壁ではAs-B直下の黒色粘質土（試料６，７）より２点、E-4区南壁では下位より黒色土（試料11）黄灰色軽石に富む黒褐色土（試料10）、暗灰色土（試料８）の３点の計９点が採取された（図１～３）。

3．分析法

プラント・オパールの抽出と定量は、「プラント・オパール定量分析法（藤原，1976）」をもとに、次の手順で行った。

１）試料土の絶乾（105℃・24時間）

２）試料土約1gを秤量、ガラスビーズ添加（直径約40μm，約0.02g）

　※電子分析天秤により１万分の１gの精度で秤量

３）電気炉灰化法による脱有機物処理

４）超音波による分散（300W・42KHz・10分間）

５）沈底法による微粒子（20μm以下）除去、乾燥

６）封入剤（オイキット）中に分散，プレパラート作成

７）検鏡・計数

検鏡は、おもにイネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパール（以下、プラント・オパールと略す）を同定の対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート１枚分の精査に相当する。

検鏡結果は、計数値を試料１g中のプラント・オパール個数（試料１gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズの個数の比率を乗じて求める）に換算して示した。また、おもな分類群（イネ，キビ族，ヨシ

属，ウシクサ族，タケ亜科）については、この値に試料の仮比重（1.0と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重，単位：10－5g）を乗じて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出し図示した。換算係数は、イネは赤米、キビ族はヒエ、ヨシ属はヨシ、ウシクサ族はススキ、タケ亜科については数種の平均値を用いた。その値は、それぞれ2.94（種実重は1.03）、8.40、6.31、1.24、0.48である（杉山・藤原，1987）。

4．分析結果

9試料すべてについて分析を行った結果、イネ、ヨシ属、ウシクサ族、タケ亜科の各分類群のプラント・オパールが検出された。これらについて定量を行い、その結果を表1、図1～3にまとめた。巻末に検出された分類群の顕微鏡写真を示した。

次に、プラント・オパールの検出状況について述べる。

イネはB-2区南西地点の試料2，3，4、E-1区北壁の試料6，7、E-4区南壁の試料8より検出された。いずれも5,000個／g以上の高い密度である。ヨシ属、ウシクサ族、タケ亜科の各分類群は分析を行ったすべての試料より検出された。このうち、ヨシ属はB-2区南西地点の試料5とE-1区北壁の試料6，7で高い密度である。ウシクサ族はB-2区南西地点の試料2，5、E-1区北壁の試料6，7、E-4区南壁の試料8，11で高い密度である。タケ亜科はE-4区南壁の試料8，11で高い密度である。とくに試料11では20,000個／g以上と非常に高い値である。

5．考　察

稲作跡（水田跡）の検証や探査を行う場合、通常、イネの植物珪酸体が試料1gあたりおよそ5,000個以上の密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している。また、プラント・オパール密度にピークが認められれば、上層から後代のものが混入した危険性は考えにくく、密度が基準値に満たなくても稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。以上のことを基準として稲作の可能性について考察を行う。

水田遺構検出層であるE-1区北壁の試料6，7では、イネのプラント・オパールが6,200～6,700個／gの高い密度で検出された。したがって、本遺構において稲作が行われていたものと判断される。

B-2区南西地点では、イネのプラント・オパールはAs-B直下の試料2、その下位の試料3、榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr-FA）層直下の試料4の3試料より検出された。プラント・オパール密度はそれぞれ12,000個／g，8,600個／g，8,400個／gといずれも非常に高い値である。したがって、これら各層については稲作跡である可能性が高いと考えられる。

E-4区南壁では、イネのプラント・オパールはAs-B直下の試料8のみから検出された。プラント・オパール密度は5,500個／gと高い値である。したがって、本層についても稲作跡である可能性が高いと考えられる。

これら以外の層については、イネのプラント・オパールがまったく検出されないことから、稲作跡である可能性は考えにくい。

6．まとめ

六供下堂木遺跡において検出された水田遺構およびその他の層についてプラント・オパール分析を行い、稲作の検証ならびに稲作跡の探査を試みた。その結果、浅間Ｂテフラ層直下より検出された水田遺構からはイネのプラント・オパールが高い密度で検出され、当該遺構において稲作が行われていたことが分析的に検証された。なお、本層準では他の2

地点においてもイネのプラント・オパールが高い密度で検出されていることから、当時は調査区の広い範囲が水田であったと推定される。また、B-2区南西地点一帯では榛名二ツ岳渋川テフラ層の上下層についても稲作跡である可能性が高いと判断された。

文献

杉山真二・藤原宏志（1987）川口市赤山陣屋跡遺跡におけるプラント・オパール分析．赤山－古環境編－．川口市遺跡調査会報告，10，p.281-298.

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)－数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－．考古学と自然科学，9，p15-29.

藤原宏志（1979）プラント・オパール分析法の基礎的研究(3)－福岡・板付遺跡（夜臼式）水田および群馬・日高遺跡（弥生時代）水田におけるイネ（ O.sativa　L.）生産総量の推定－．考古学と自然科学，12，p29-41.

藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)－プラント・オパール分析による水田址の探査－．考古学と自然科学，17，p73-85.

表１　六供下堂木Ⅱ遺跡のプラント・オパール分析結果

検出密度（単位：×100個／ｇ）

分類群＼試料	Ｂ－２区南西壁				Ｅ－１区北壁		Ｅ－４区南壁		
	2	3	4	5	6	7	8	10	11
イネ	120	86	84		67	62	55		
キビ族（ヒエ属など）									
ヨシ属	15	7	21	93	60	68	24	13	9
ウシクサ属（ススキ属など）	53	21	28	40	67	62	63	20	61
タケ亜科（おもにネザサ節）	38	36	42	53	47	75	150	67	280

推定生産量（単位：kg／m²・cm）

イネ	3.53	2.52	2.48		1.96	1.81	1.62		
（イネ籾）	1.24	0.88	0.87		0.69	0.63	0.57		
キビ属（ヒエ属など）									
ヨシ属	0.95	0.45	1.33	5.90	3.79	4.32	1.49	0.84	0.55
ウシクサ属（ススキ属など）	0.65	0.27	0.35	0.50	0.83	0.76	0.78	0.25	0.76
タケ亜科（おもにネサザ属）	0.18	0.17	0.20	0.26	0.22	0.36	0.72	0.32	1.34

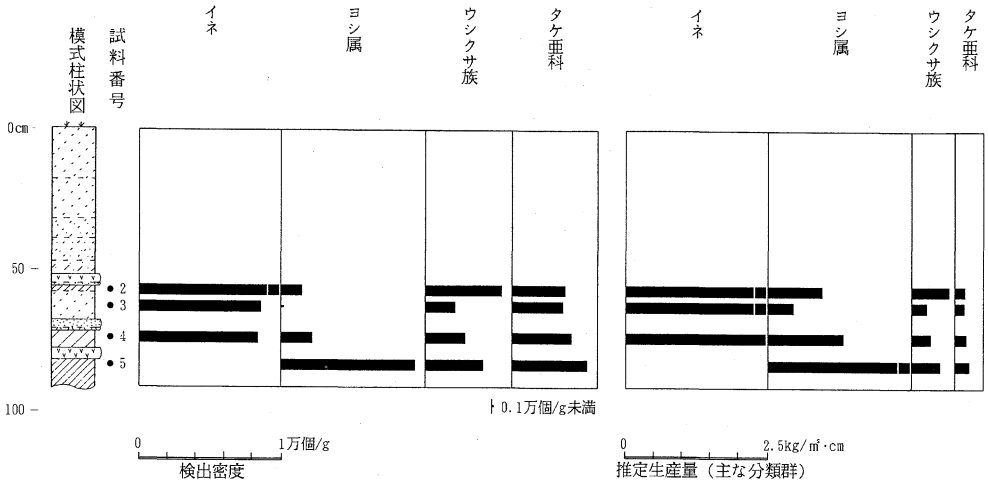


図1　B－2区南西壁のプラント・オパール分析結果
※主な分類群について表示。

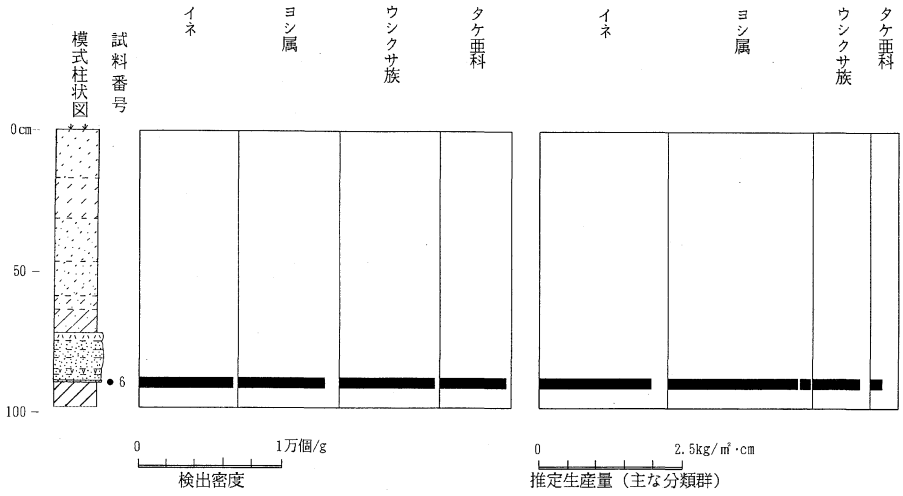


図2　E－1区北壁のプラント・オパール分析結果
※主な分類群について表示。

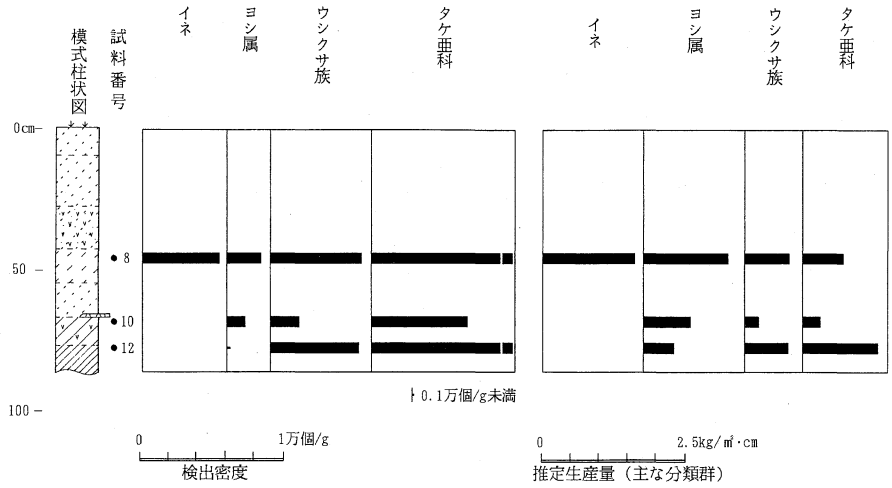
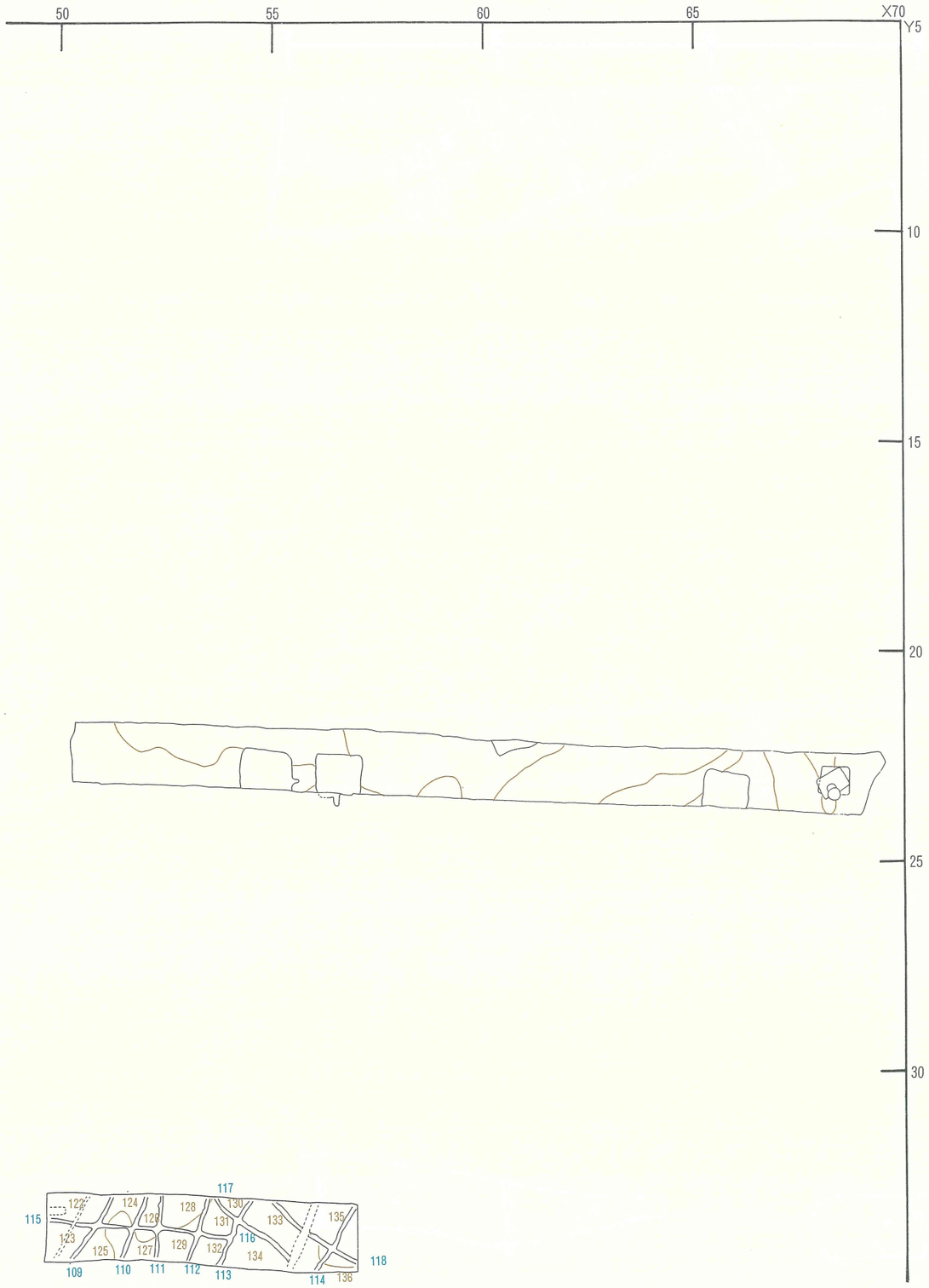


図3　E－4区南壁のプラント・オパール分析結果
※主な分類群について表示。

Fig. 7　六供下堂木Ⅱ遺跡全体図（古墳時代）


50
55
60
65
X70
Y5
10
15
20
25
30
117
115
122
124
128
130
133
135
123
125
127
129
131
132
116
134
118
109
110
111
112
113
114
136

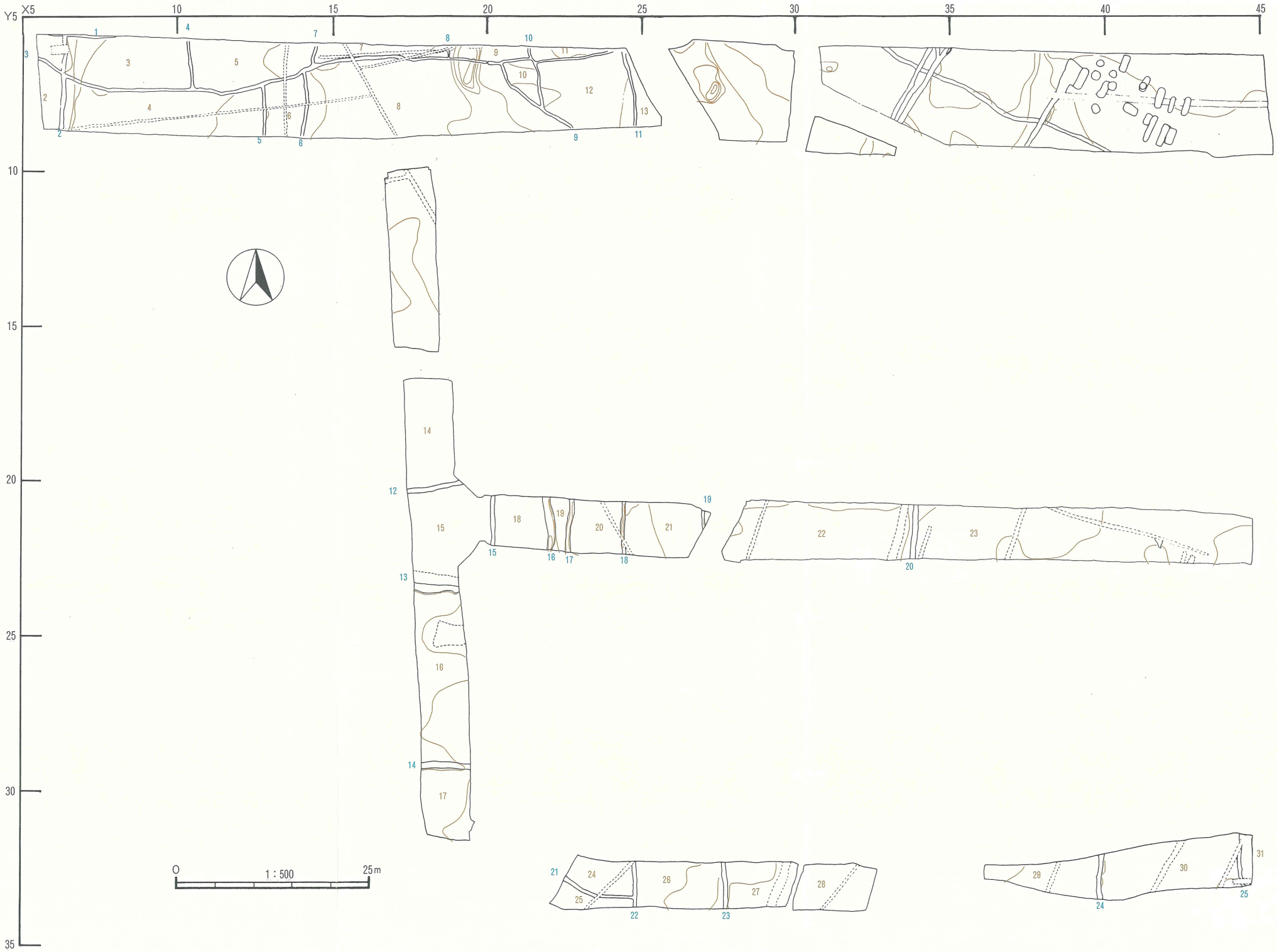
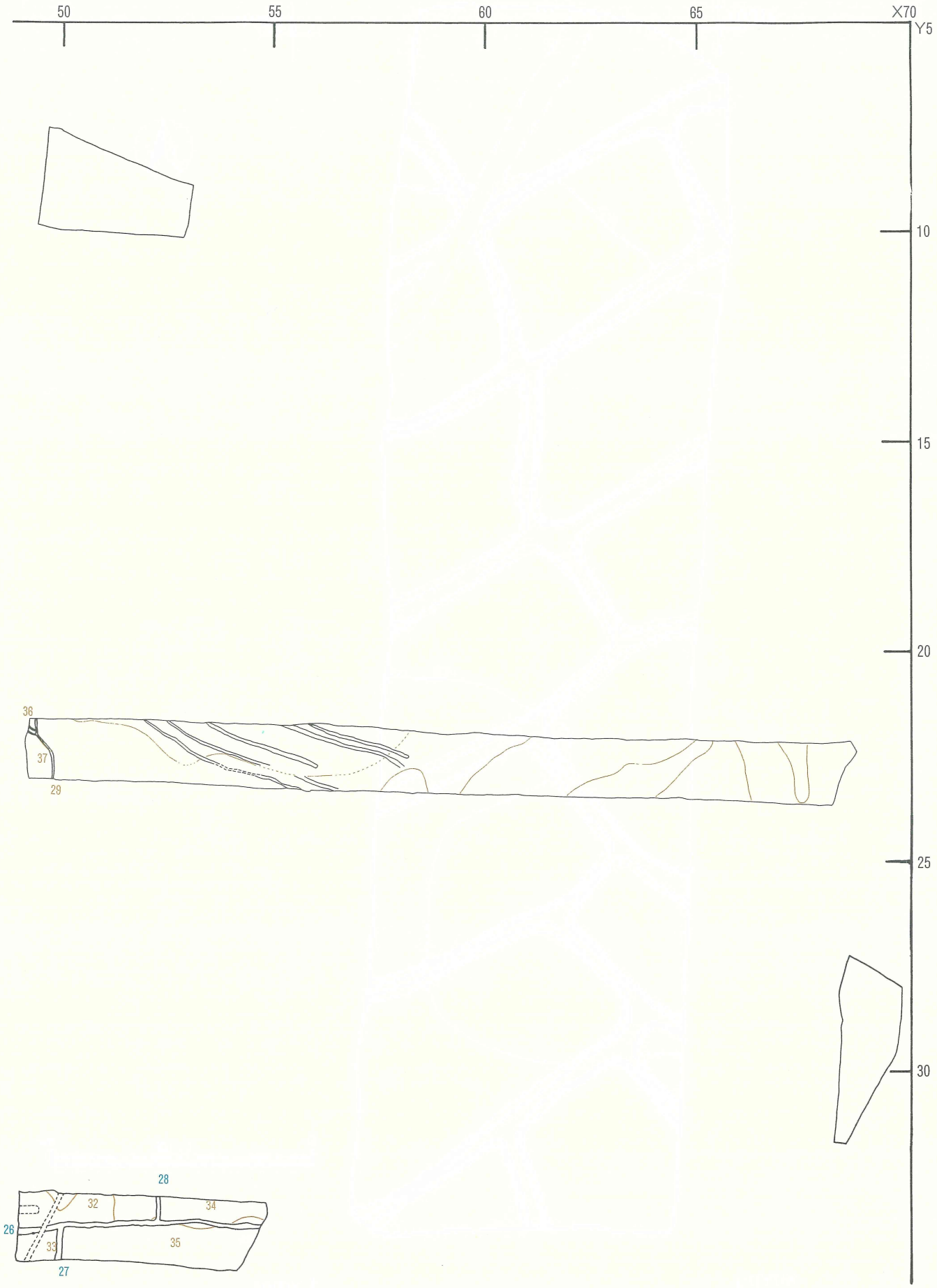


Fig. 8　六供下堂木Ⅱ遺跡全体図（平安時代）


50
55
60
65
X70
Y5
10
15
20
25
30
36
37
29
28
32
34
26
33
35
27

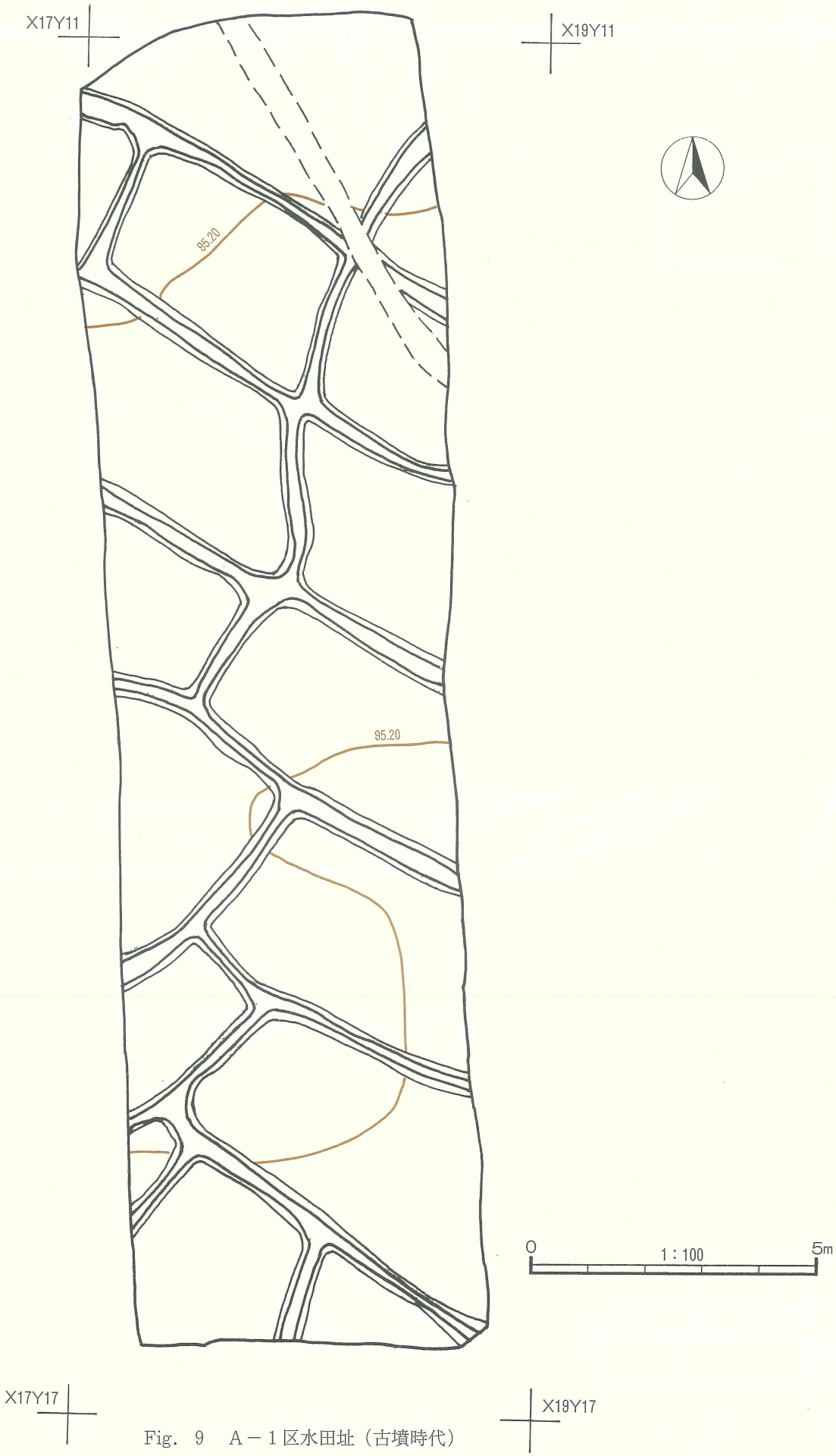


Fig. 9　A－1区水田址（古墳時代）

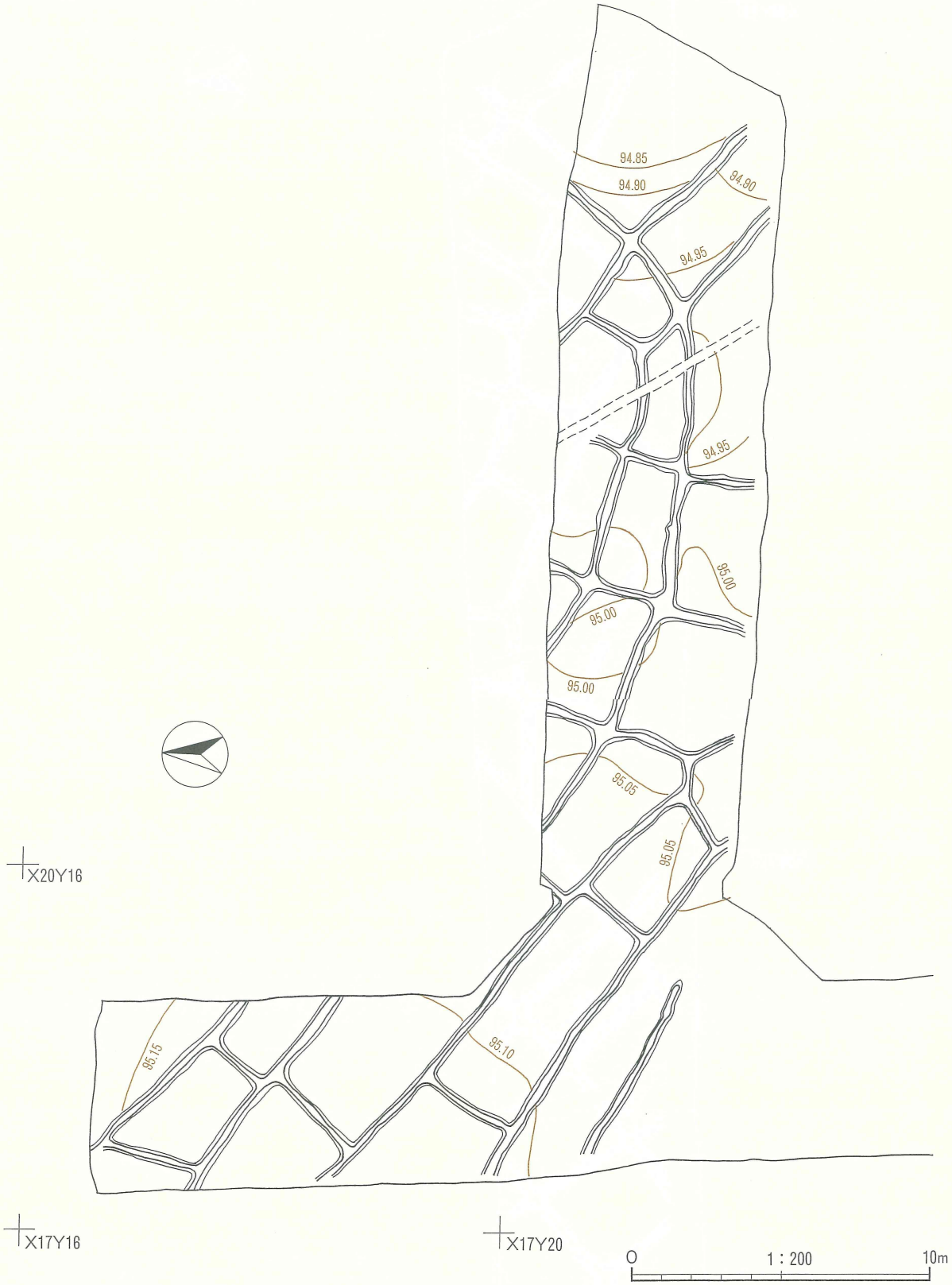


Fig. 10　A－2・B－1区水田址（古墳時代）

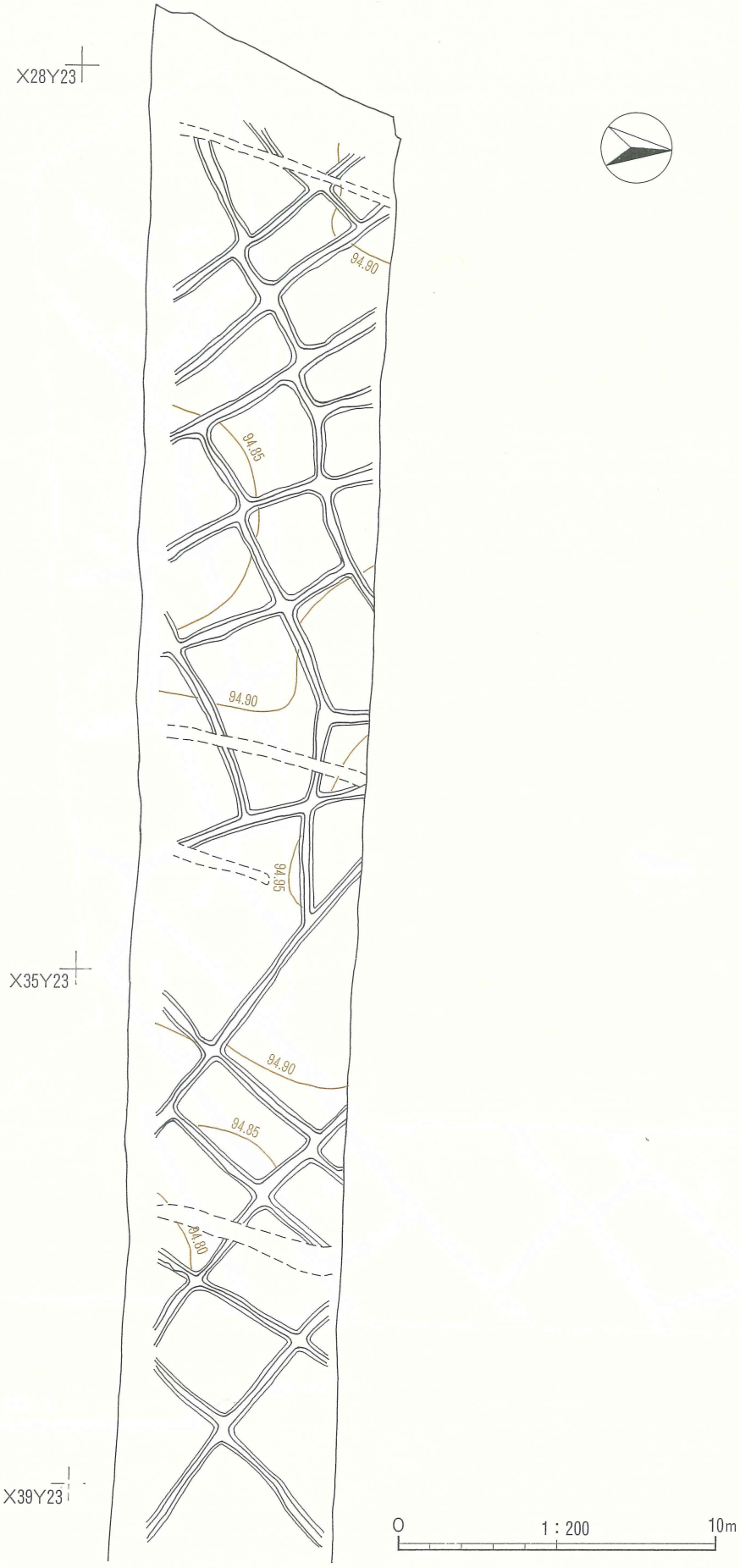


Fig. 11　B－2区水田址（古墳時代）

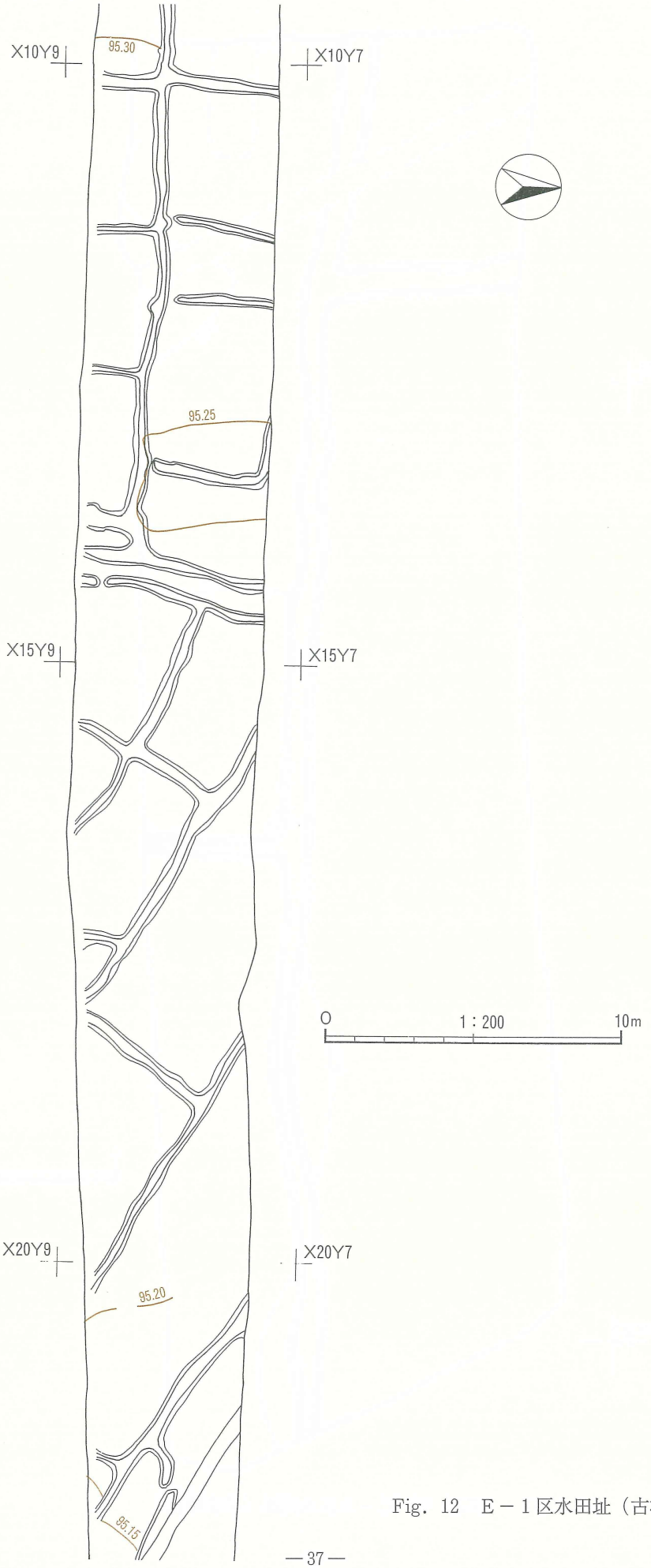


Fig. 12　E－1区水田址（古墳時代）

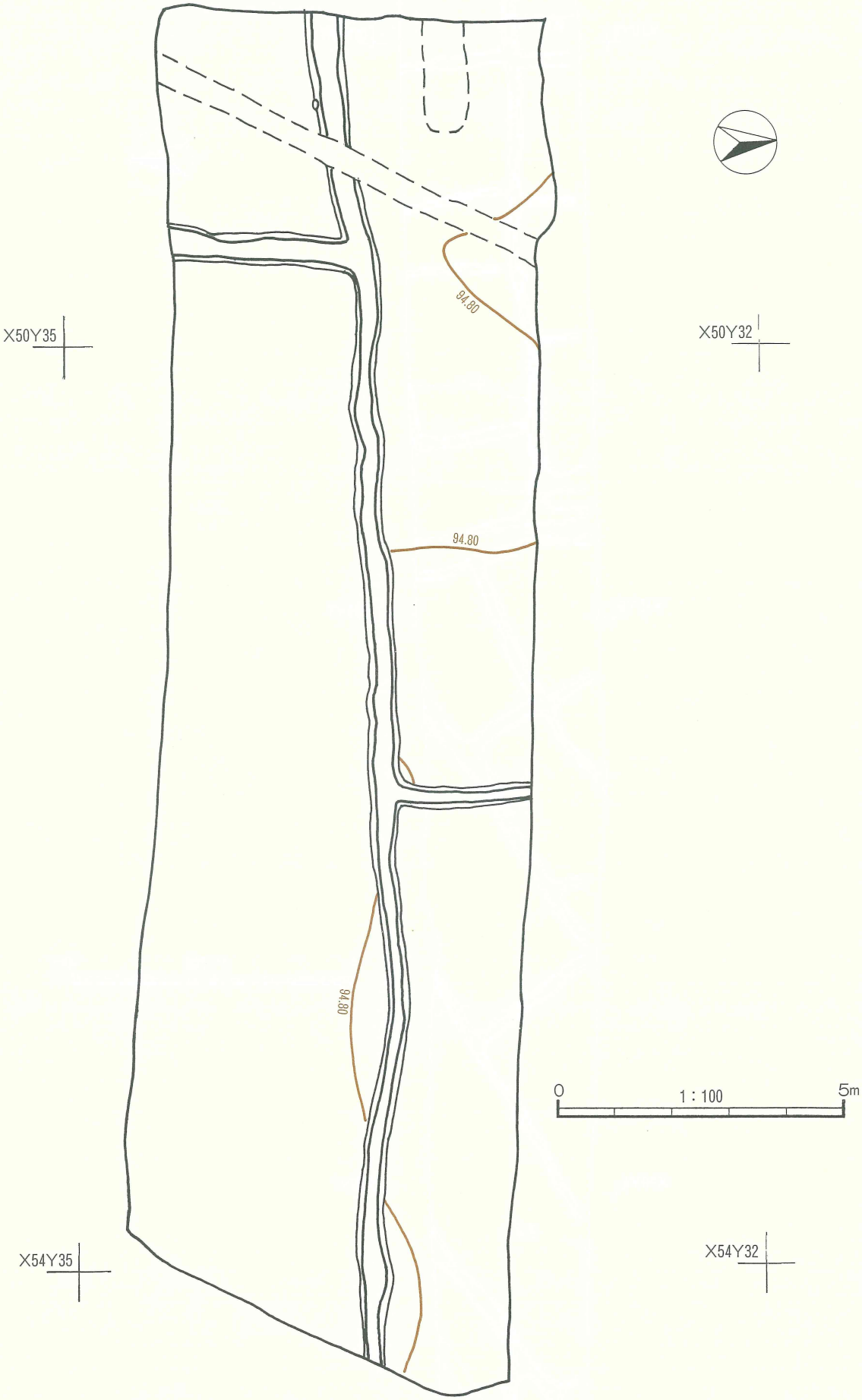


Fig. 13　C－3区水田址（平安時代）

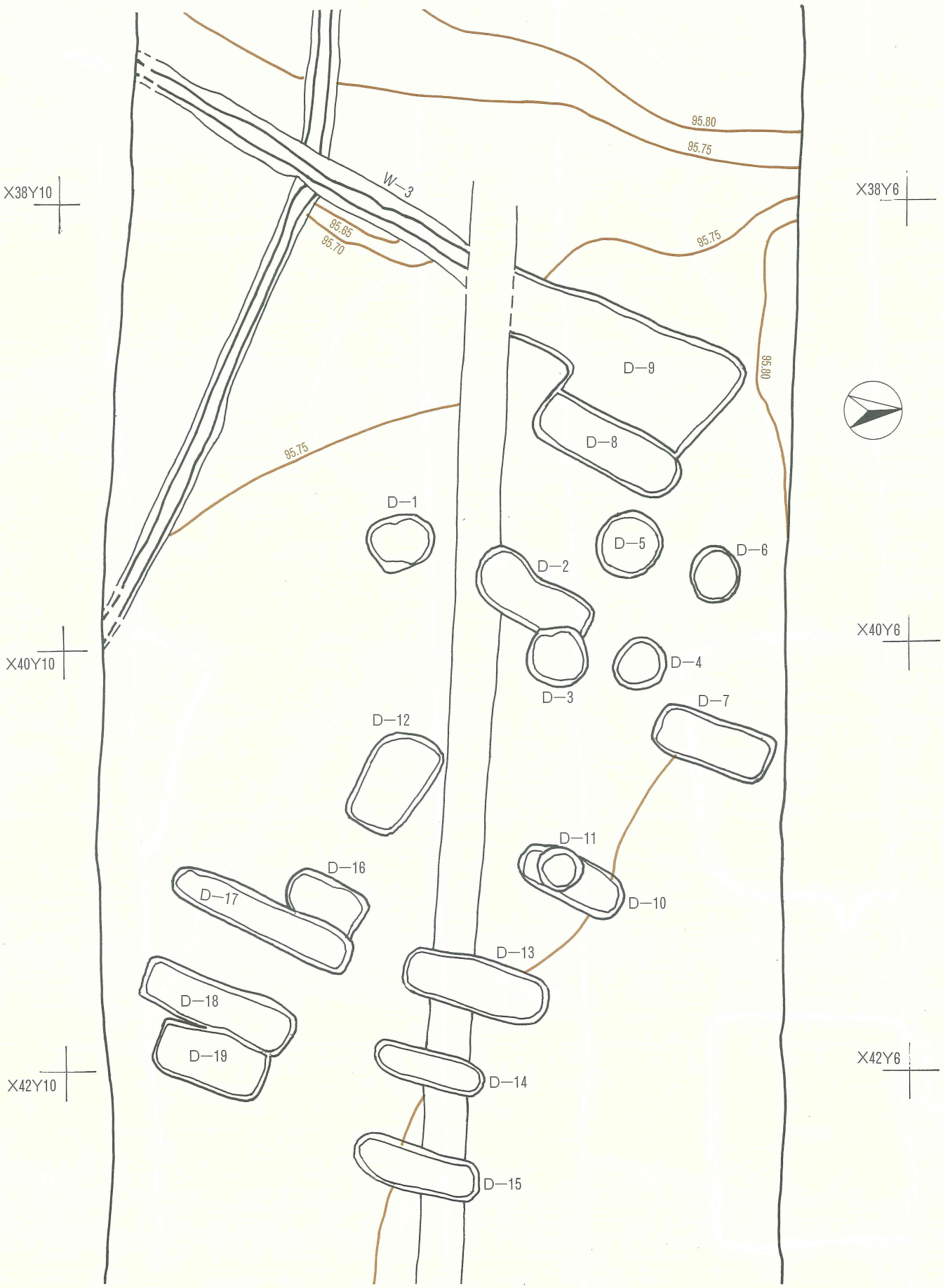


Fig. 14　E－4区土坑址

0　1：100　10m

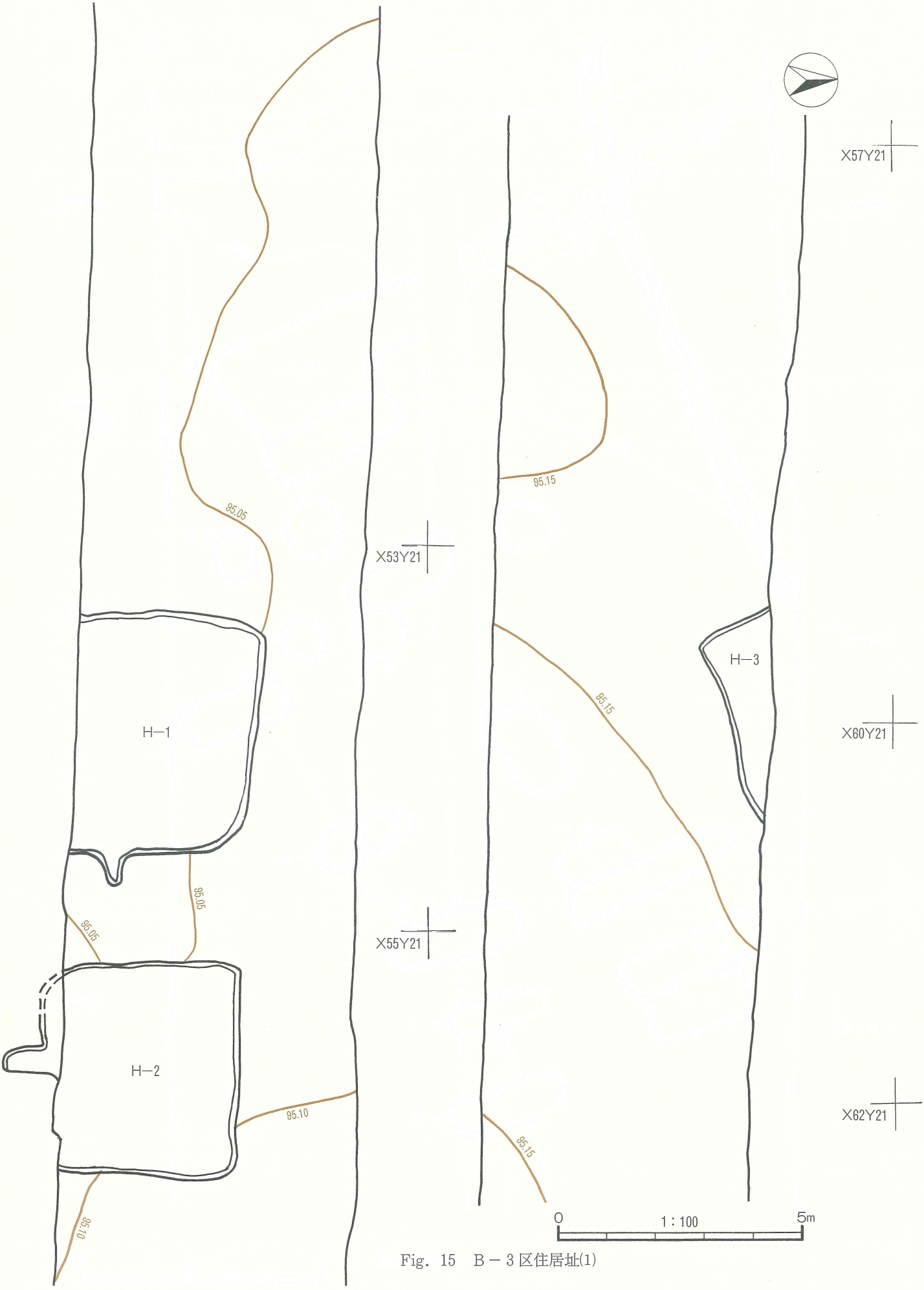


Fig. 15　B－3区住居址(1)

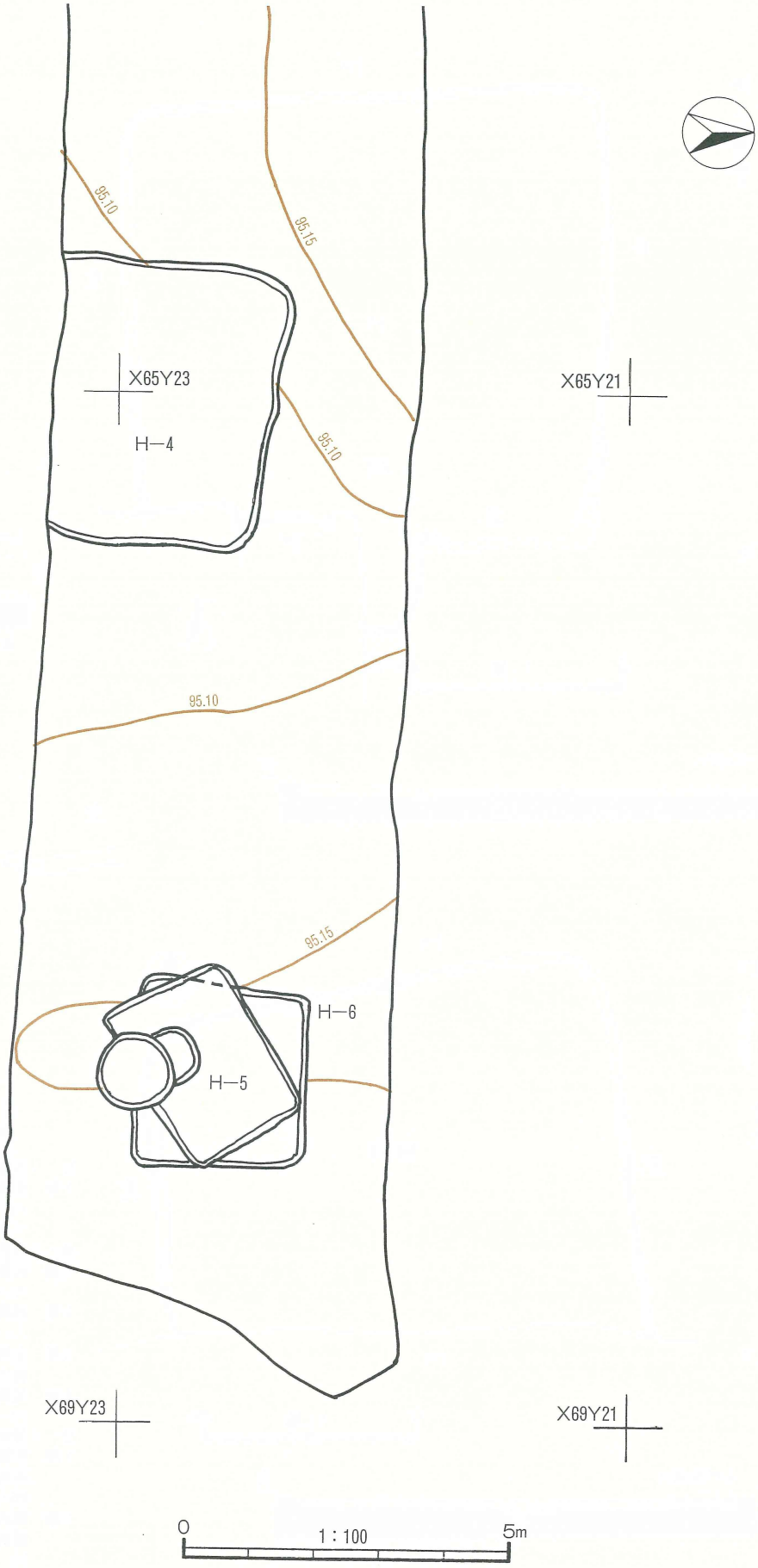
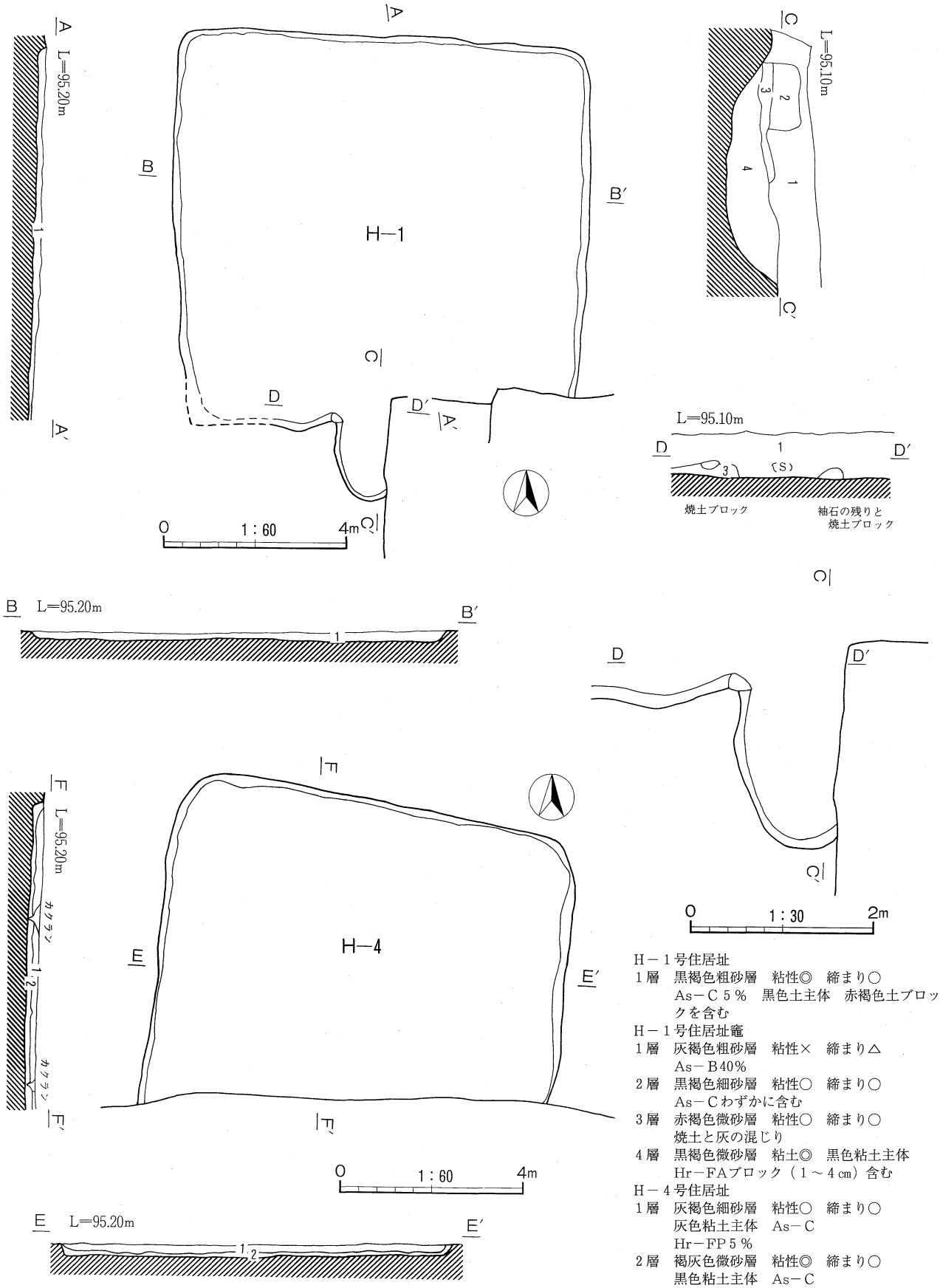
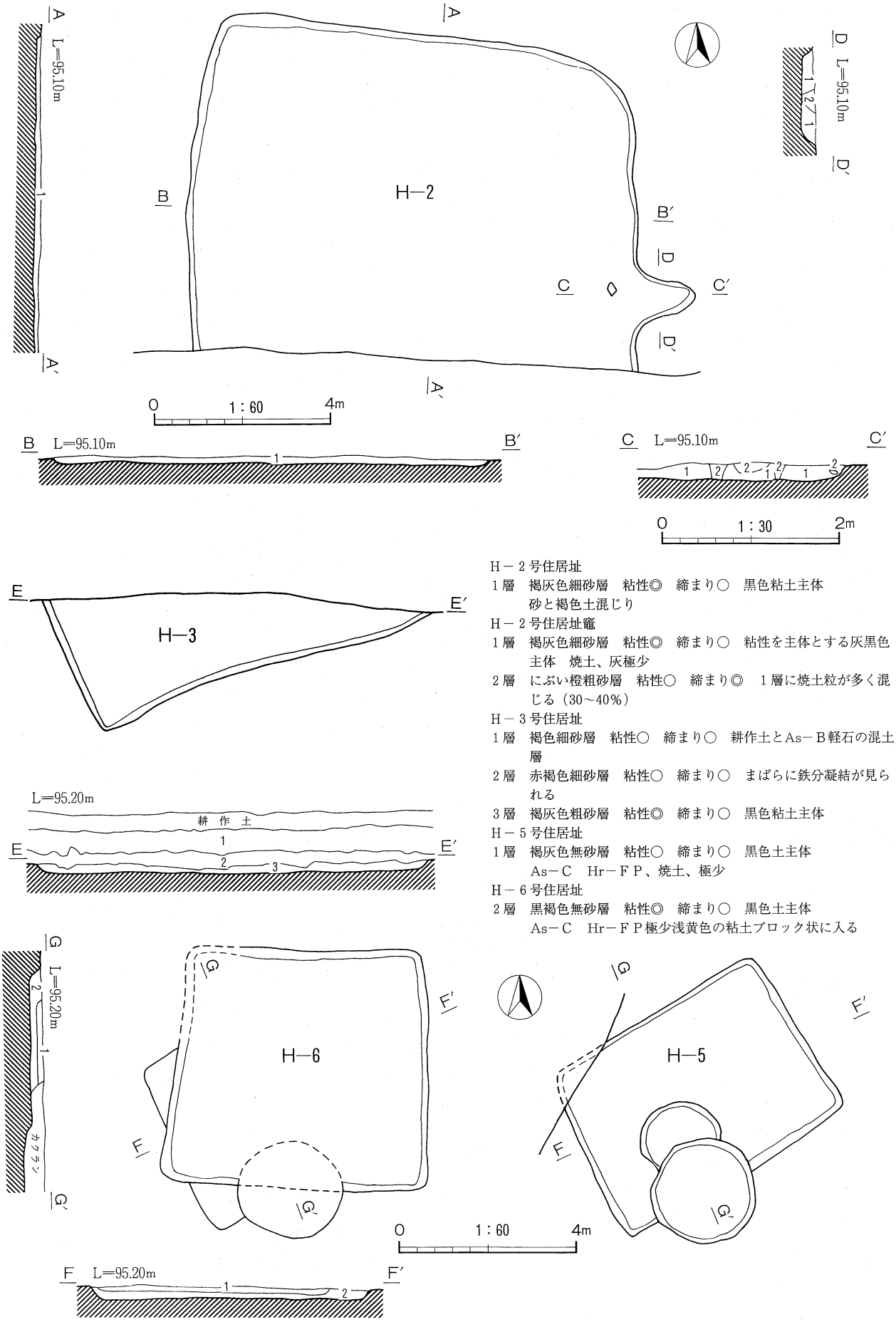


Fig. 16　B－3区住居址(2)



H－1号住居址
1層　黒褐色粗砂層　粘性◎　締まり○
As－C 5％　黒色土主体　赤褐色土ブロックを含む
H－1号住居址竈
1層　灰褐色粗砂層　粘性×　締まり△
As－B40％
2層　黒褐色細砂層　粘性○　締まり○
As－Cわずかに含む
3層　赤褐色微砂層　粘性○　締まり○
焼土と灰の混じり
4層　黒褐色微砂層　粘土◎　黒色粘土主体
Hr－FAブロック（1～4㎝）含む
H－4号住居址
1層　灰褐色細砂層　粘性○　締まり○
灰色粘土主体　As－C
Hr－FP 5％
2層　褐灰色微砂層　粘性◎　締まり○
黒色粘土主体　As－C
Hr－FP共に極少

Fig. 17　H－1・4号住居址



H－2号住居址
1層　褐灰色細砂層　粘性◎　締まり○　黒色粘土主体
　　砂と褐色土混じり
H－2号住居址竈
1層　褐灰色細砂層　粘性◎　締まり○　粘性を主体とする灰黒色主体　焼土、灰極少
2層　にぶい橙粗砂層　粘性○　締まり◎　1層に焼土粒が多く混じる（30～40%）
H－3号住居址
1層　褐色細砂層　粘性○　締まり○　耕作土とAs－B軽石の混土層
2層　赤褐色細砂層　粘性○　締まり○　まばらに鉄分凝結が見られる
3層　褐灰色粗砂層　粘性◎　締まり○　黒色粘土主体
H－5号住居址
1層　褐灰色無砂層　粘性○　締まり○　黒色土主体
　　As－C　Hr－FP、焼土、極少
H－6号住居址
2層　黒褐色無砂層　粘性◎　締まり○　黒色土主体
　　As－C　Hr－FP極少浅黄色の粘土ブロック状に入る

Fig. 18　H－2・3・5・6号住居址

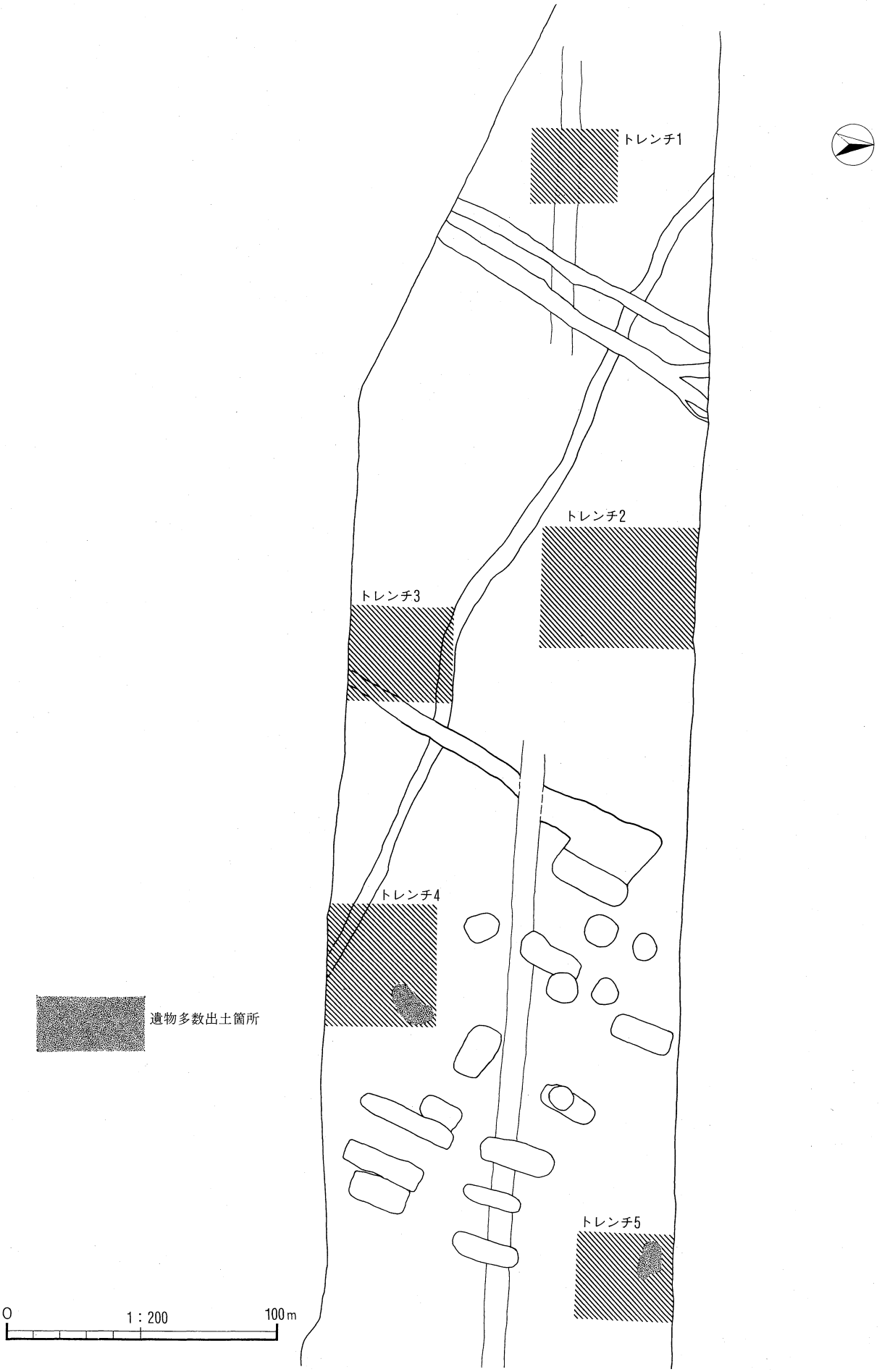


Fig. 19　E－4区トレンチ設定箇所

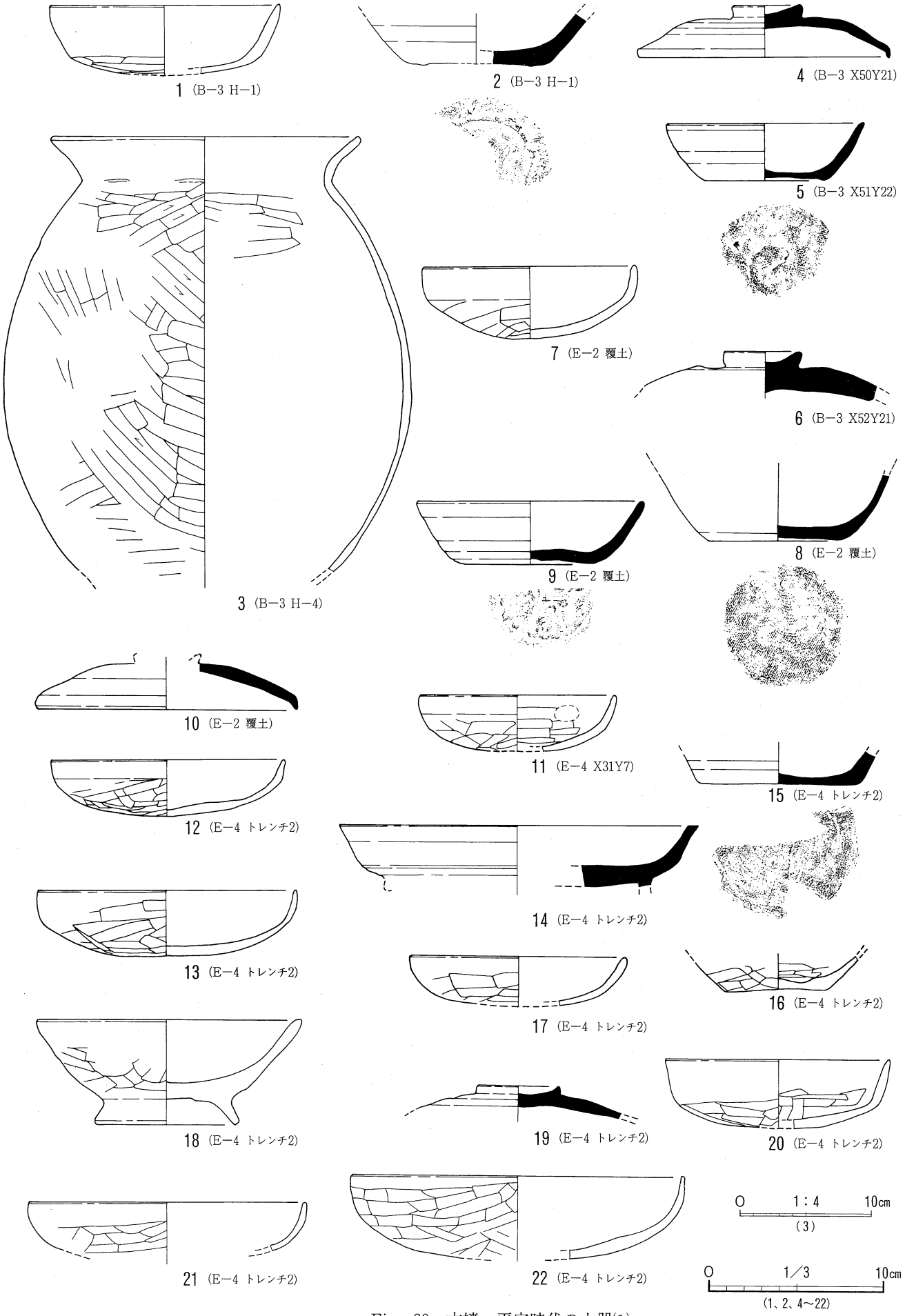


Fig. 20 古墳〜平安時代の土器(1)

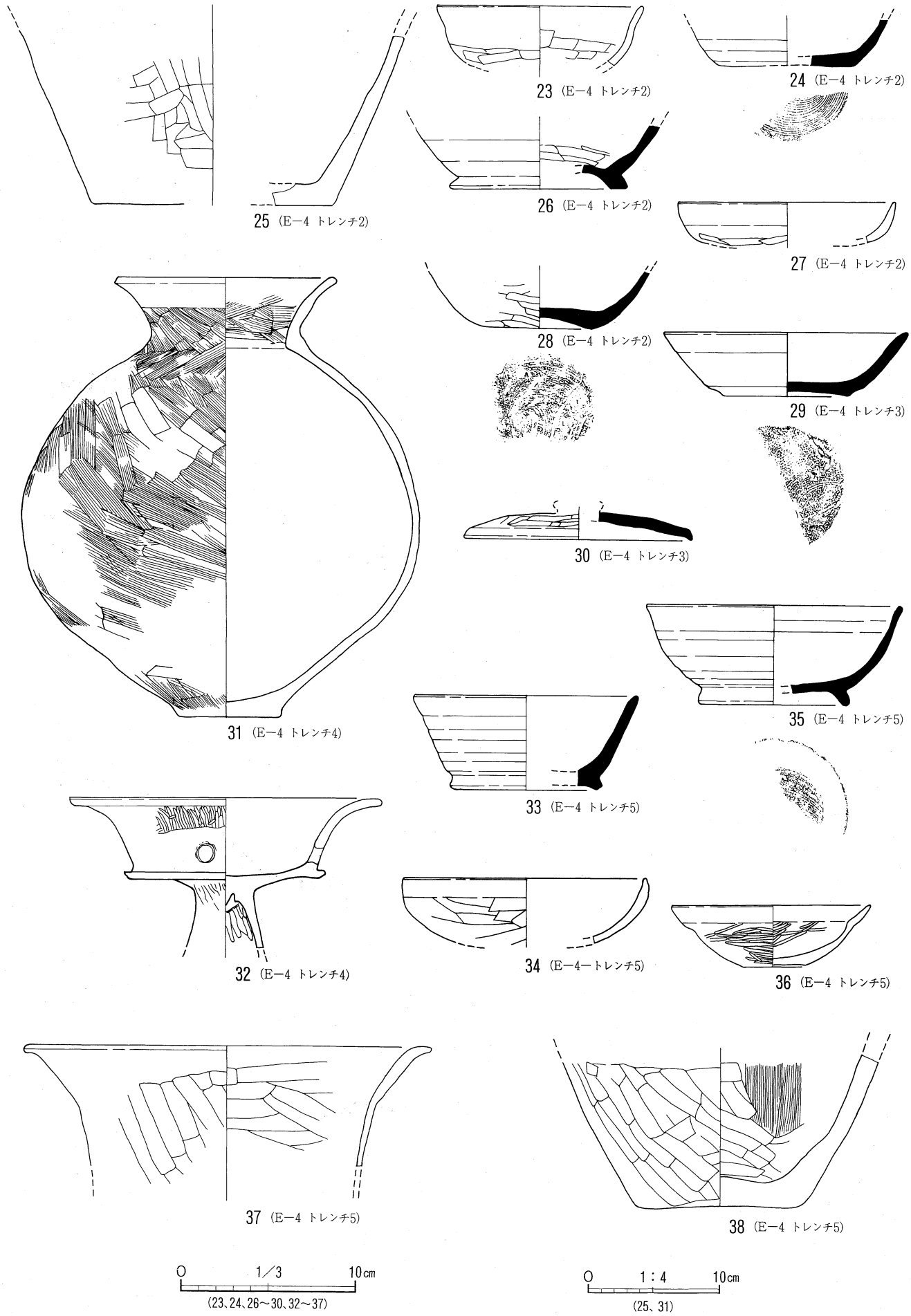


Fig. 21 古墳〜平安時代の土器(2)

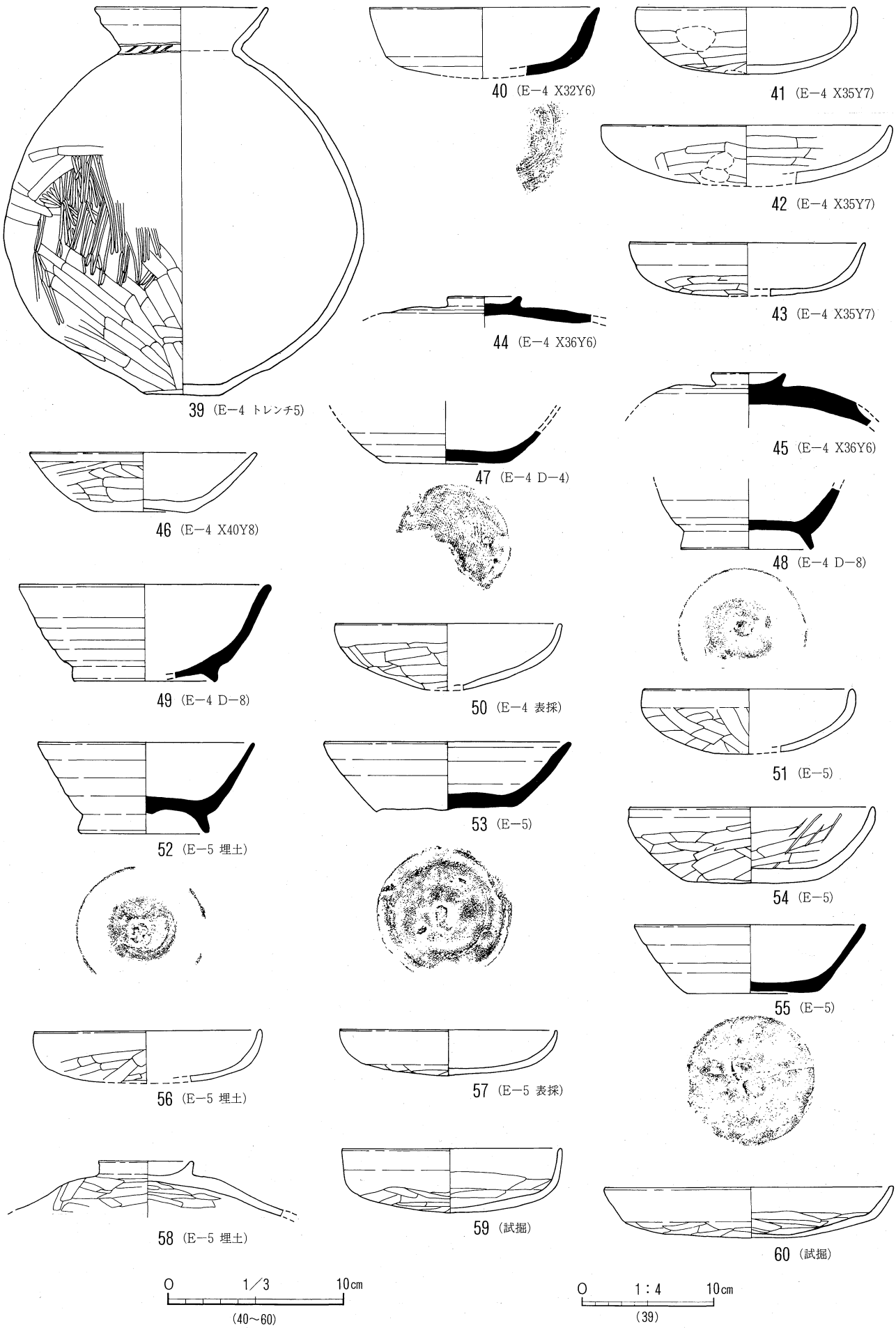


Fig. 22 古墳〜平安時代の土器(3)

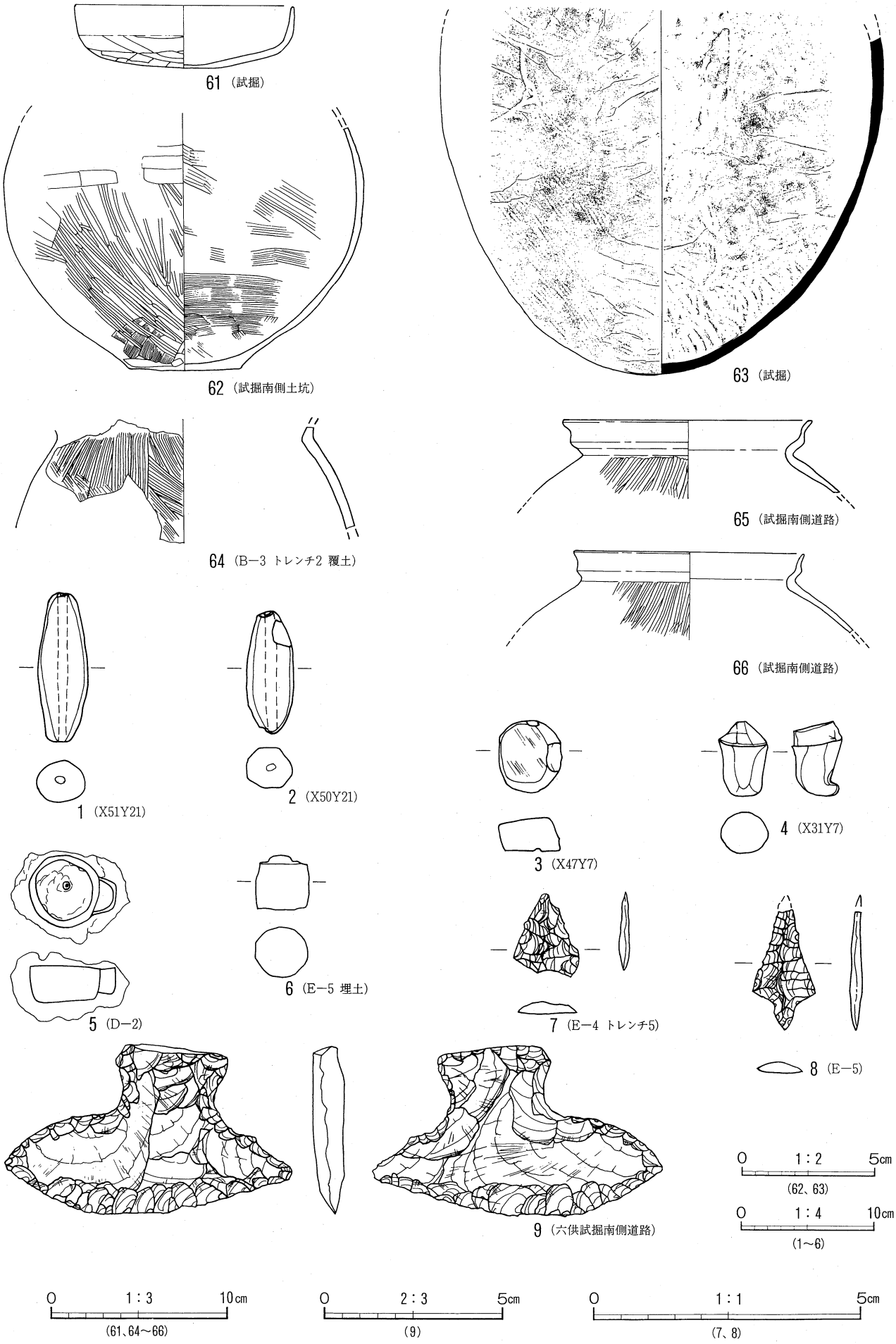
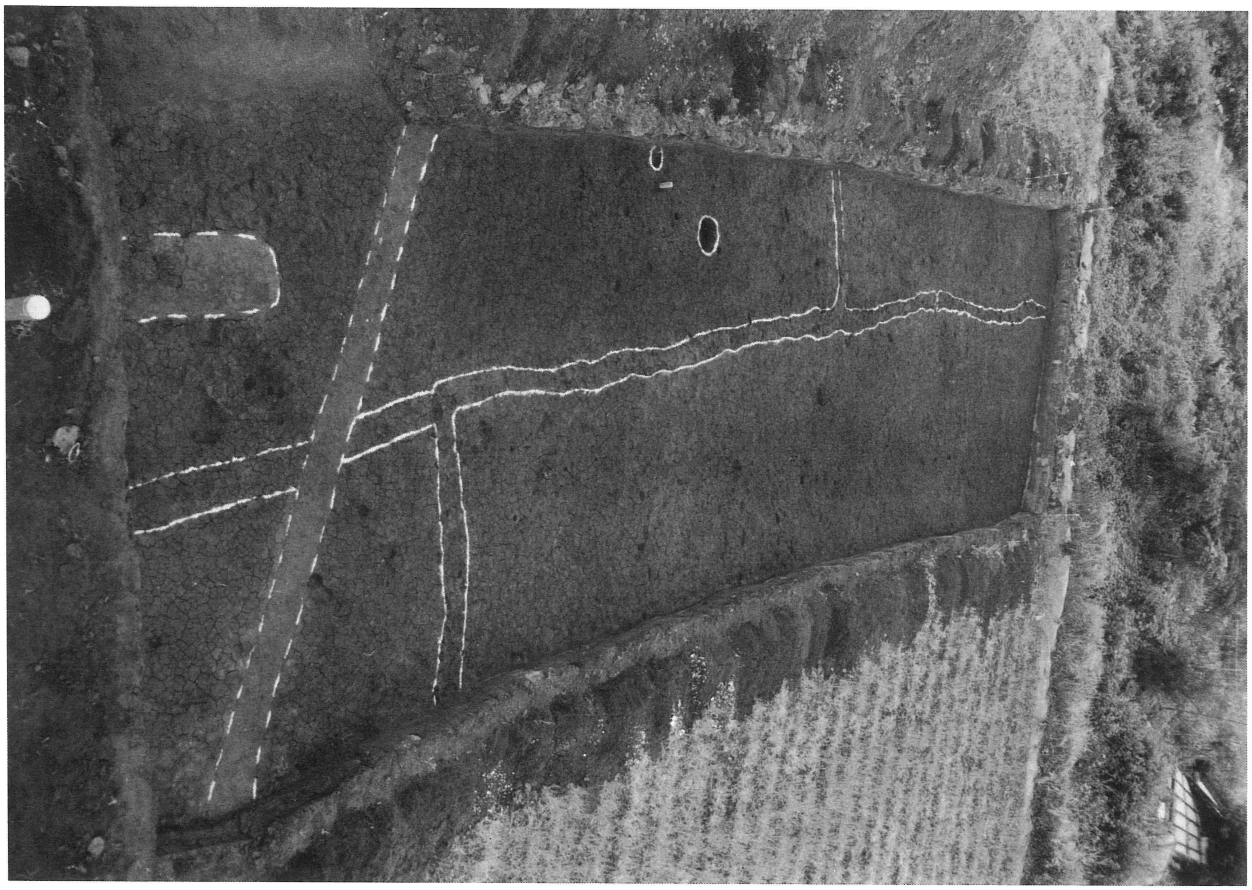
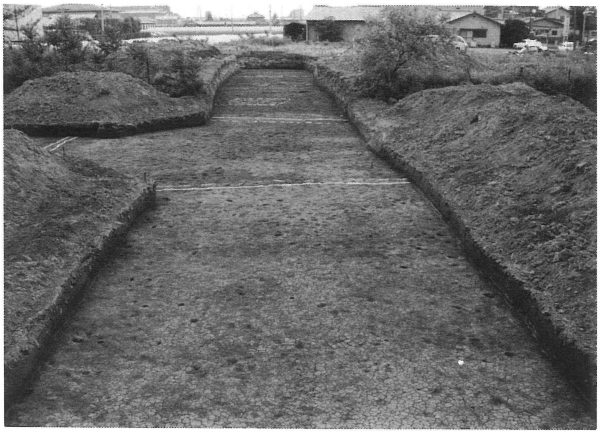


Fig. 23 古墳〜平安時代の土器(4)・鉄器、石器、土製品



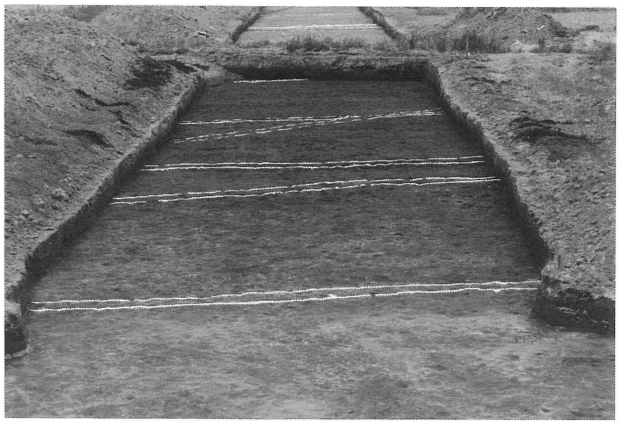
1．C—3区　全　　景　（西から）



2．A—2区　全　景（北から）

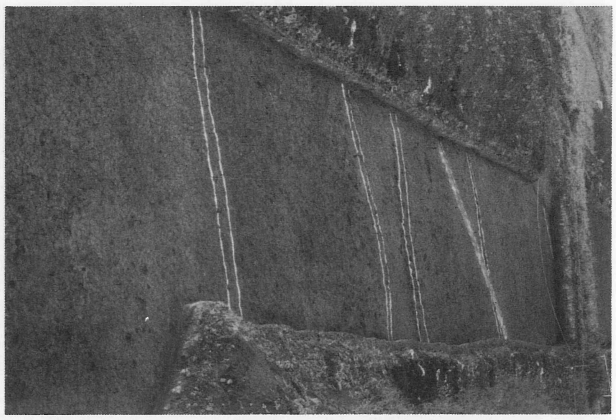
3．A—2区　全　景（南から）

4．A—2・B—1区　交　差（西から）

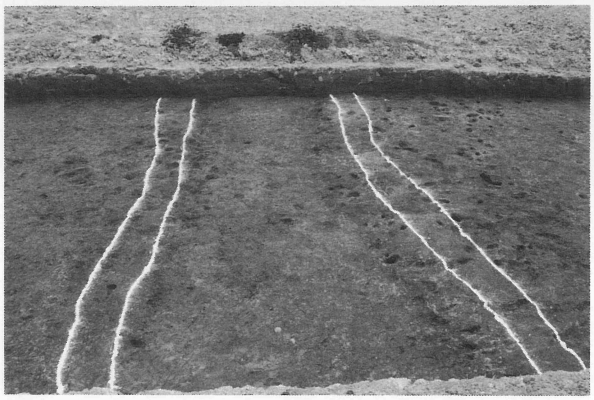


5．B—1区　全　景（西から）

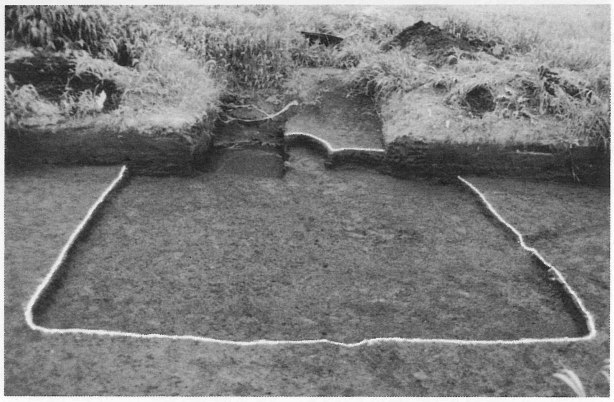
1．A－2・B－1区　全　景（西から）



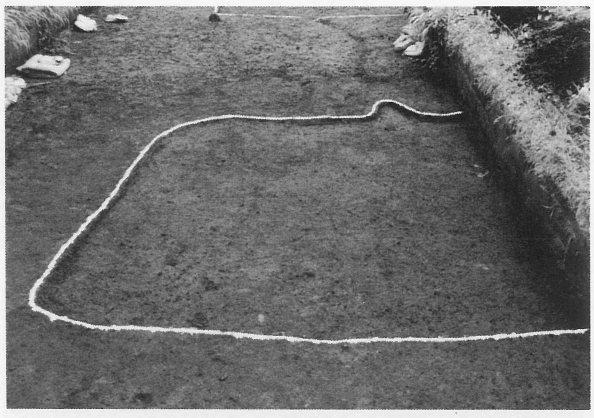
2．B－1区　全　景（南西から）



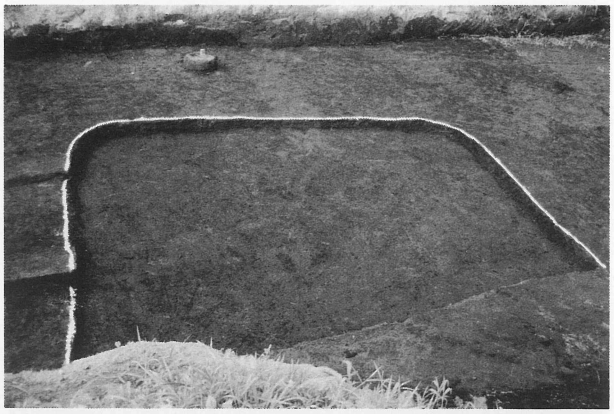
3．B－1区　畦　畔（北から）



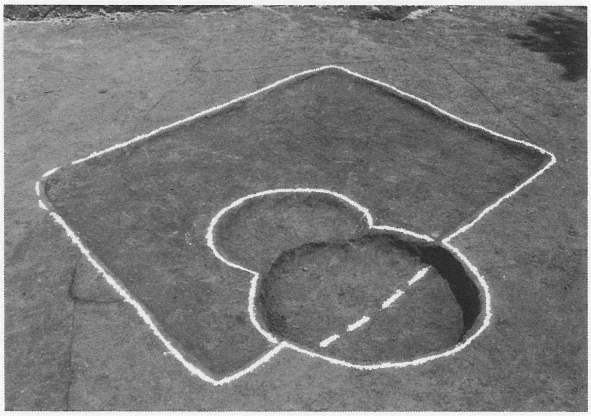
4．H－1号　住居址（北から）



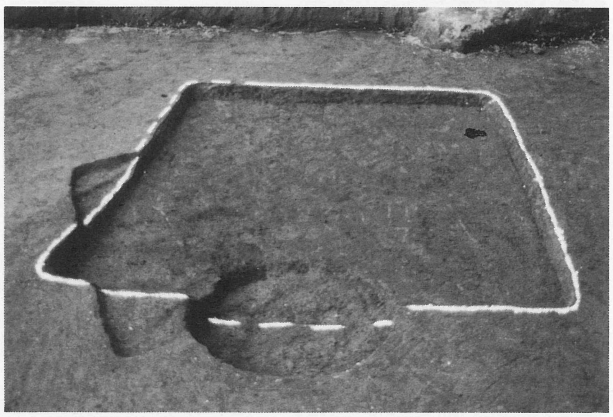
5．H－2号　住居址（西から）



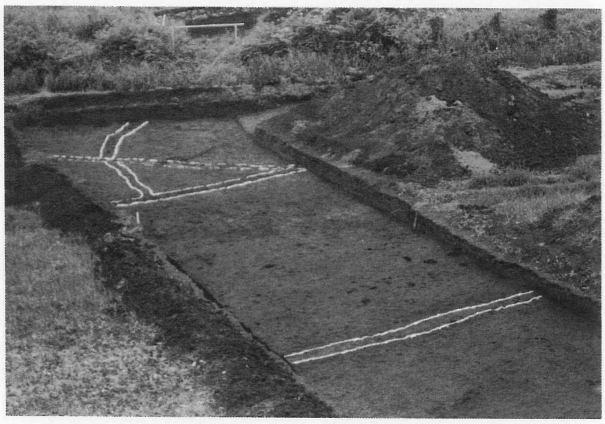
6．H－4号　住居址（南西から）



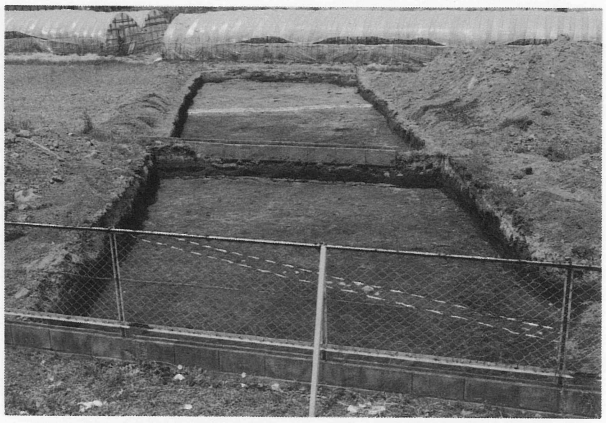
7．H－5号　住居址（南から）



8．H－6号　住居址（南から）



1．C－1区　全　景（南東から）



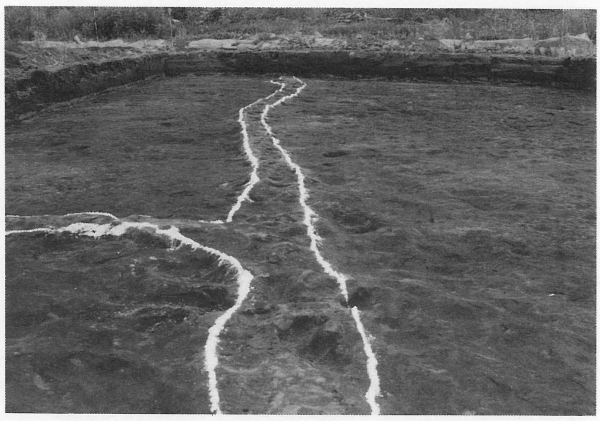
2．C－1区　全　景（東から）

3．C－2区　全　景（南西から）

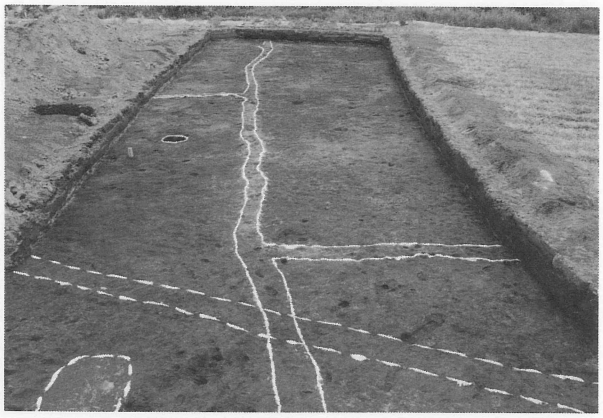
4．C－2区　全　景（東から）

5．C－2区　全　景（東から）

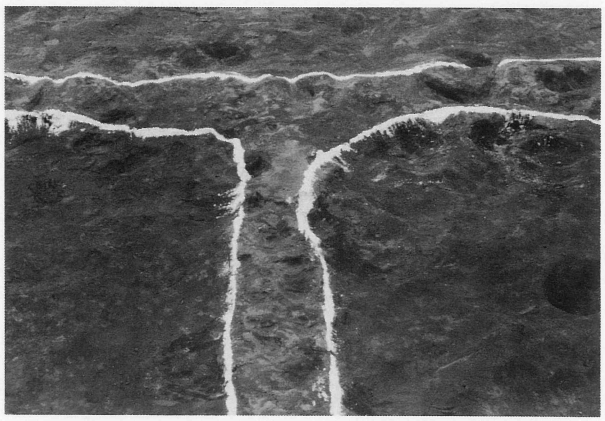
6．暗渠内部



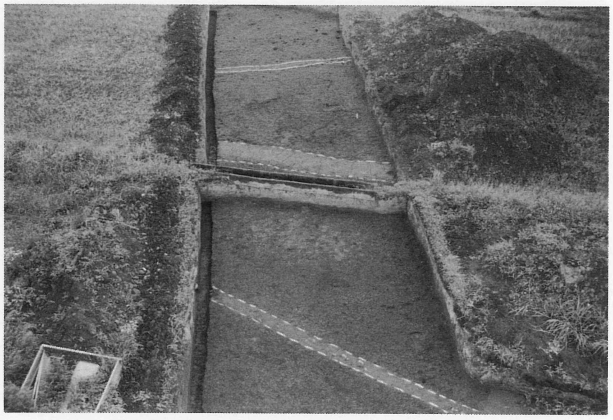
7．C－3区　畦　畔（西から）



8．C－3区　全　景（西から）



1．C－3区　畦　畔（北から）



2．C－1区　全　景（東から）

3．トレンチ4　出土遺物（東から）

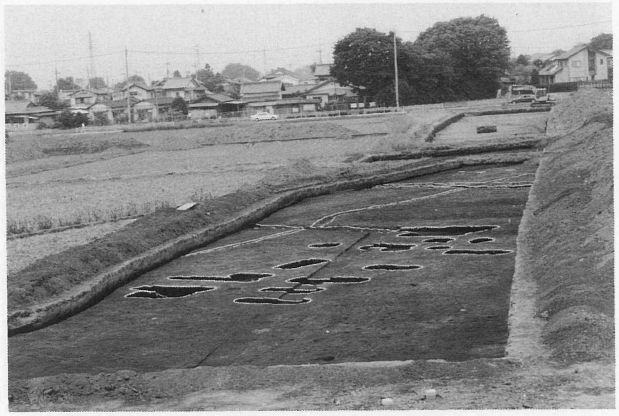
4．E－1区　全　景（西から）

5．E－4区　溝　　（南から）

6．トレンチ4　出土遺物（南から）

7．E－4区　溝出土遺物（東から）

8．E－4区　全　景（東から）



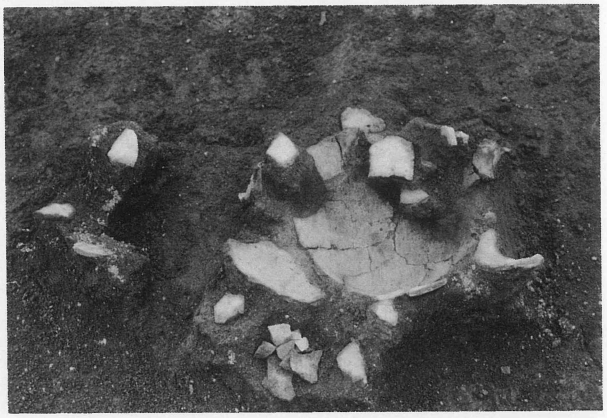
1．E－4区　全　景（北東から）

2．X36Y 7　出土遺物（西から）

3．D－8　出土遺物（西から）

4．D－13・14　　（西から）

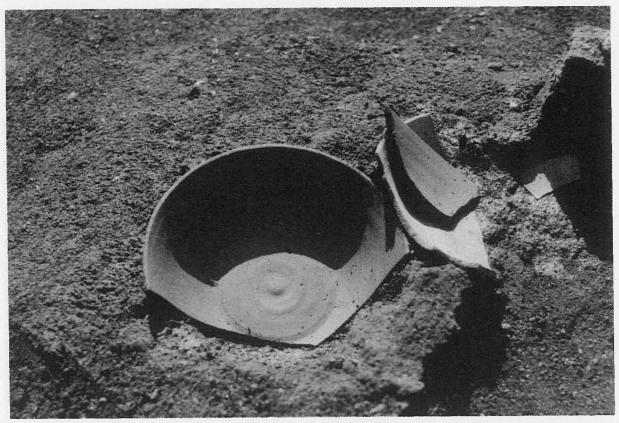
5．E－4区　土坑全景（北西から）



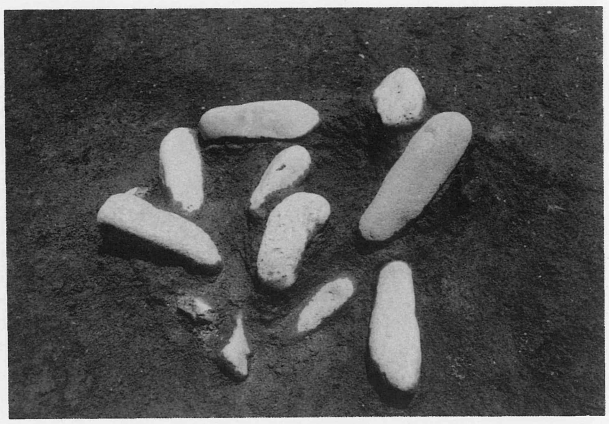
6．トレンチ5　出土遺物（南から）

7．E－5区　全　景（東から）

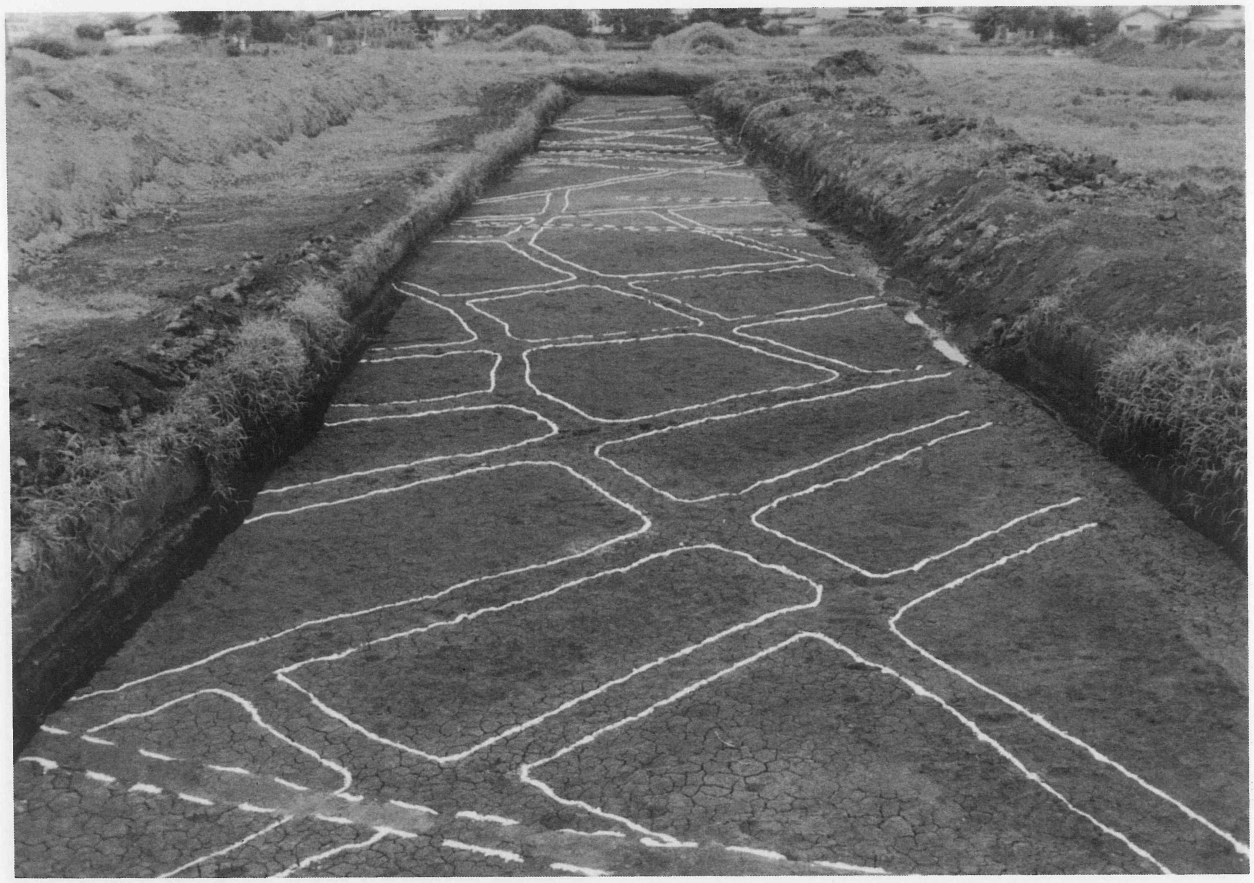
8．E－5区　出土遺物（北から）



1．E－5区　出土遺物（東から）

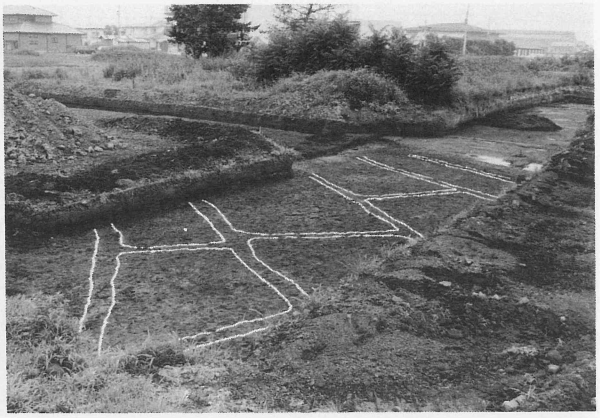


2．E－5区　出土遺物（西から）

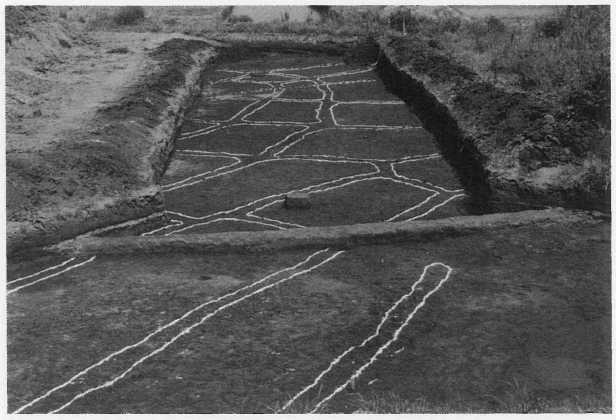


3．B－2区　2　面　全　景　（西から）

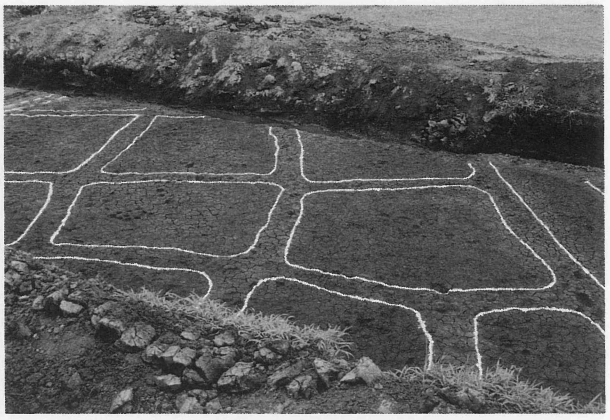
4．A－1区　2面全景（南から）



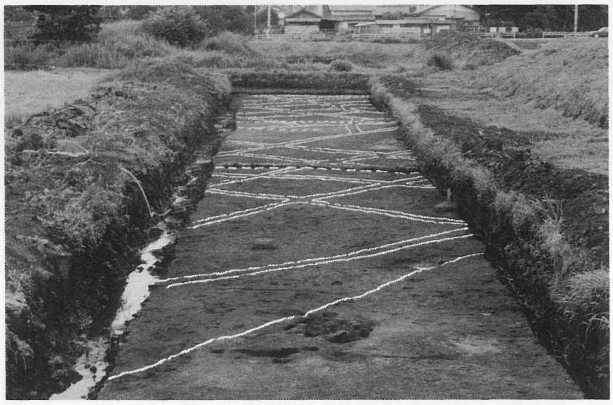
5．A－2区　2面全景（北西から）



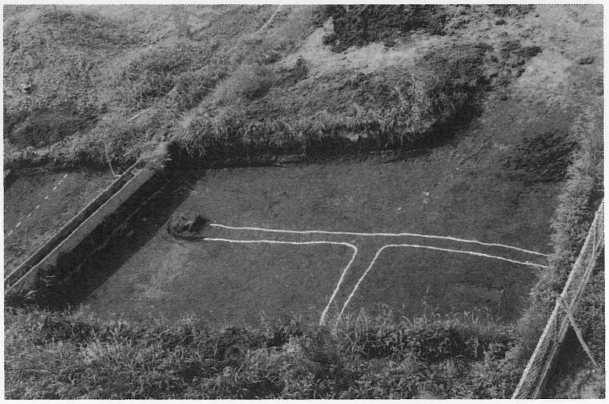
1．B－1区　2面全景（西から）



2．B－2区　2面全景（北から）

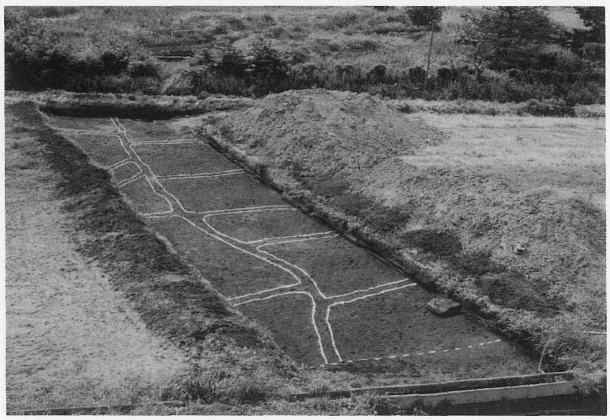


3．B－2区　2面全景（東から）

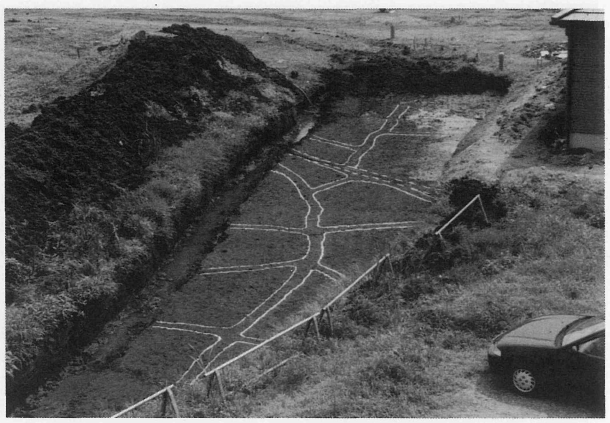


4．C－1区　2面全景（南東から）

5．C－3区　2　面　全　景　（西から）



1．C－1区　2面全景（南東から）



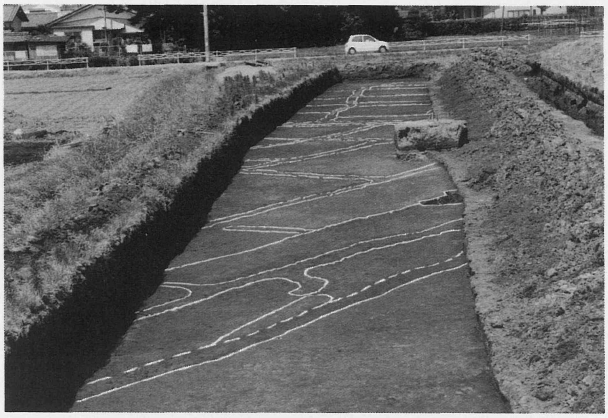
2．C－2区　2面全景（南西から）

3．C－2区　2面全景（東から）

4．C－3区　2面全景（東から）

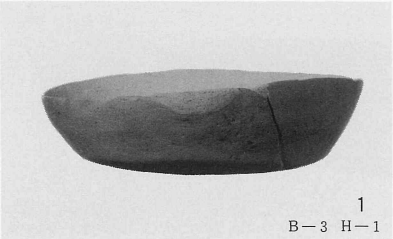
5．E－1区　2　面（北から）

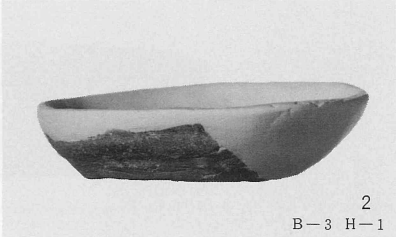
6．E－1区　2面全景（西から）



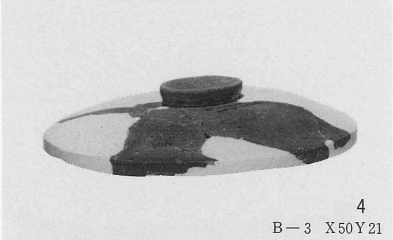
7．E－1区　2面全景（東から）

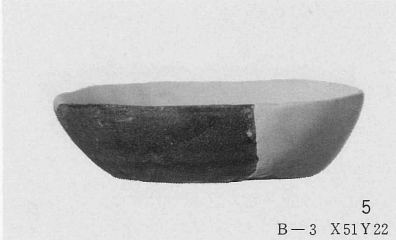
8．調査を終えて

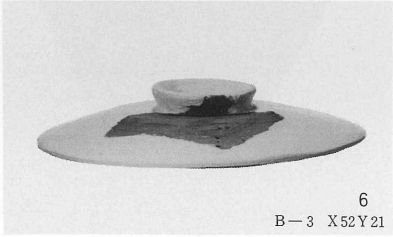

1
B－3 H－1

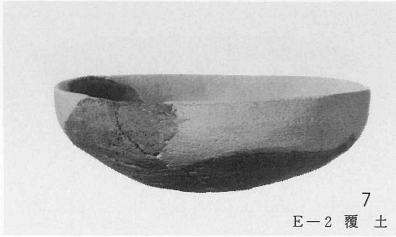

2
B－3 H－1

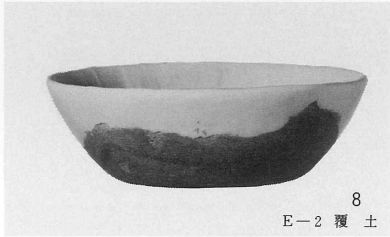
3
B－3 H－4

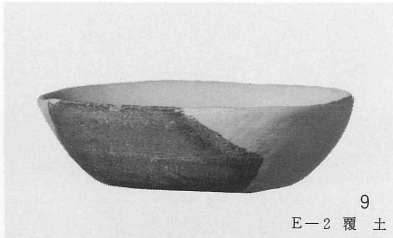

4
B－3 X50Y21

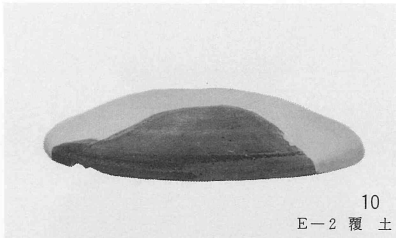

5
B－3 X51Y22

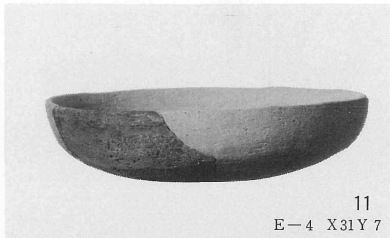

6
B－3 X52Y21

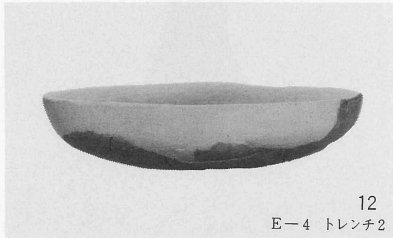

7
E－2 覆 土

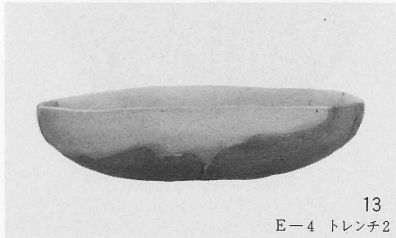

8
E－2 覆 土

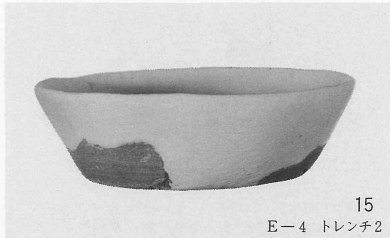

9
E－2 覆 土

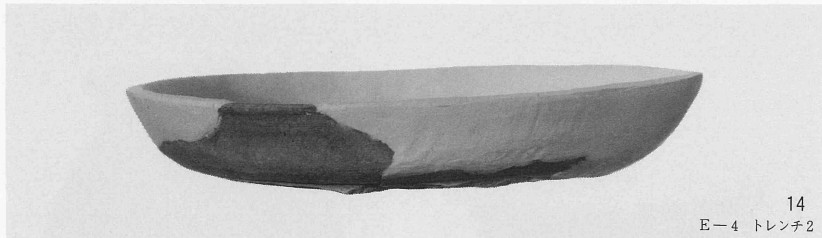

10
E－2 覆 土

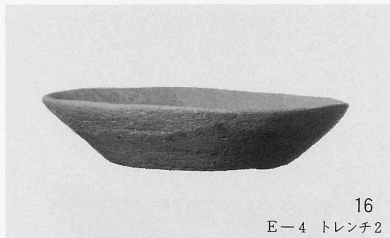

11
E－4 X31Y7

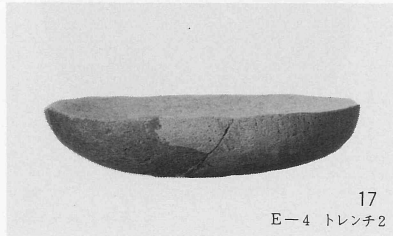

12
E－4 トレンチ2

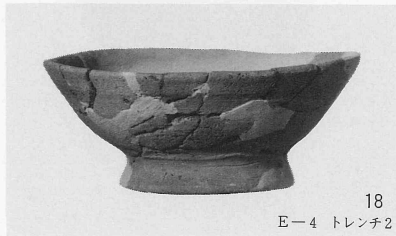

13
E－4 トレンチ2

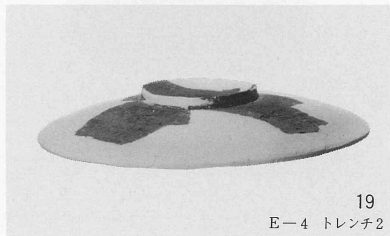

15
E－4 トレンチ2

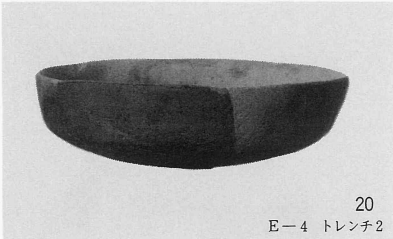

14
E－4 トレンチ2

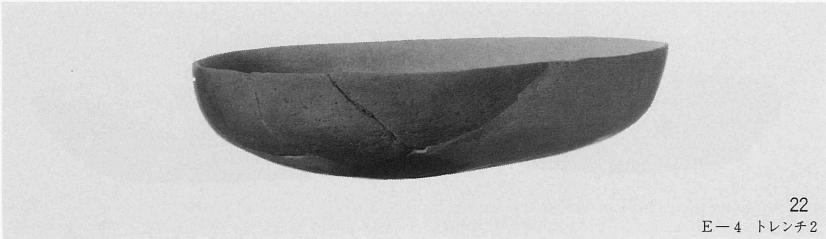

16
E－4 トレンチ2

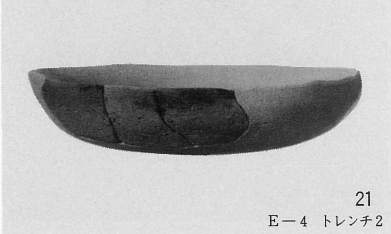

17
E－4 トレンチ2

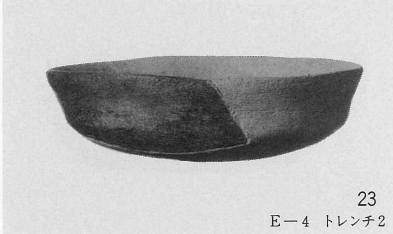

18
E－4 トレンチ2


19
E－4 トレンチ2

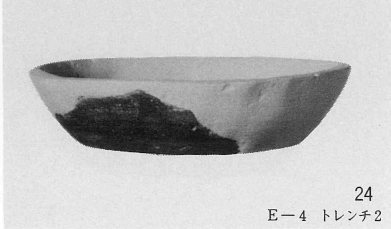

20
E－4 トレンチ2

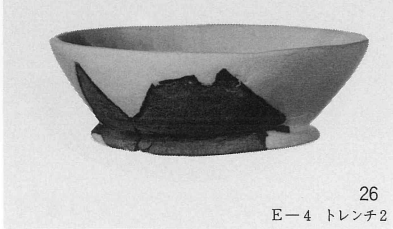

22
E－4 トレンチ2

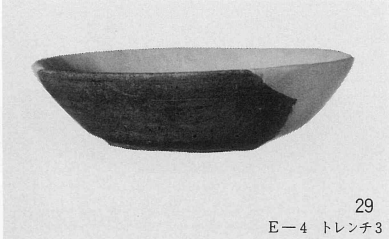

21
E－4 トレンチ2

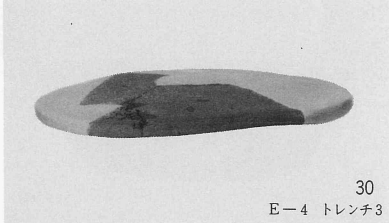

23
E－4 トレンチ2

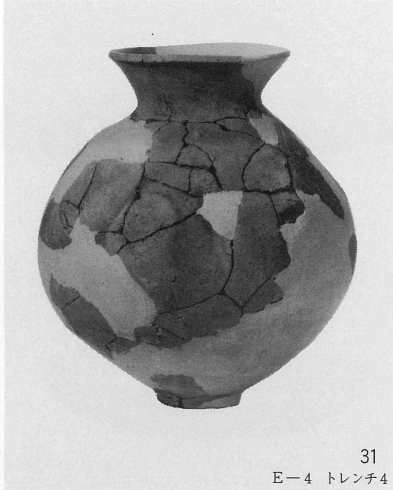
25
E－4 トレンチ2


24
E－4 トレンチ2

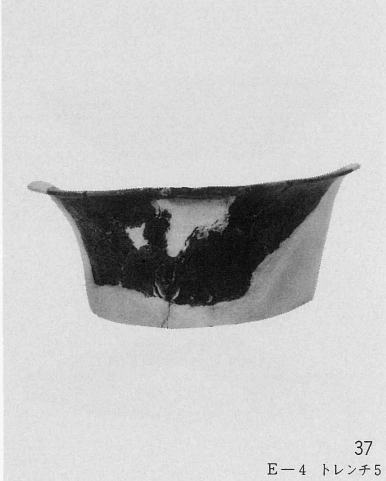

26
E－4 トレンチ2


29
E－4 トレンチ3

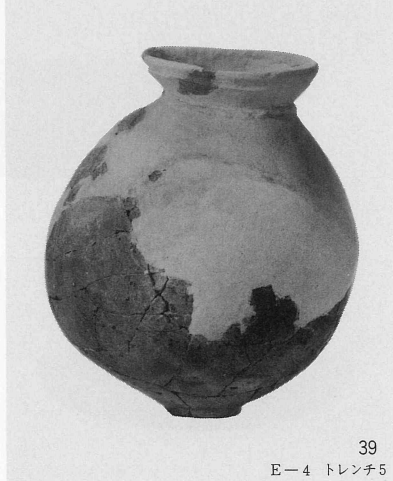

30
E－4 トレンチ3

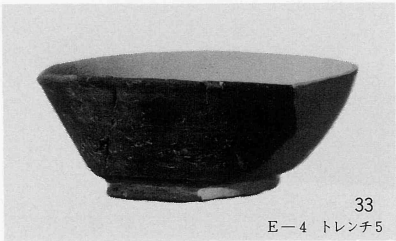

31
E－4 トレンチ4

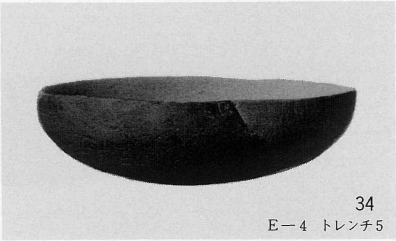
32
E－4 トレンチ4

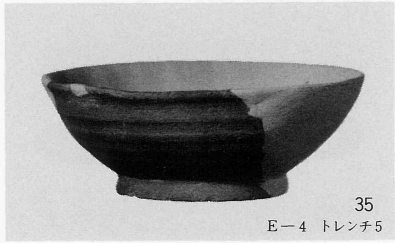

37
E－4 トレンチ5

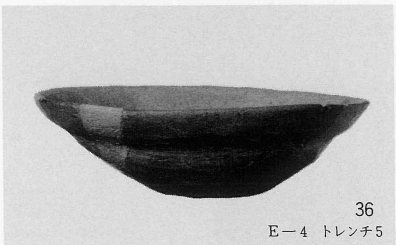
38
E－4 トレンチ5

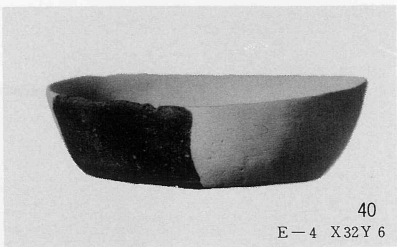

39
E－4 トレンチ5

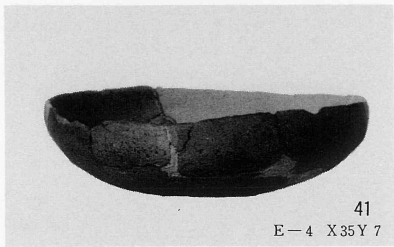

33
E－4 トレンチ5

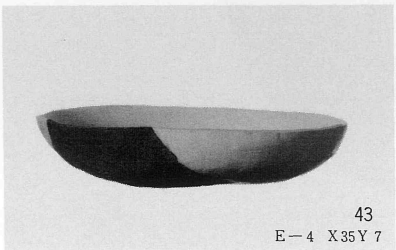

34
E－4 トレンチ5

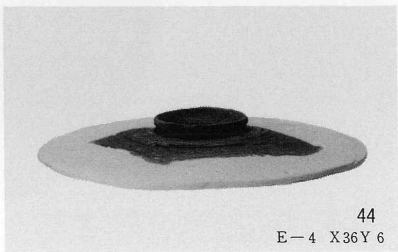

35
E－4 トレンチ5

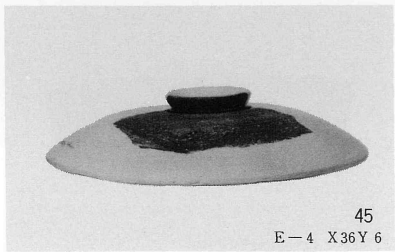

36
E－4 トレンチ5

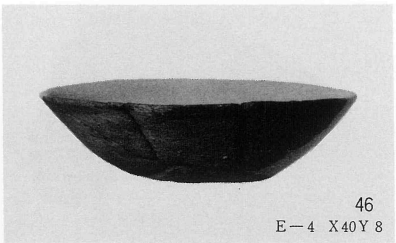

40
E－4 X32Y 6

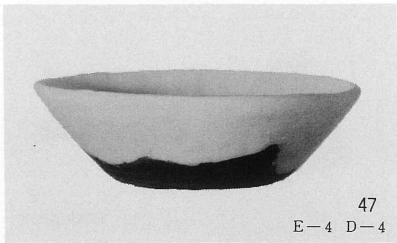

41
E－4 X35Y 7

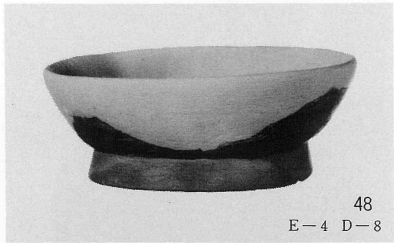

43
E－4 X35Y 7

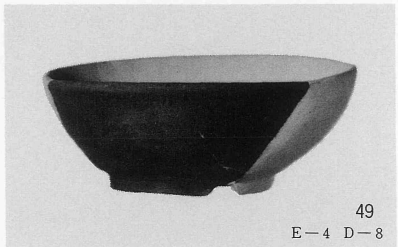

44
E－4 X36Y 6

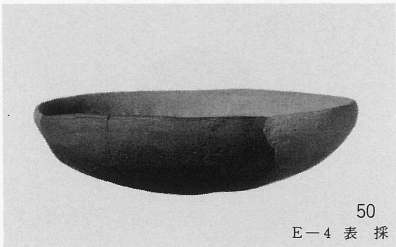

45
E－4 X36Y 6

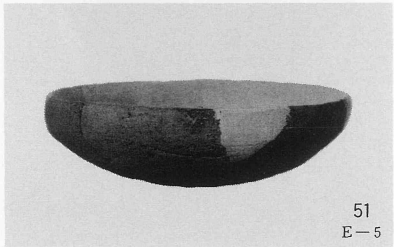

46
E－4 X40Y 8

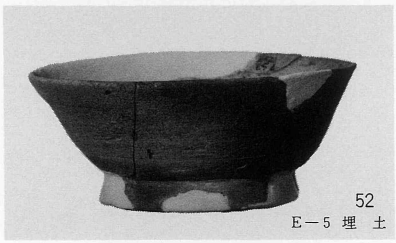

47
E－4 D－4

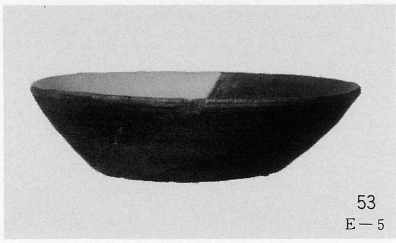

48
E－4 D－8

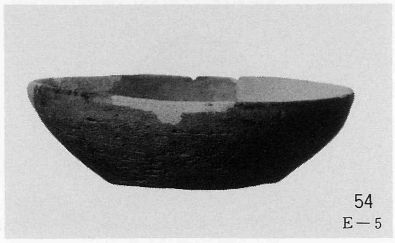

49
E－4 D－8

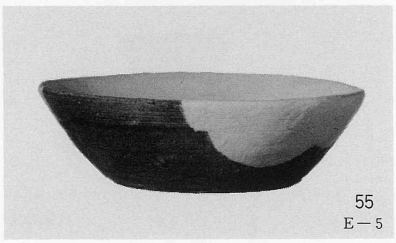

50
E－4 表 採

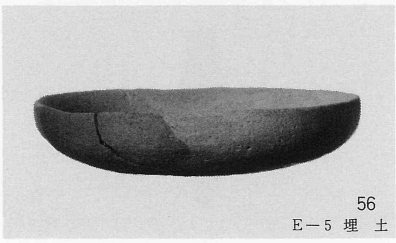

51
E－5

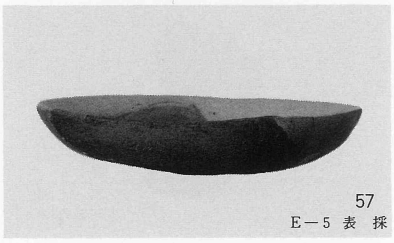

52
E－5 埋 土

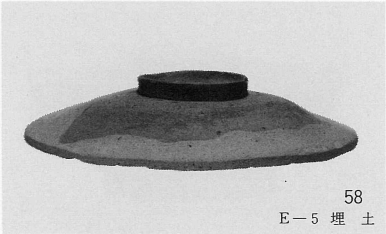

53
E－5

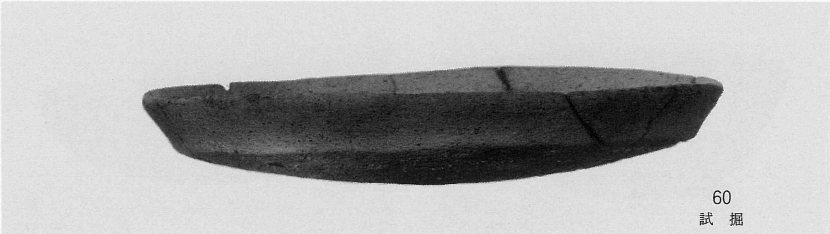

54
E－5

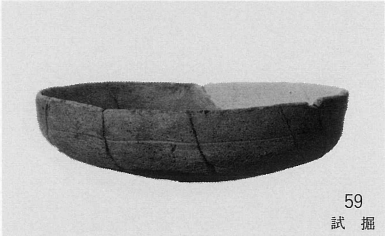

55
E－5

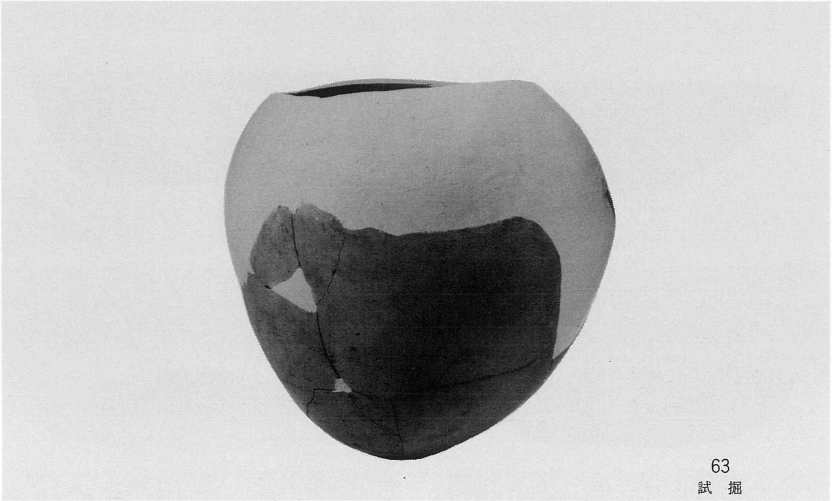

56
E－5 埋 土

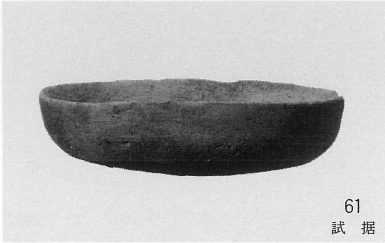

57
E－5 表 採


58
E－5 埋 土

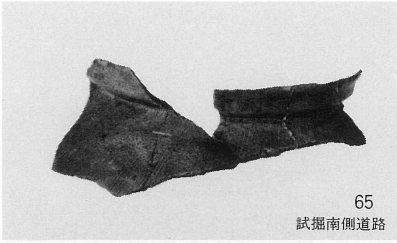

60
試 掘

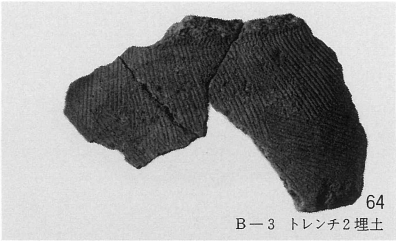

59
試 掘

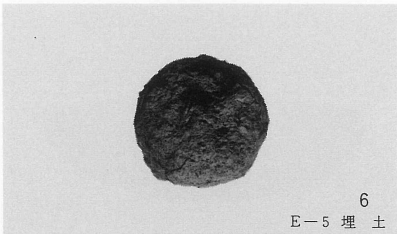

63
試 掘

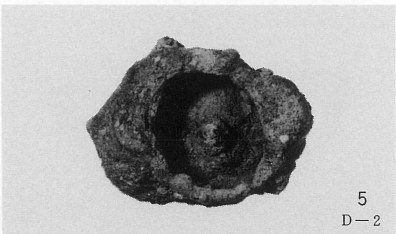

61
試 据

62
試掘南側土坑

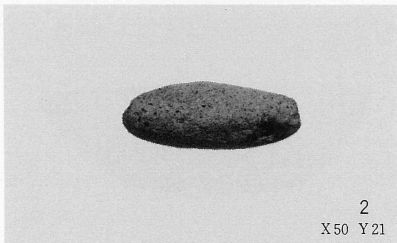

65
試掘南側道路

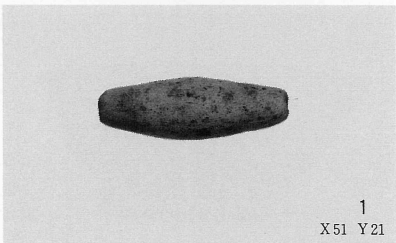

64
B－3 トレンチ2埋土

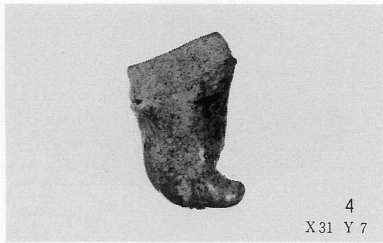

6
E－5 埋 土

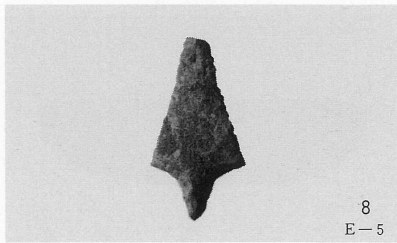

5
D－2

3
X47 Y 7


2
X50 Y21


1
X51 Y21


4
X31 Y 7


8
E－5

9
六供試掘

抄　　録

フリガナ	ロックシモドウギニイセキ
書名	六供下堂木遺跡
副書名	六供土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	坂口好孝　佐藤則和
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒３７１　群馬県前橋市上泉町６６４－４
発行年月日	西暦１９９７年３月19日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
六供下堂木Ⅱ	前橋市六供町	10201	8H22	36° 22′ 03″	139° 04′ 54″	19960501 19960809	5,861㎡	六供土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
六供下堂木Ⅱ	水田址	古墳時代	水田址 136枚	なし	
	住居址	古墳時代	住居址　6軒		
	水田址	平安時代	水田址　37枚	なし	

大胡町文化財蔵書印

都市計画道路朝倉玉村線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

六供下堂木Ⅱ遺跡

平成９年３月15日　印　刷
平成９年３月19日　発　行

編集発行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
群馬県前橋市上泉町664－4
TEL 027－２３１－９５３１
印　　刷　松本印刷工業株式会社